

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価 635円
(本体605円)

クローズアップ Close-up

多重平織りの技法

Layered Weaved Twist-Fold Technique

布施知子

Fuse Tomoko

折り図 Diagrams

ライオン

Lion

川畑文昭

Kawahata Fumiaki



展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

ケルベロス

Cerberus

神谷哲史

Kamiya Satoshi

イベント情報 Event Information

第12回 折紙探偵団コンベンション新着情報

Update on the 12th Origami Tanteidan Convention

通巻 97 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING



表紙解説

ケルベロス
作:神谷哲史 (P.34)

Cerberus
by Kamiya Satoshi (P.34)

■折り紙では、ここまで「徹底する」ことができるのか、と圧倒させられる高密度作品。複雑な線が入り組んだ頭部も非常に魅力的ですが、それを支える胴体にも、デザインのバランスを考慮した情報量が的確に盛り込まれています。

(解説:北條高史) Comments: Hojyo Takashi

ORIGAMI TANTEIDAN
折紙探偵団
 MAGAZINE
 CONTENTS

No. 97



Cerberus : Kamiya Satoshi

クローズアップ / Close-up

P.11 **多重平織りの技法**

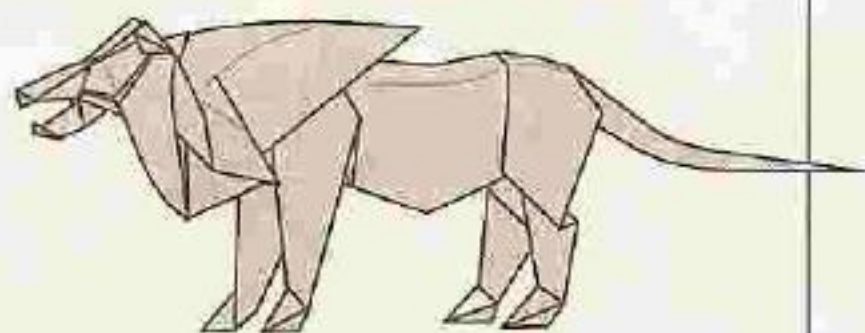
Layered Weaved Twist-Fold Technique

布施知子
Fuse Tomoko

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.22 **ライオン** Lion

川畑文昭 Kawahata Fumiaki



P.34 **展開図折りに挑戦!**

Crease Pattern Challenge!

ケルベロス

Cerberus

神谷哲史
Kamiya Satoshi

カラーページ / Color

P.20 **オリガミ・フォトギャラリー**
Origami Photo Gallery

解説・北條高史
Comments : Hojyo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 **やわらかユニット物語**

The Stories of Mellow Units

丸・三角・四角

Circle, Triangle, and Square.

川村みゆき

Kawamura Miyuki

P.8 **おりがみ我楽多市**

Origami Odds and Ends

ケーキ型ボックス

Cake-Shaped Box

やまぐち真

Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

P.14 **アフタヌーン・オリガミ**

Afternoon Origami

ミトラの友人たち

Making friends with the Mitra

デビッド・ブリル

David Brill

翻訳：羽鳥公士郎

Translator : Hatori Koshiro

P.16 **おりがみ庵 跳び歩き**

Origamian's Quest for Origami Archives

折鶴の洋行

Oridzuru Goes West

岡村昌夫

Okamura Masao

P.18 **しつこく折紙散歩**

Origami Sampo. Doggedly Determined

五月五日の兜

Samurai helmets on May 5th

前川 淳

Maekawa Jun

P.32 **ラングさんの丹波篠山訪問記**

Robert J. Lang Visits Fujimoto in Sasayama, Hyogo

取材：西川誠司、北條高史

Reporter: Nishikawa Seiji, Hojyo Takashi

コラム / Columns

P.7 **折り紙の周辺**

Origami and Its Neighbors

布施知子

Fuse Tomoko

P.30 **おりすじ**

Orisuzi ("Fold-Creases")

宮本宙也

Miyamoto Chuya

P.31 **折紙三昧**

Origami-Zanmai (This Origami and That)

前川 淳

Maekawa Jun

情報 / Information

P.35 **つまみおり** Rabbit Ear

第12回折紙探偵団コンベンション情報

Update on the 12th Origami Tanteidan Convention



川村みゆき
Kawamura Miyuki

第18話 丸・三角・四角

Circle, Triangle, and Square.

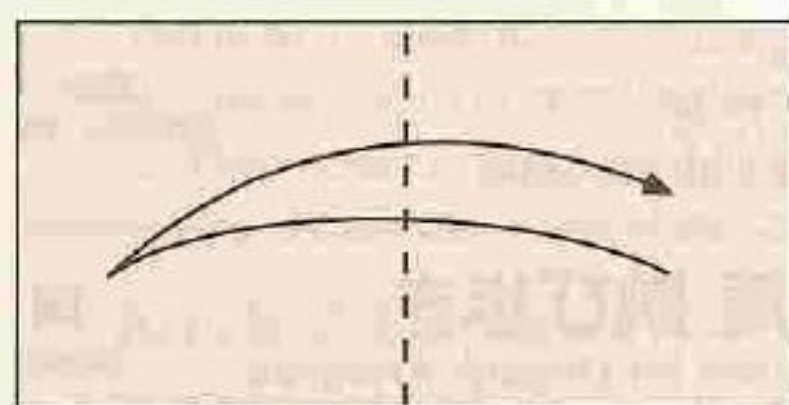
丸いコップも横から見れば四角い形。折紙作品でも、四角だと思っていた部分が実は三角だったり、三角のカドが丸い曲線を形作っていたり。違う形に見えても元は案外同じだったりします。素敵な関係見つけて下さい。

A round glass has a rectangular shape if we see it from the side. The relation like that exists in origami works too. For instance, a square corner consists of the triangle, a triangular corner forms the curve. What relation do you find?

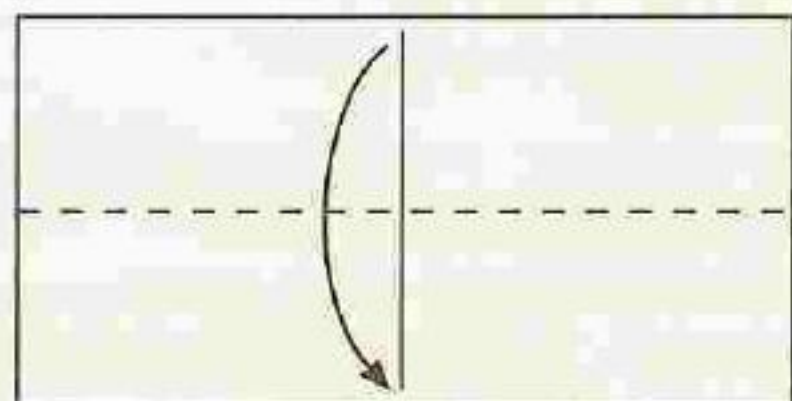


【インフィニィ】 INFINY

©2006 Miyuki Kawamura
Created 20060421



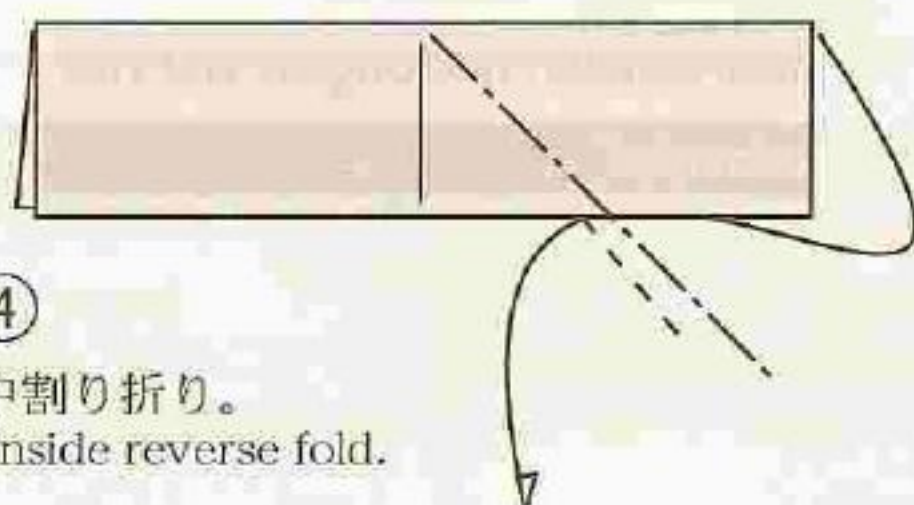
① 2:1 の長方形
2:1 rectangle



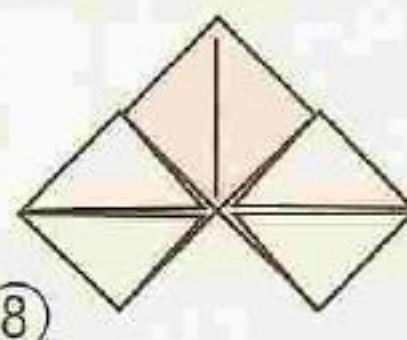
②



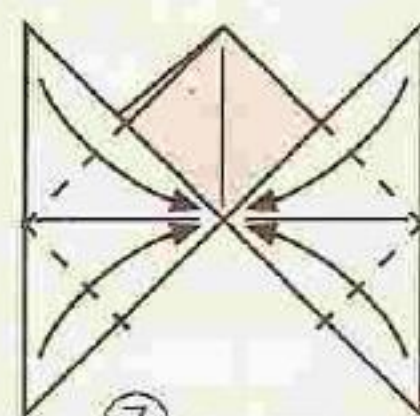
③



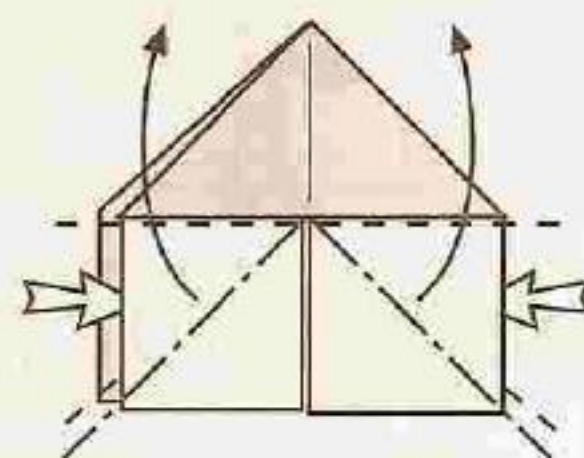
④ 中割り折り。
Inside reverse fold.



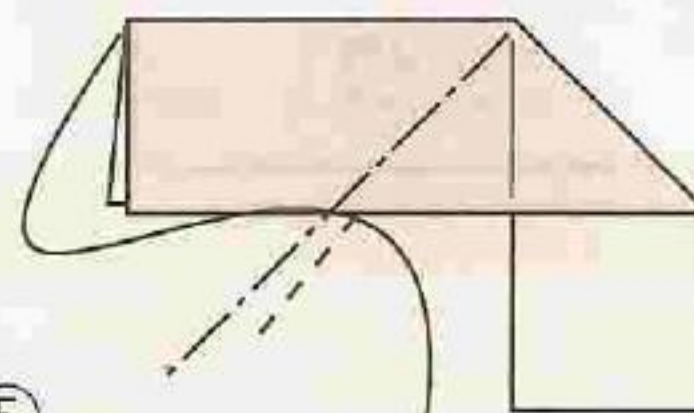
⑧



⑦



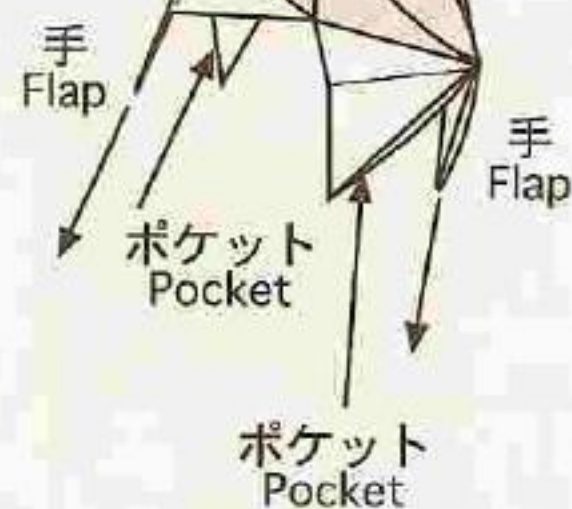
⑥ ポケットを開いてつぶす。
Open the pockets and squash.



⑤ 中割り折り。
Inside reverse fold.

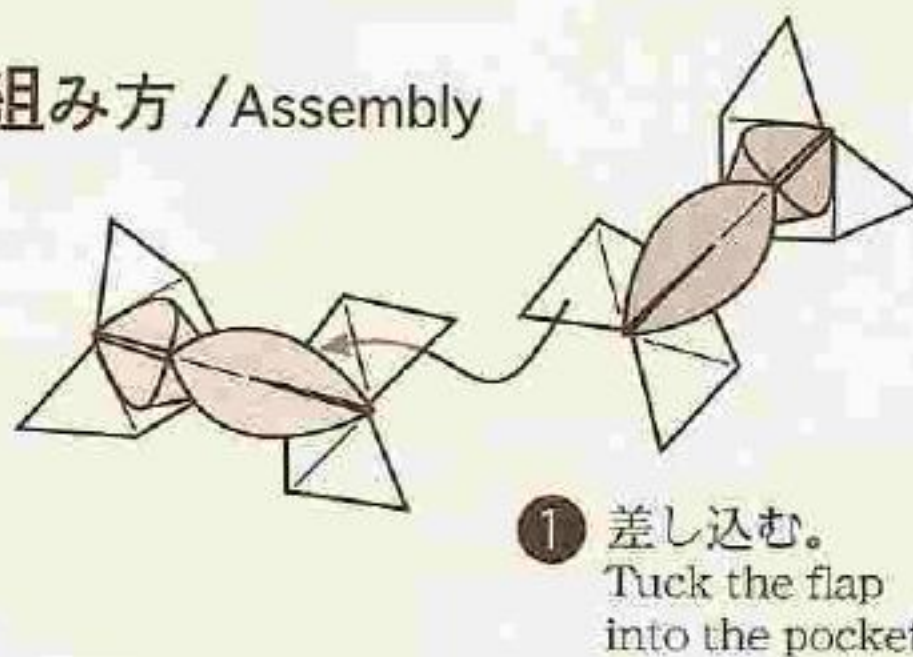
- ⑩ 4つのカドを降ろす。
Pull the four corners
down.

- ⑪ 隙間を広げて花びらの
形になるように整える。
Open the two pockets
and make petal shapes.



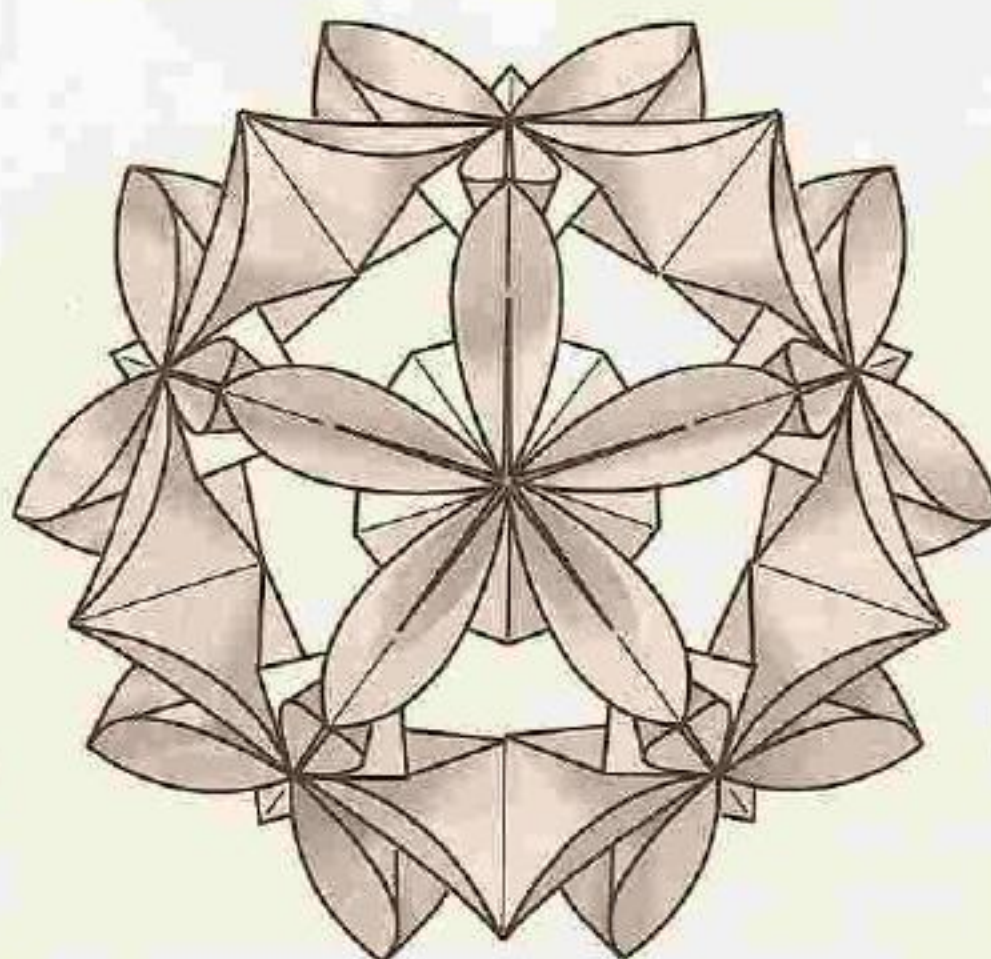
「インフィニ」のユニット
The INFINY unit
同じものを 30 枚作ります。
You need 30 units.

組み方 / Assembly



- ② 差し込む。
Tuck the flaps
into the pockets.

- ③ 残りのユニットも
同様に組んでいく。
Tuck and assemble
the other units in
the same way.

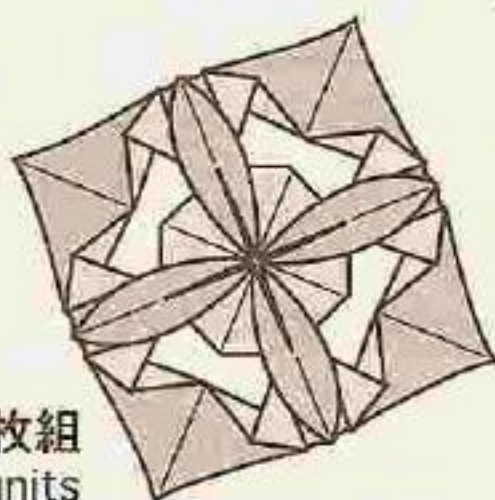
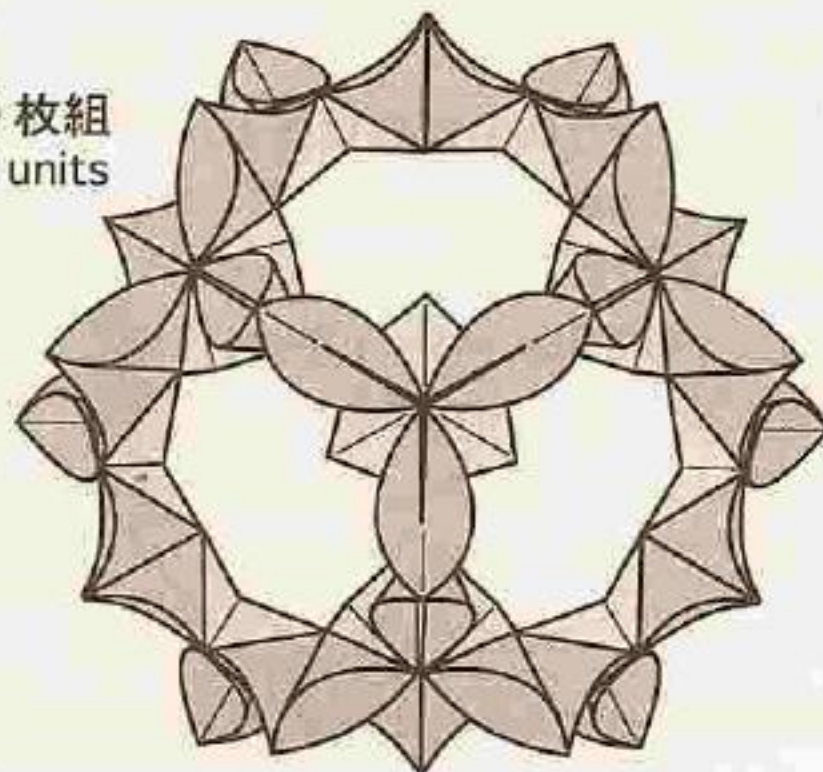


「インフィニ」
30 枚組
INFINY
30 units

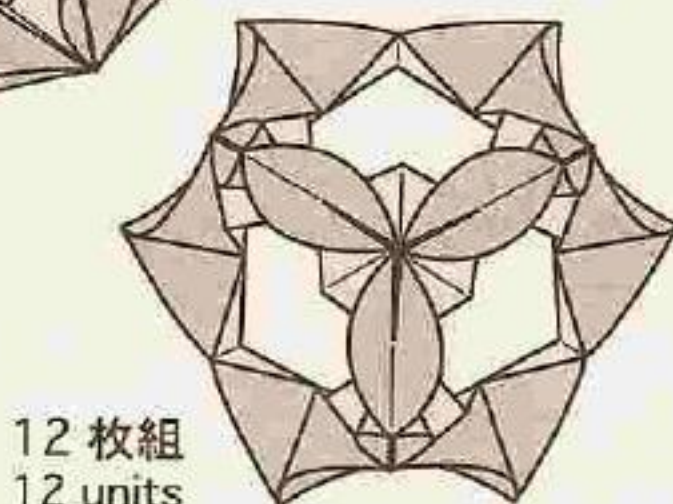


6 枚組
6 units

30 枚組
30 units



12 枚組
12 units

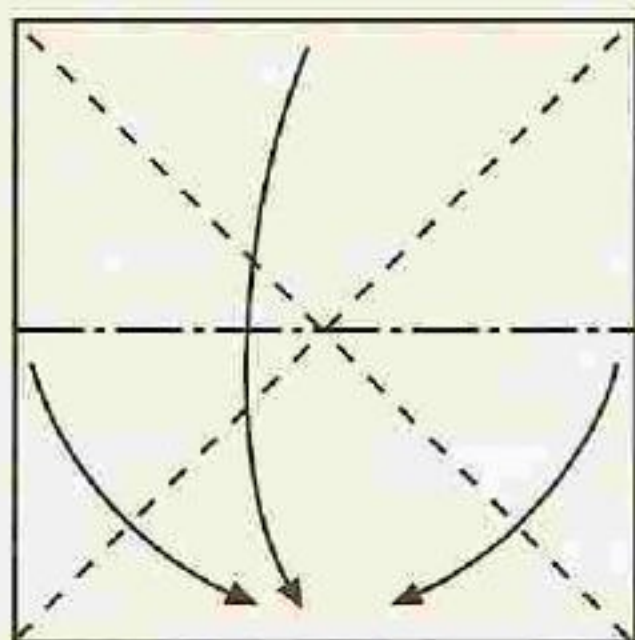


12 枚組
12 units

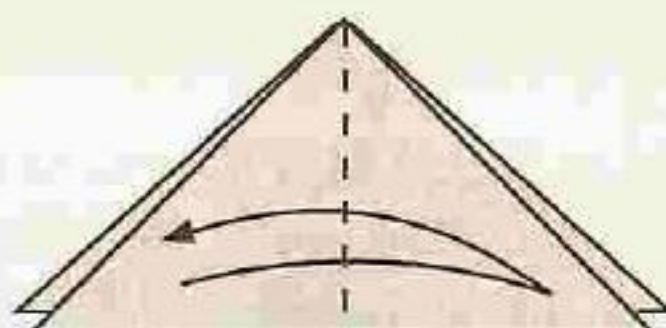
【インフィニィ 2】

©2006 Miyuki Kawamura
Created 20060513

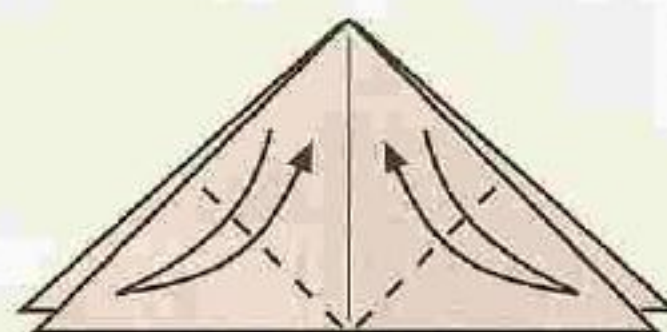
INFINY 2



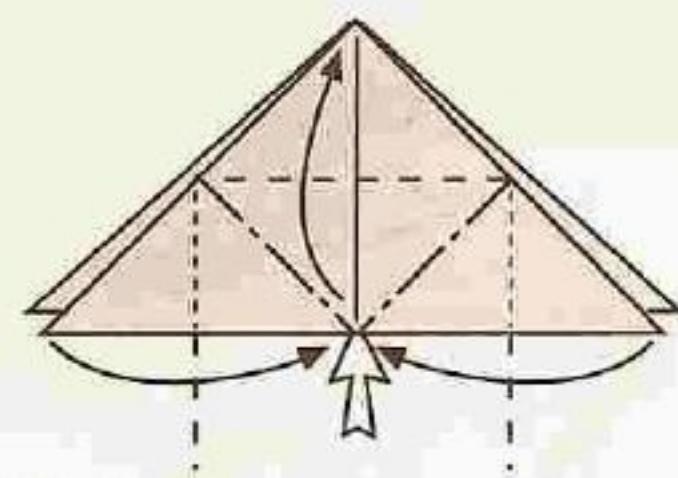
①



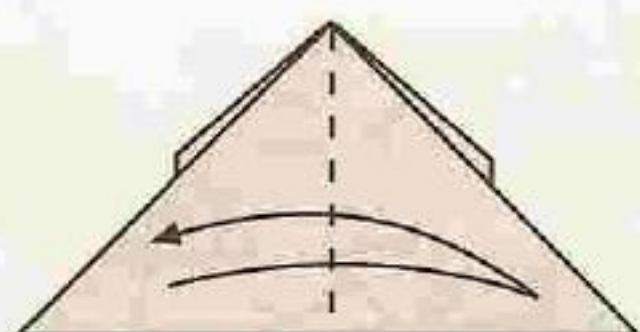
② 1枚だけ折り目をつける。
Fold only the upper layer
and unfold.



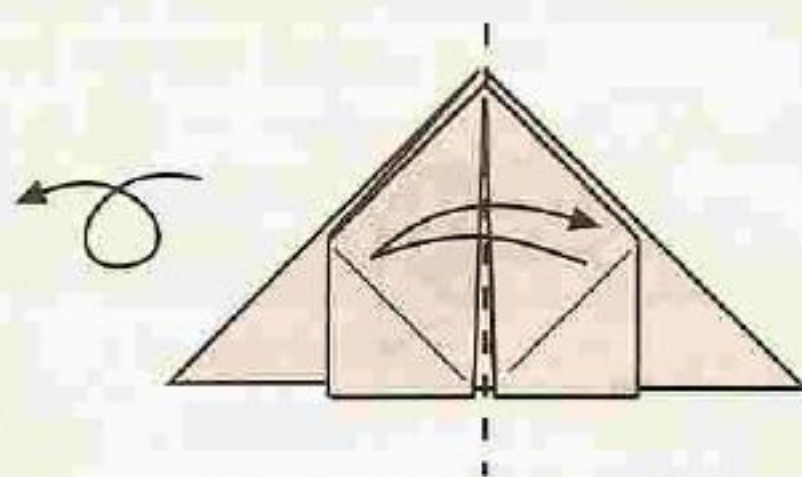
③ 上の三角だけ
折り目をつける。
Fold only the upper
flaps and unfold.



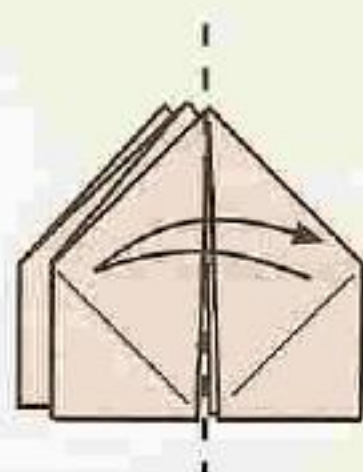
④ 1枚だけ折り上げてたたむ。
Fold up the upper layer
and swivel the side flaps.



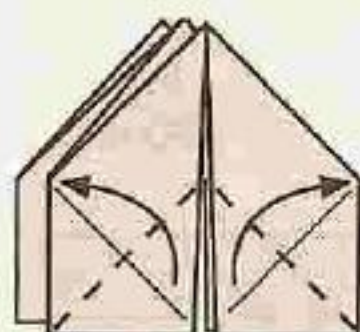
⑥ こちらも同様に折る。
Do the same steps.



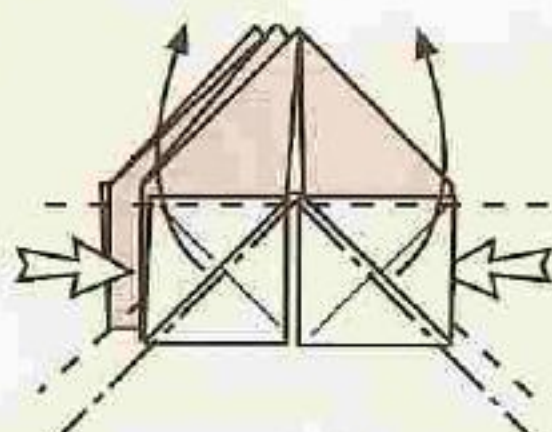
⑤ 1枚だけ折り目をつける。
Fold only the upper layer
and unfold.



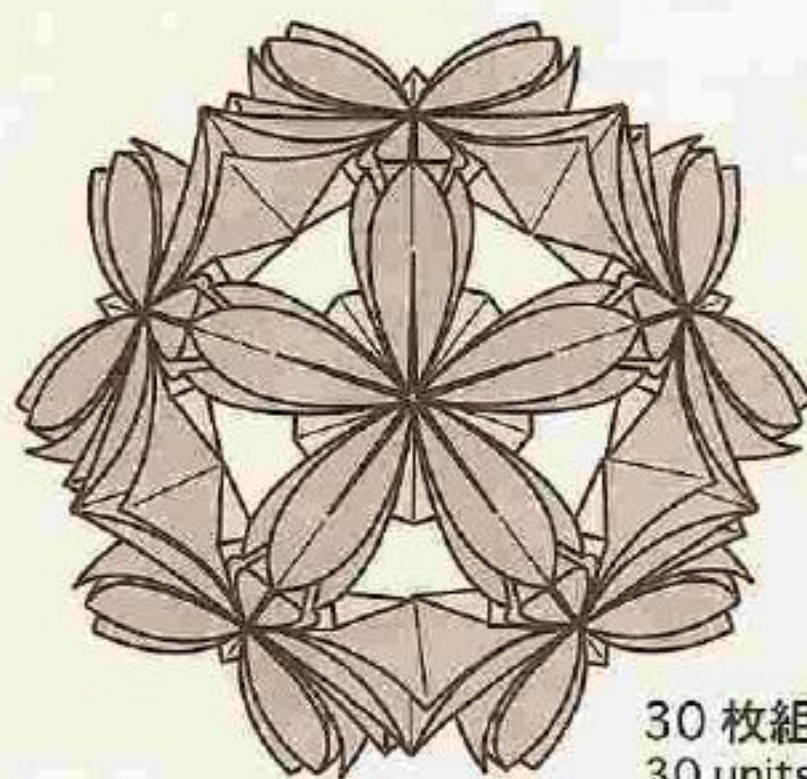
⑦ 1枚だけ折り目
をつける。
Fold only the upper
layer and unfold.



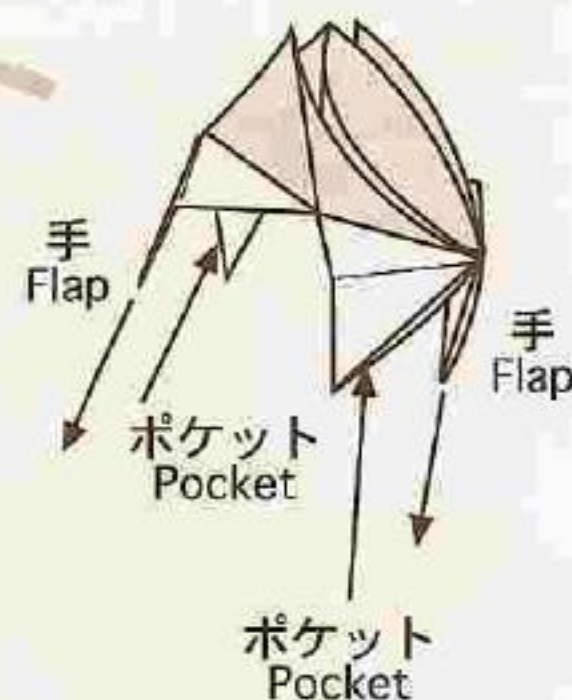
⑧ 向こう側も同様に折る。
Do the same on the
opposite side.



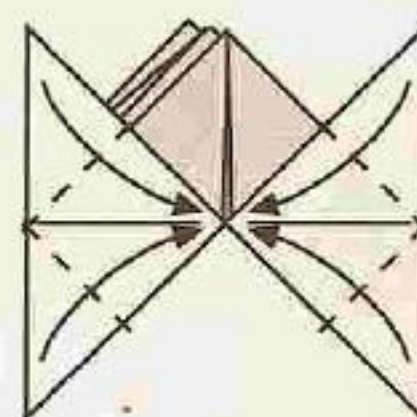
⑨ ポケットを開いてつぶす。
Open the pockets and squash.



30 枚組
30 units



「インフィニィ 2」のユニット
The INFINY 2 unit

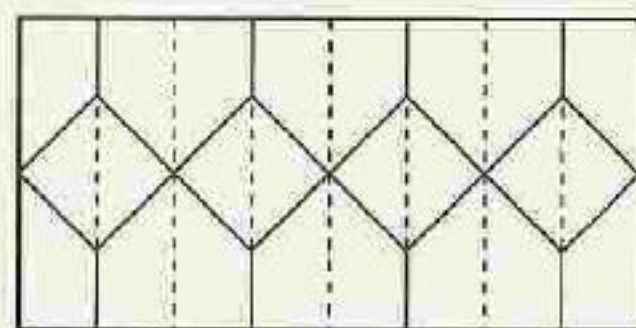


⑩ 後はインフィニィの⑦～⑪と
同様に折る。
Do the same steps as ⑦ to ⑪
of the "INFINY".

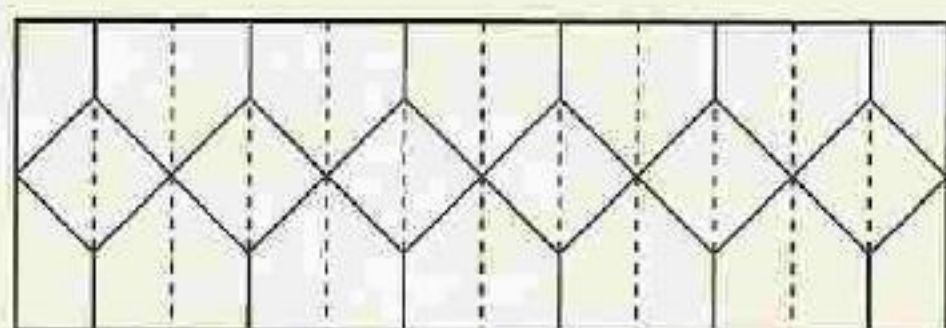
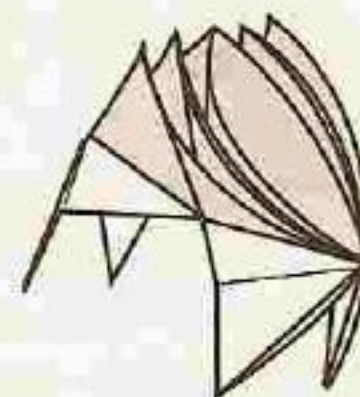
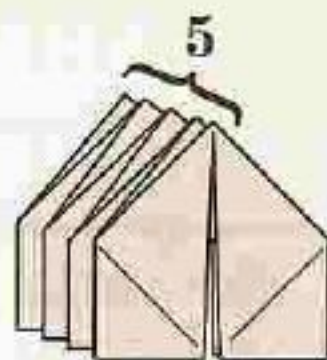


バリエーション Variations

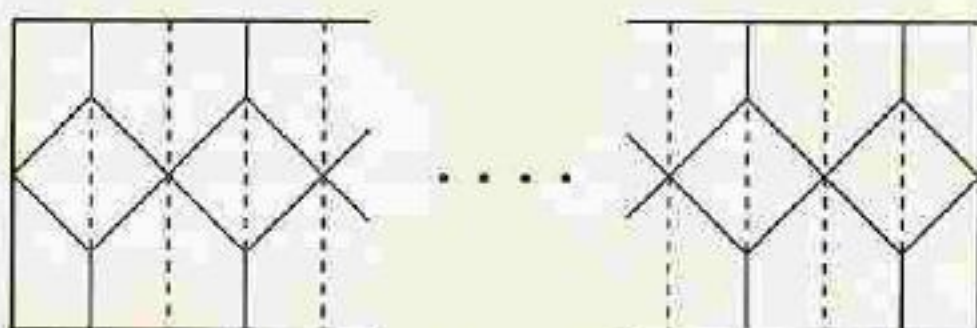
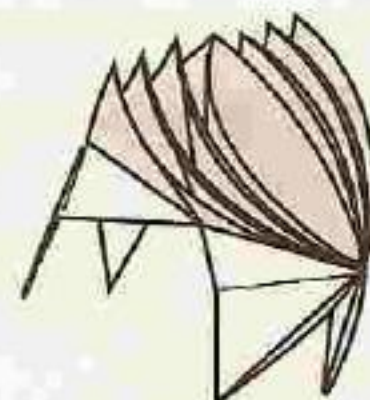
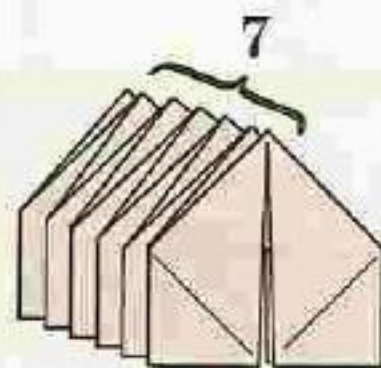
1 : n の長方形を使うと、 $2n+1$ 枚の三角ができます。(n は自然数)
You can make a module with $2n+1$ flaps by using a 1 : n rectangle.
("n" is a natural number)



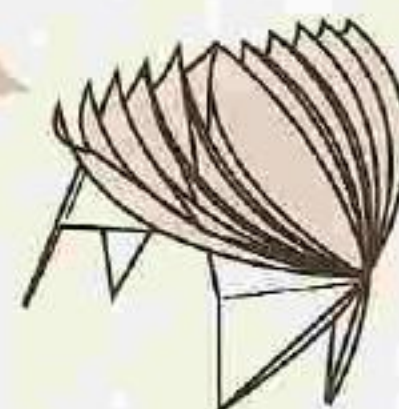
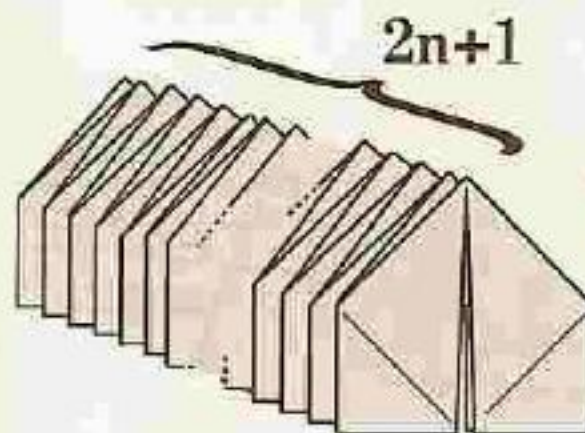
1 : 2 の長方形 / 1 : 2 rectangle



1 : 3 の長方形 / 1 : 3 rectangle



1 : n の長方形 / 1 : n rectangle



折り紙の 周辺

第17回 新しい春に Spring Has Sprung Everywhere

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

オオルリがなき、クレソンが伸び、虫がきらきらと舞い始め、コナラの新芽で装われた山はぼやぼやして子猫のよう。春はつくづく嬉しい。

3戸しかない集落の1戸が退出されることになった。お年を召されて車の運転がむずかしくなったことも原因のひとつらしい。この冬中玄関までの雪道に足跡がなかったから、あるいはと

思っていた。ときどき戻って来られると思うが、田畑の荒れゆく様を見ることになるのだろうか。このあたりに誰か若い人が来ると一気に活気づくだろうね、と主のいない庭にさくチューリップを見ながらタロ氏と話した。

4月に八坂折り紙クラブと長野県の折り紙グループ「りんどう」を核とした方々との交流会が八坂の宿泊施設で持たれた。ささやかな会であったが、人と人を引き寄せ合う折り紙の懐の深さを感じた。食事のとき、漬け物や煮物や、持ち寄りのタッパが忙しく回り、なつかしい風景に出会った、と遠路おいでになった方がおっしゃっていた。八坂のみなさんは高齢でもあり見渡せる範囲で折り紙をたのしんでいらっしゃる。交流も急がずにゆるゆるとやっていこう。

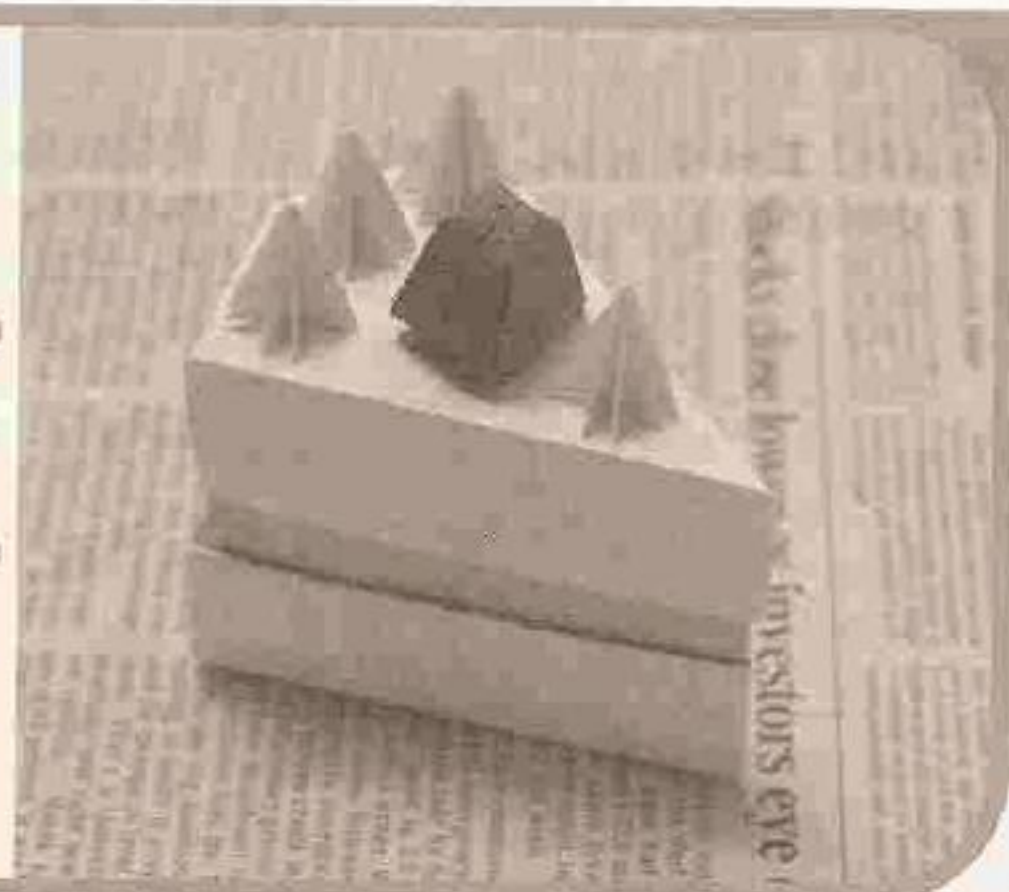
それにしても、会をするための準備をしたり、折り紙の広がりやを押し進めるためにあれこれ動いたり、欲得ではなくたくさんの時間と力を注ぐ人の何と多いことか。国内に限った事ではない。いろんな国で情熱を持って熱心に、ときには辛抱強く大勢の人が折り紙の周りで動いている。なぜだろう。それが折り紙の力と言ってしまうとそれまでだけど。とにかく、みなさんありがとう。

さて、動き始めたJOASホールで4月から折り紙教室を始めている。今のところ人の集まり具合はぼつぼつでどうなるかわからないが、続けることができれば、時間も3時間半とたっぷりだし、計画をねってたのしい教室にしたいと思っている。

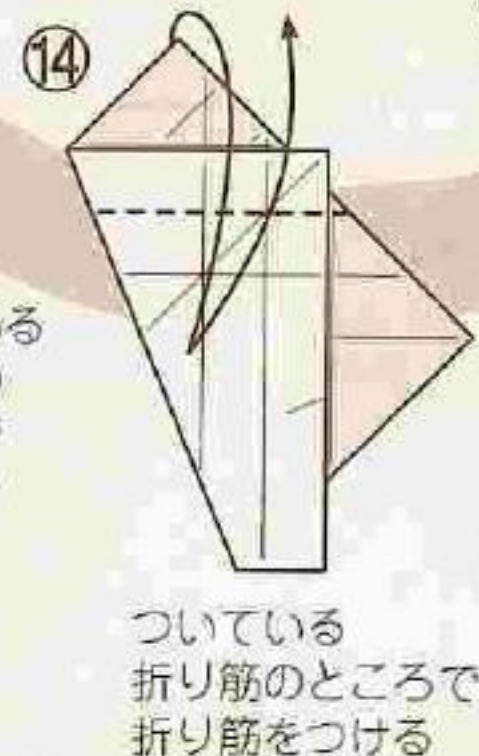
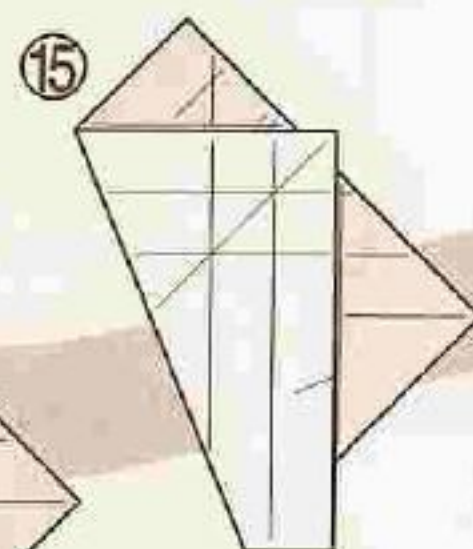
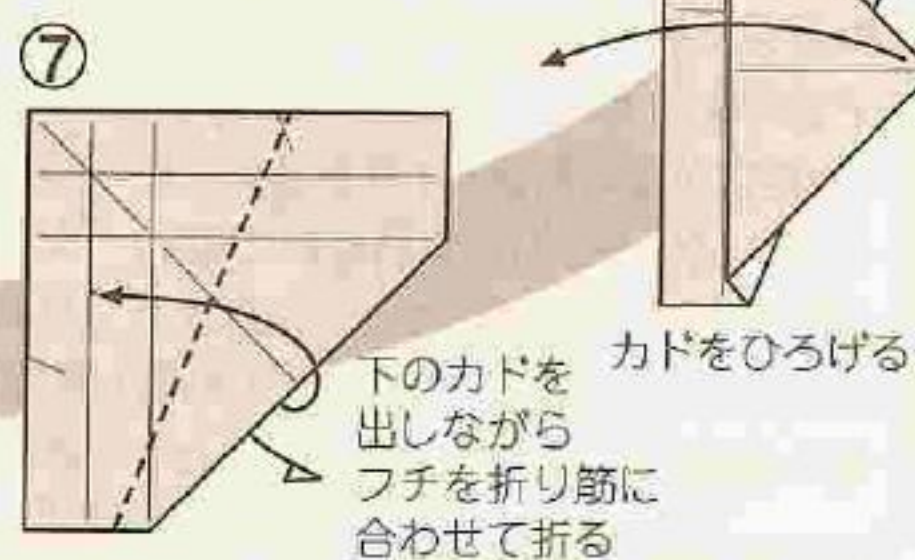
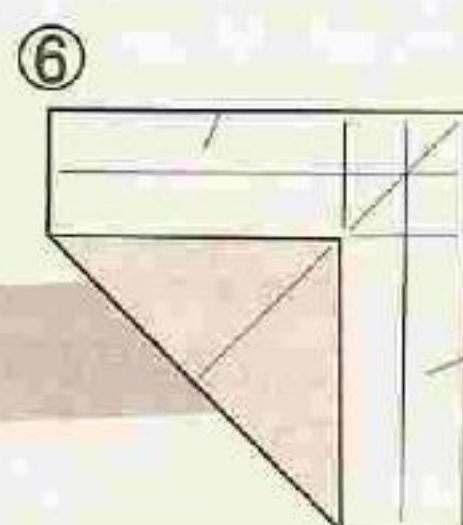
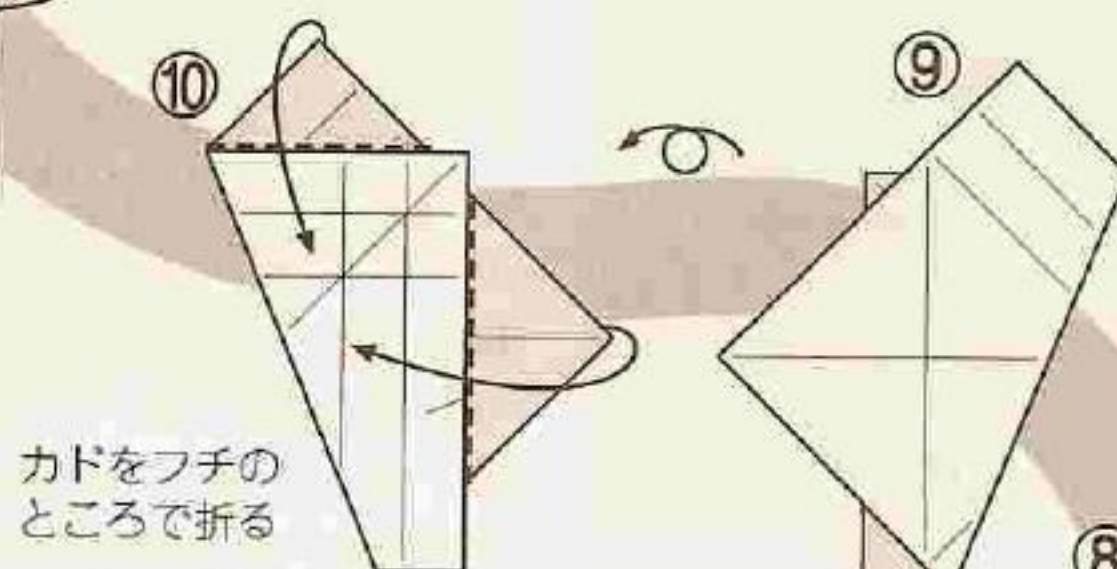
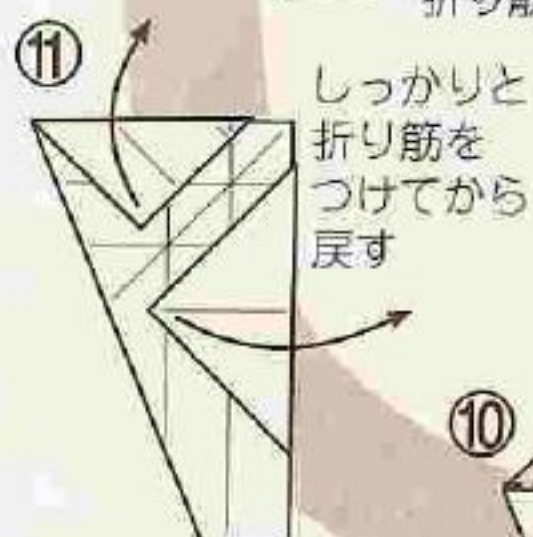
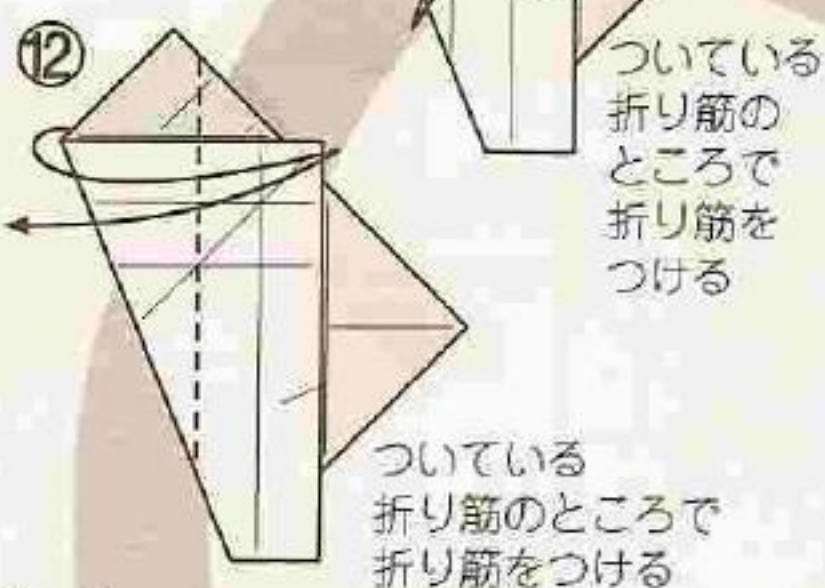
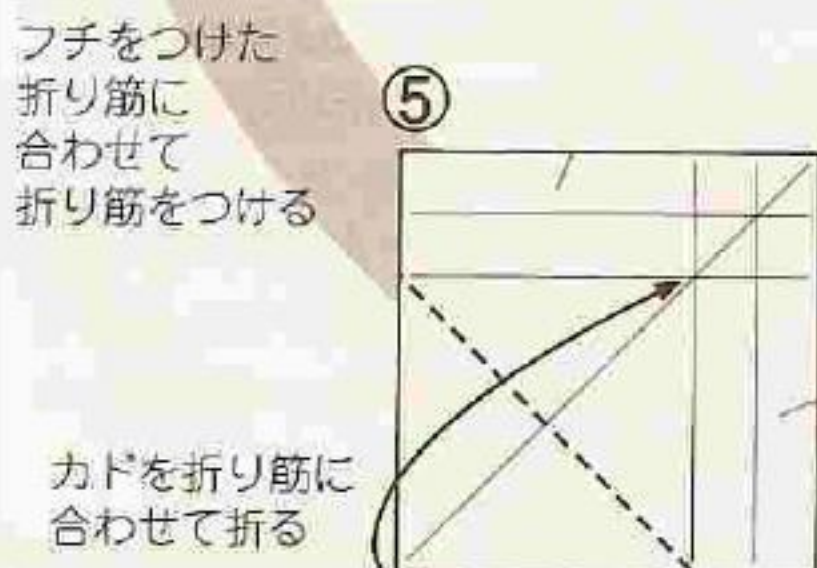
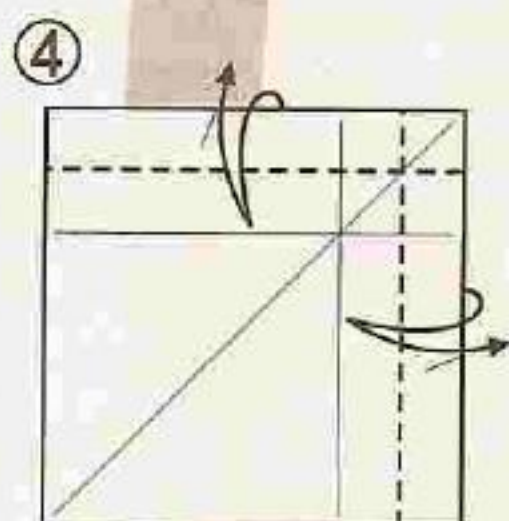
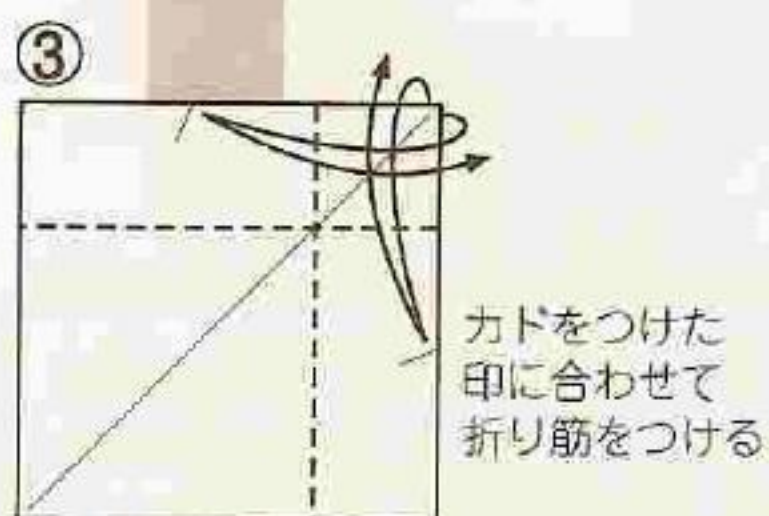
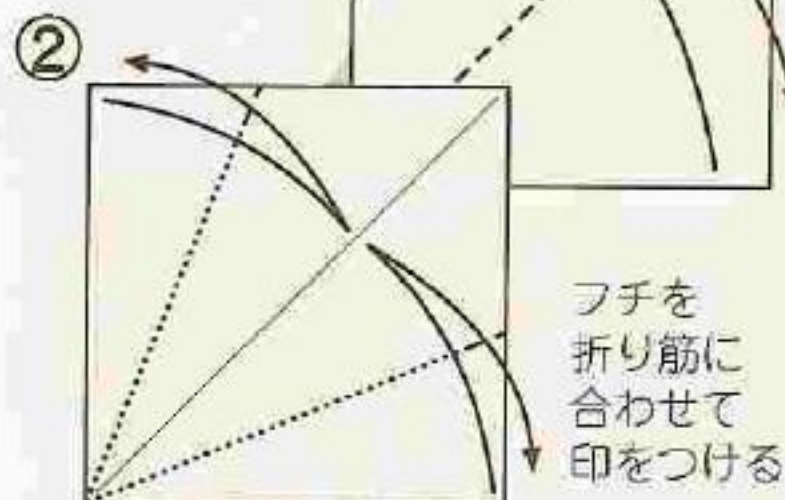
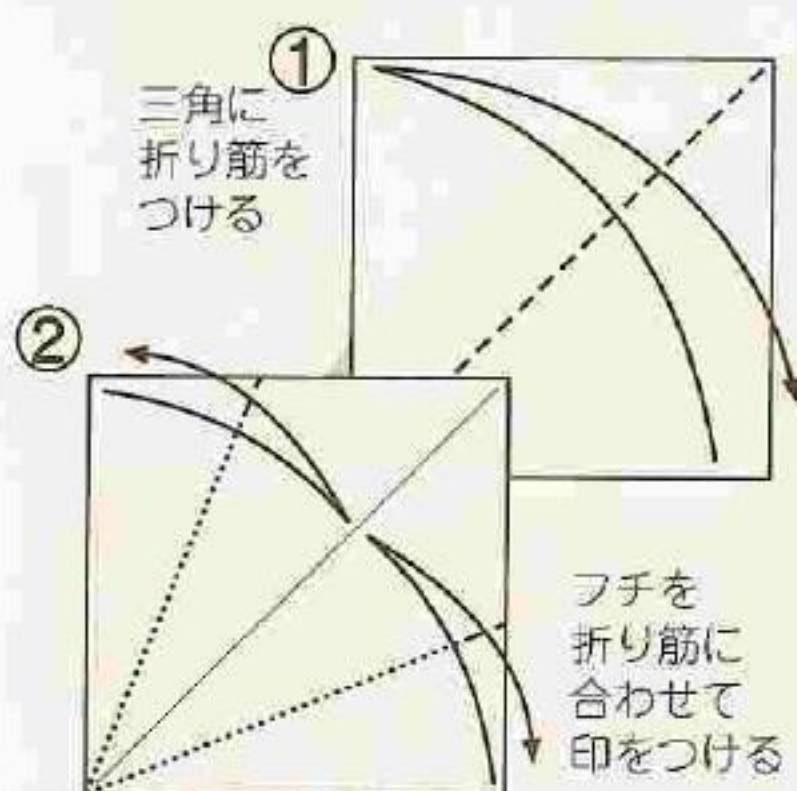
第18回 ケーキ型ボックス

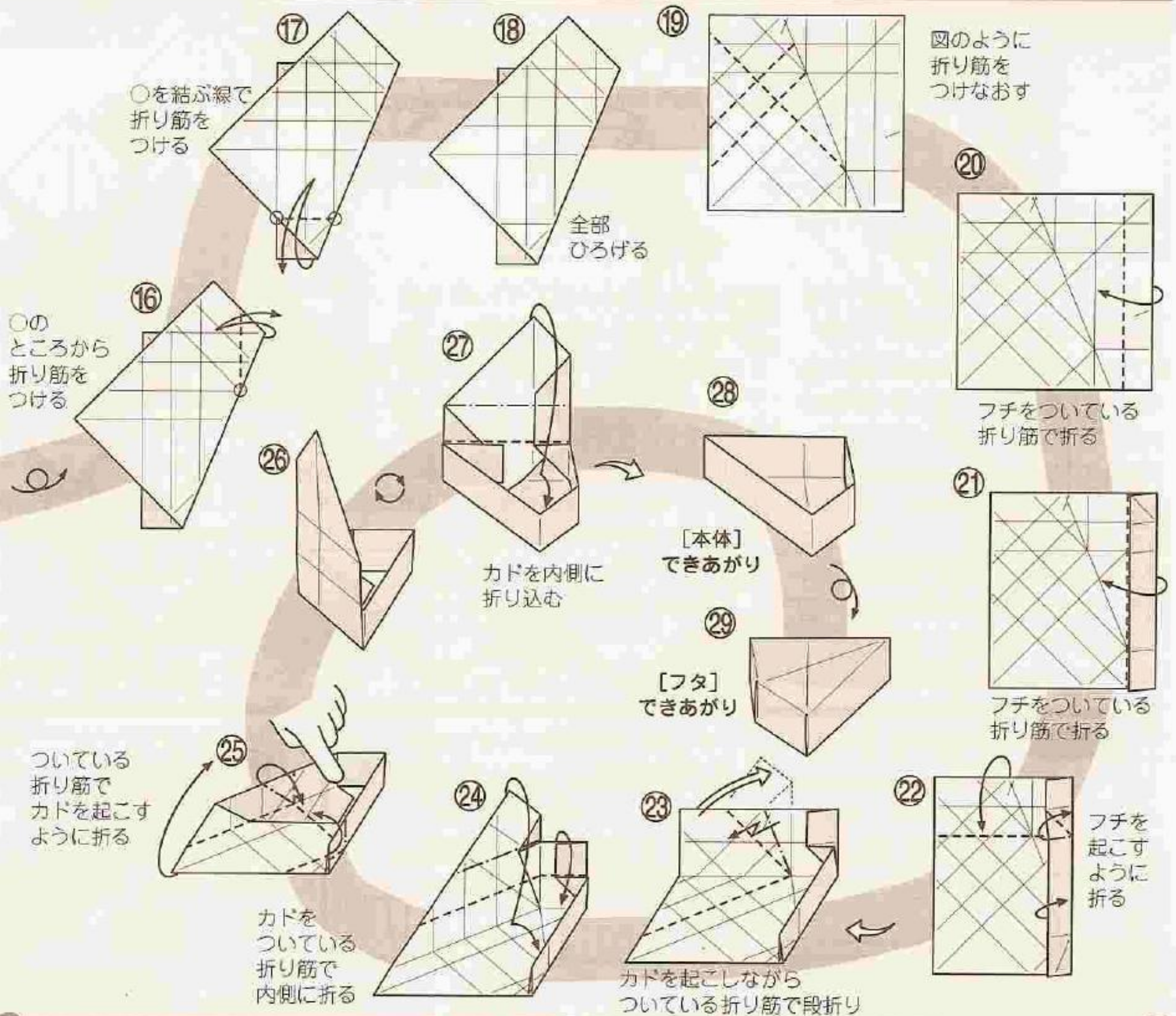
Cake-Shaped Box

拙作「ショートケーキ」の形に近い箱を作ることができました。なるべく簡単にできるように、フタと本体を同じパーツにしました。この上下部分の構造がこの作品のキモです。まん中のイチゴのクリーム部分は、フタをとるときに一緒に外れてしまうので、のり付け必須です。

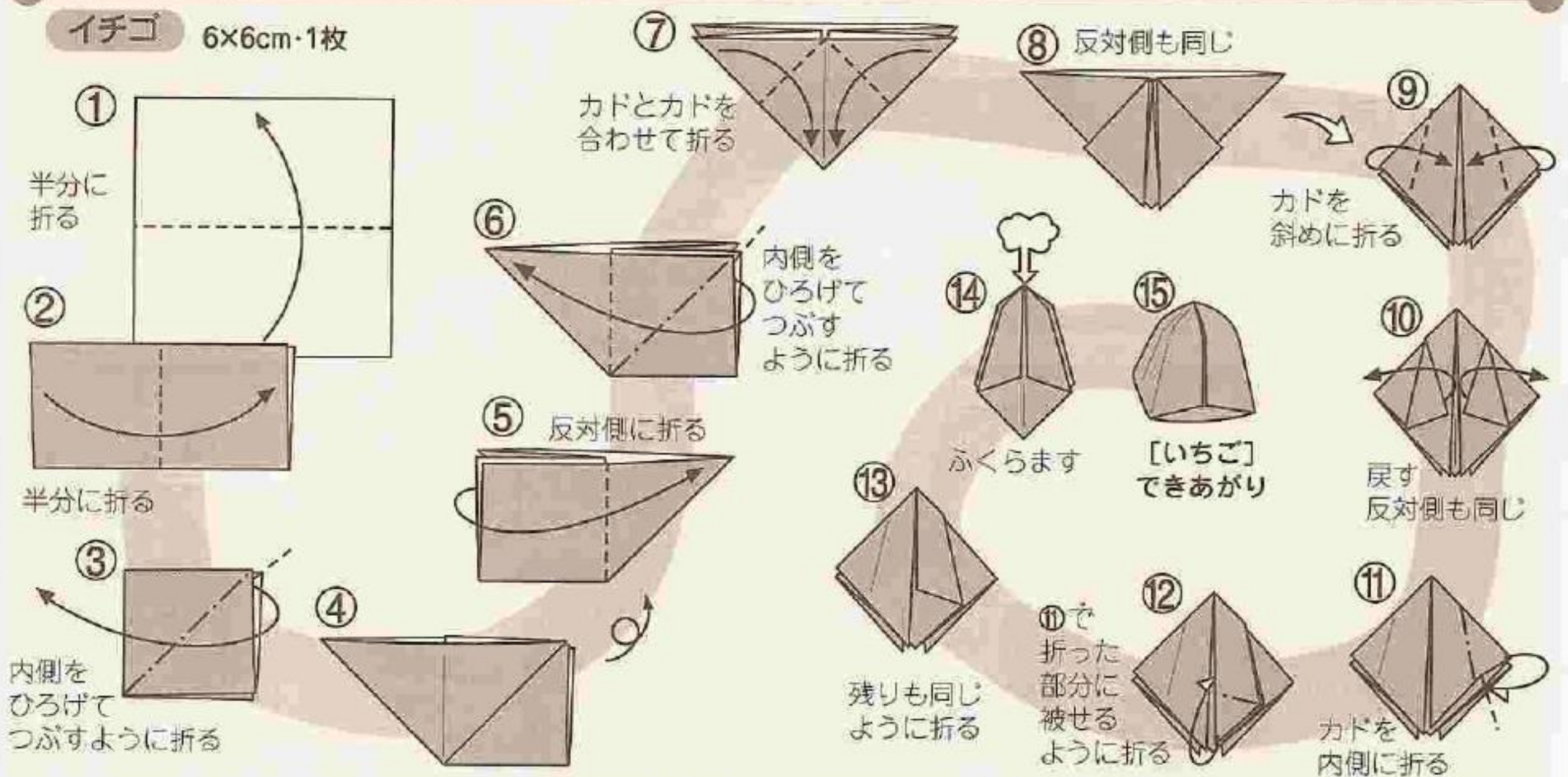


フタ・本体 15×15cm・2枚

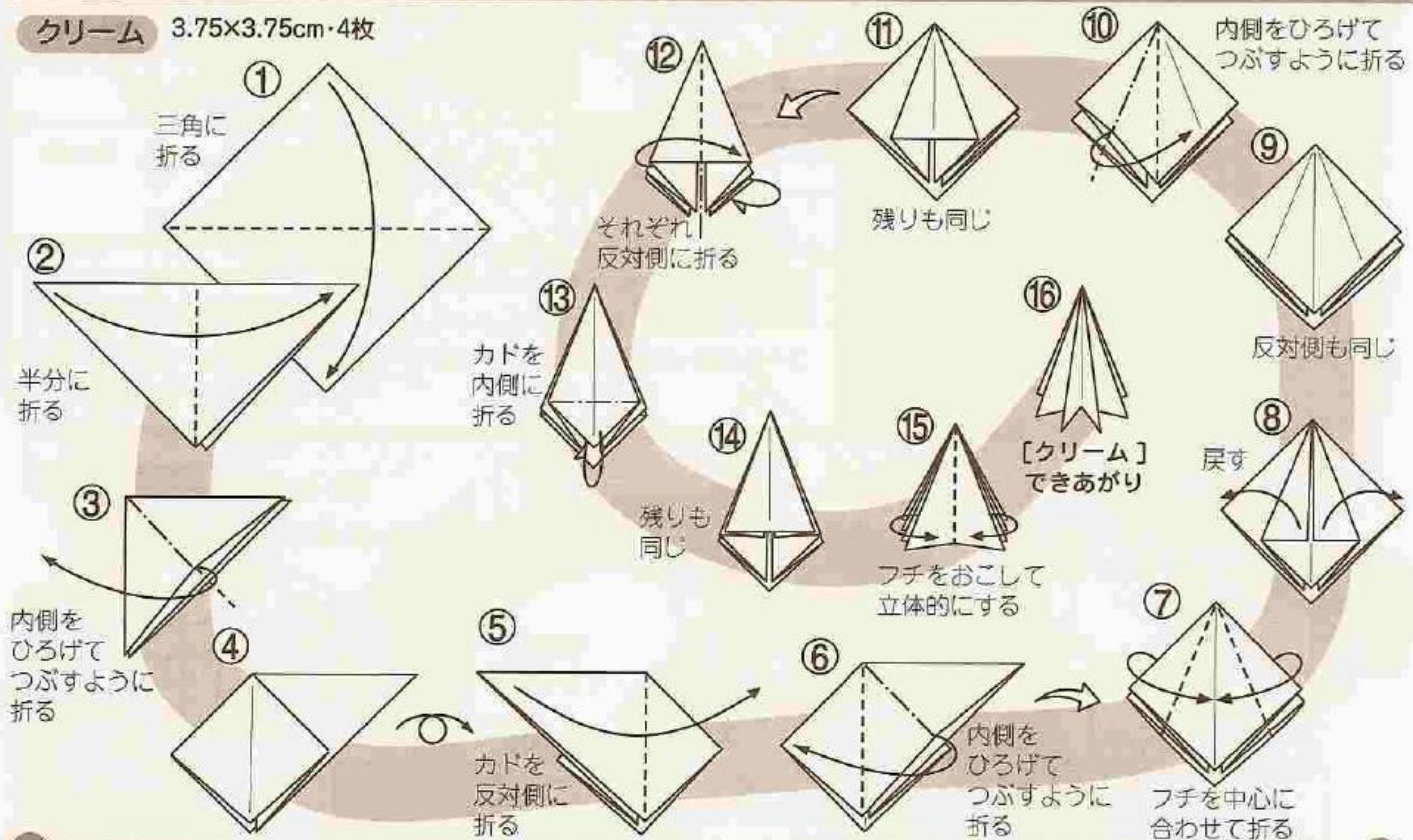




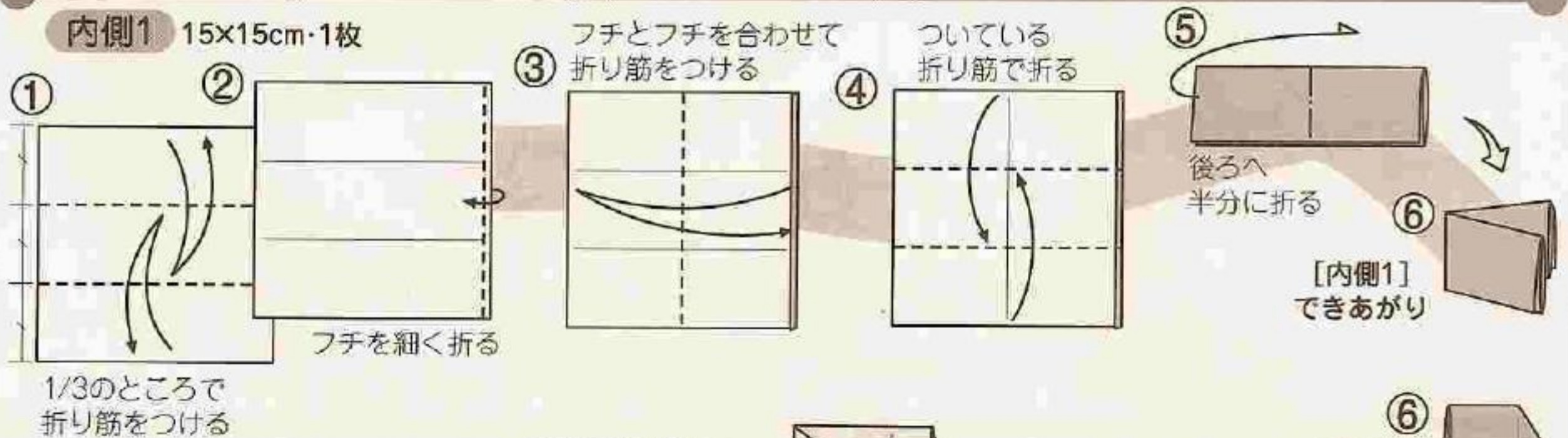
イチゴ 6×6cm・1枚



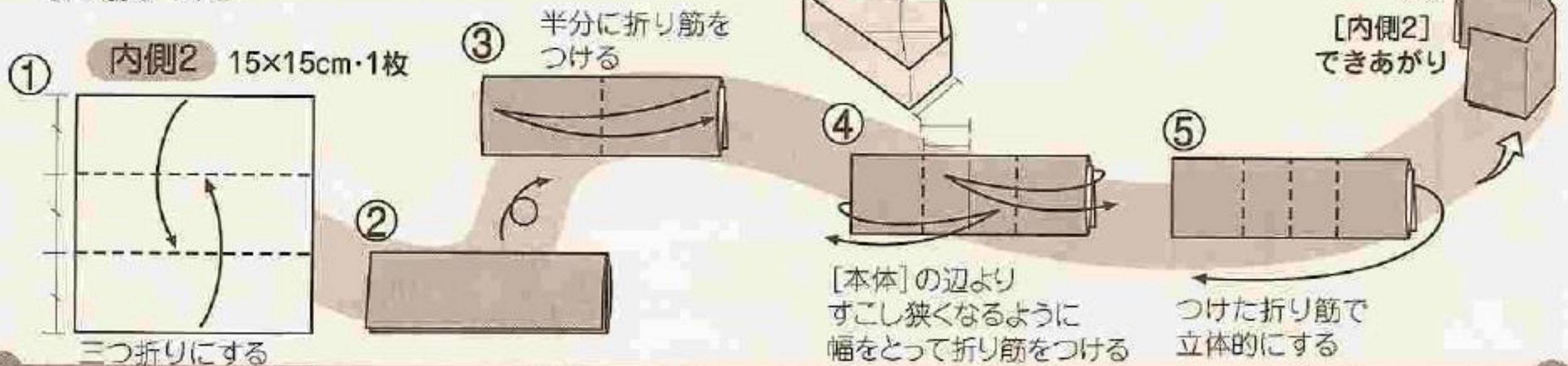
クリーム 3.75×3.75cm・4枚



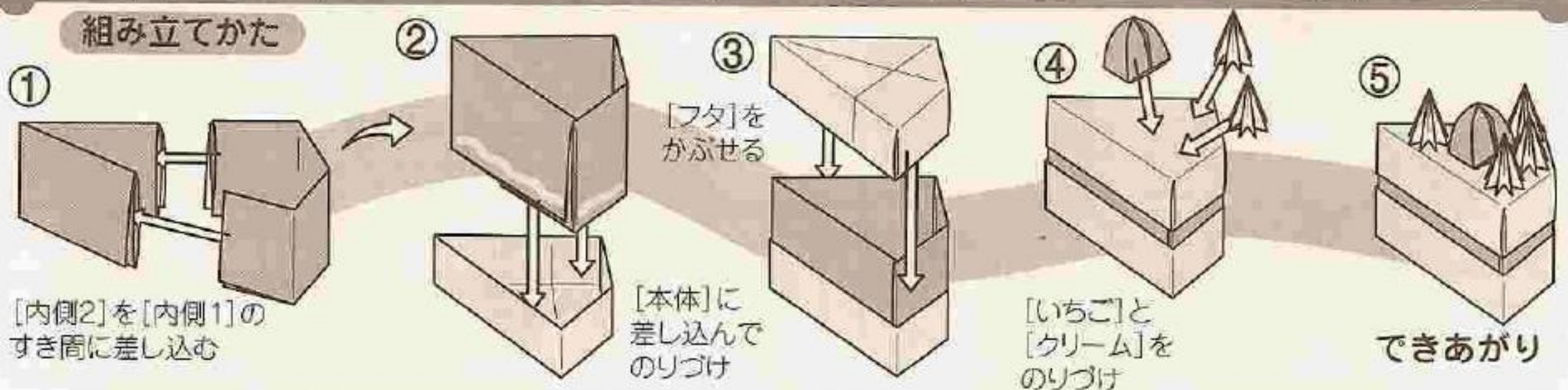
内側1 15×15cm・1枚

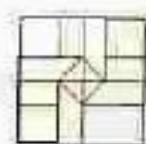


内側2 15×15cm・1枚

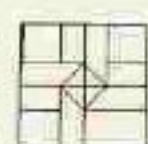


組み立てかた





多重平織りの技法



Layered Weaved Twist-Fold Technique

布施知子

Fuse Tomoko

はじめに

ユニット作品を中心に創作してきて、ときどきまったく別の種類の折り紙がしたくなる。それも立体ではなく平面で、うんざりするほど手間のかかる作品を。それらはもちろんだれでも折ることができるけれど、時間と体力を惜しまずに取り組まなければならないような作品を、ということで、2001年冬からまとまった時間をとって徐々に取り組みはじめたので、ここに多重平織りについて報告したいと思う。

平織りと多重平織り

ねじり折りをした単位をつなげて織物のようにした「平織り」と呼ばれる作品群は、藤本修三氏や桃谷好英氏によって

発表されている。またChris Palmer氏の美しい平織りも広く知られている。それら単位は正方形(図1)や、三角形(図2)であったりする。

その基本に、単位の角度をずらしたり、組み合わせたり、加工したりした作品はあるが、筆者は単位を重ねてみようとした。そしてこれらを多重平織りと名付けた。多重平織りには今のところ、「ぜんまい折り」と「寄せねじり」がある。

ぜんまい折り-ねじり折りを重ねる

「ぜんまい折り」については、すでに『折紙探偵団』64, 65号に発表してあるが、ねじり折りをした上に、さらにもう一段二段とねじり折りを重ねるとい技法で、いわば親亀の上に子亀を乗せた構造に

なっている。

例として正方形を重ねたもの(図3)と、正三角形を重ねたもの(図4)をあげておく。図中の色の濃い部分が親亀になる。

図3を4単位つなげたものが図5。図4をつなげたものが図6で、その完成形が図7。

ぜんまい折りの場合、作りたいものにもよるが、ほとんどは素手では無理で、道具が必要となる。完成形の設計に沿ってあらかじめものさしで測ってポイントを打ち、目打ちなどで軽く線をつけてから折りはじめる。三角形の場合など、単位をつなげた展開図を見ると、ちょっとうんざりする線の集合で、これをきちんと紙に写しとるのは骨の折れる作業だ。

道具を使わないという約束ごとのある折り紙の世界からは離れるけれど、道具を使ってこそその世界もある。

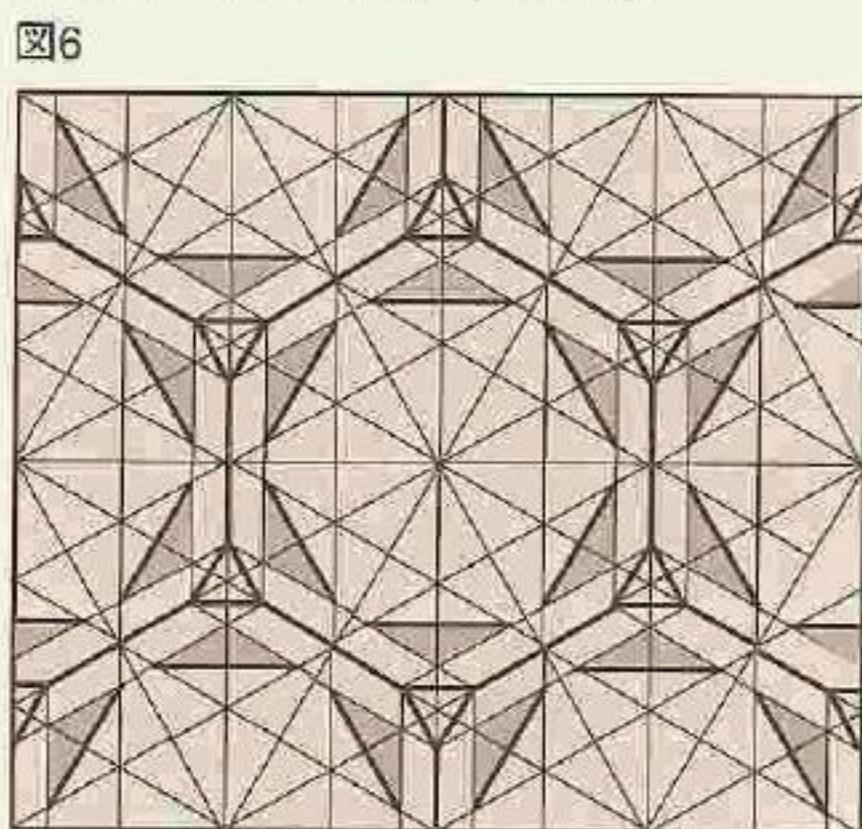
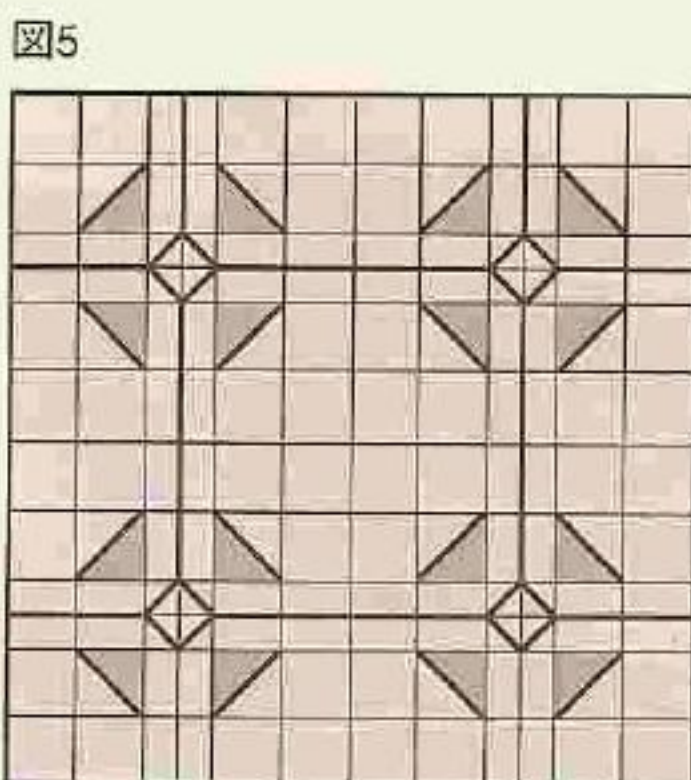
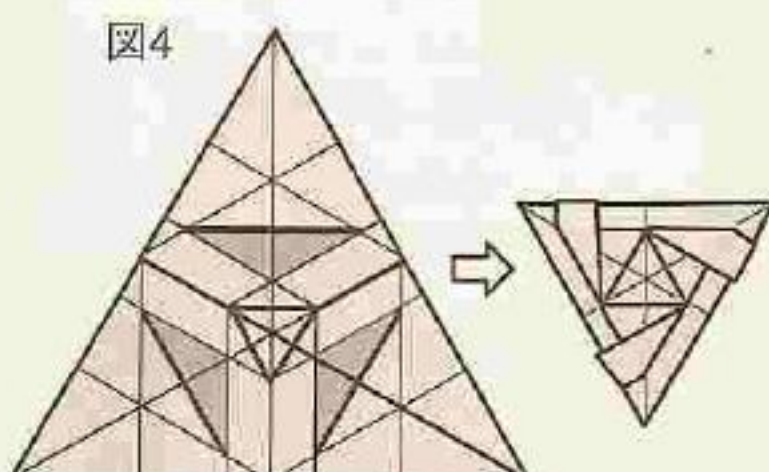
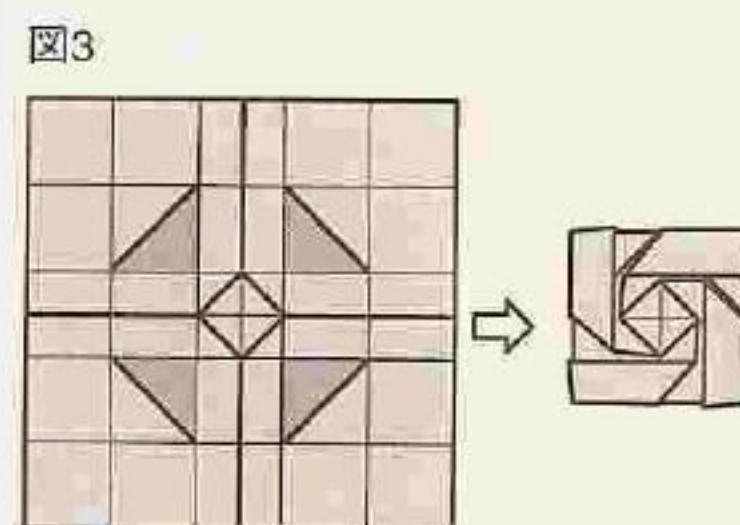
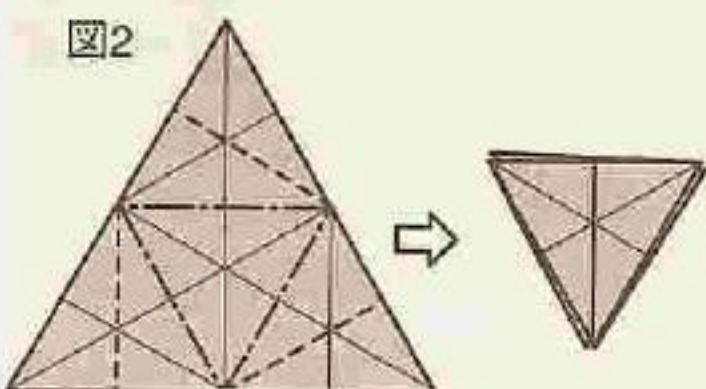
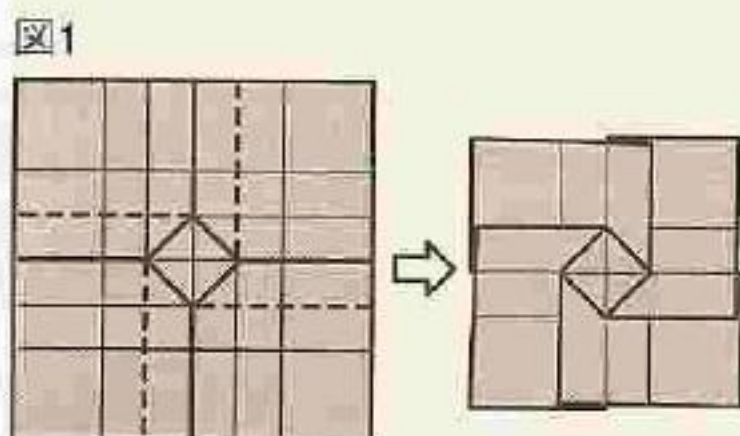
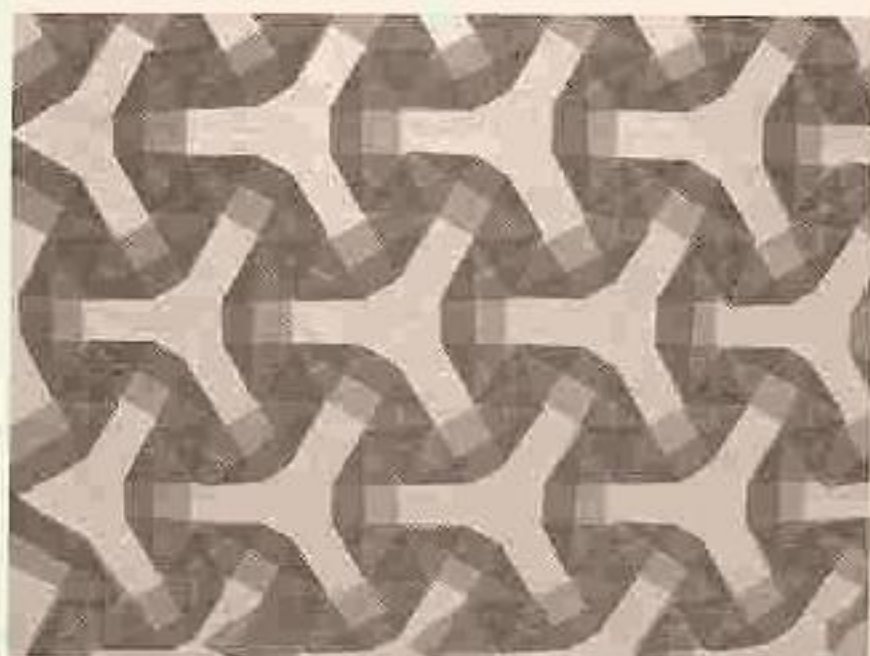


図7 図6を折ったもの(透過光で)



多重平織りの技法

Layered Weaved Twist-Fold Technique

布施知子

Fuse Tomoko

平織りは単位の集合体という意味ではユニット折り紙に似ている。図8はぜんまい折りと平織りを混合して作品に仕上げたもの。

寄せねじりーひだを寄せてねじる

寄せねじりのポイントはじゃばら折りである。じゃばら折りをして作ったたくさんの正方形のひだを、寄せ集めてねじると「寄せねじり」となる。

このようにじゃばら折りをして四角を折ること自体は新味のあるものではなく、いろいろに応用されているが、それを平織り風にねじり折りを連続させる、というところがポイントである。

じゃばらの幅は一定のもの(図9)、だんだん小さくしたもの(図10)など自由。寄せる四角の数も自由。図中の濃い色の三角が左右合わさって、ベースの正方形となり、あいだの正方形は寄せ集められてその上にのる。図11は図9の単位を4つつなげたもの。

図12は一重4単位と多重4単位(図11のもの)を比較した。

図13は図10の技法を使って単位を2つつなげ、ひだが少し重なるようにしたものである。

ユニット化

「ぜんまい折り」も「寄せねじり」も寄せ

たひだの分だけ縮まるので、大きな作品を作ろうと思うと、相当大きな紙が必要となる。その大きな紙をひっくり返したり、線をつけたりするには、広いスペースも必要で、折っていくのもたいへんである。そこでユニット化すると、仕事がしやすいし、さらに新しい造形も生まれる。

多重ではなく、一重の正方形の平織りをユニット化して作品にしたものは『季刊をる』16号(最終号)に発表してある。(折り図はついていたが、だれかが折ったという話は聞かないから、めんどくさすぎて人気がなかったのだろう。見るだけで十分、折る気にならないという類いの折り紙だったようだ。)

多重のユニット化については、まず一

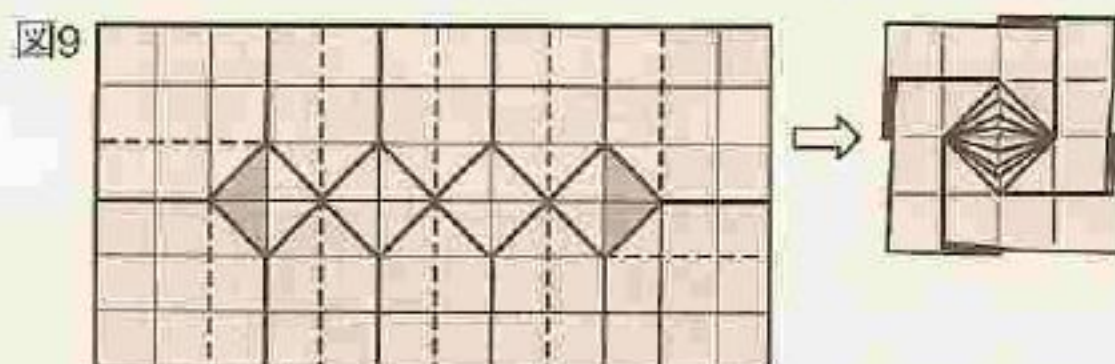


図11: 図9を4単位

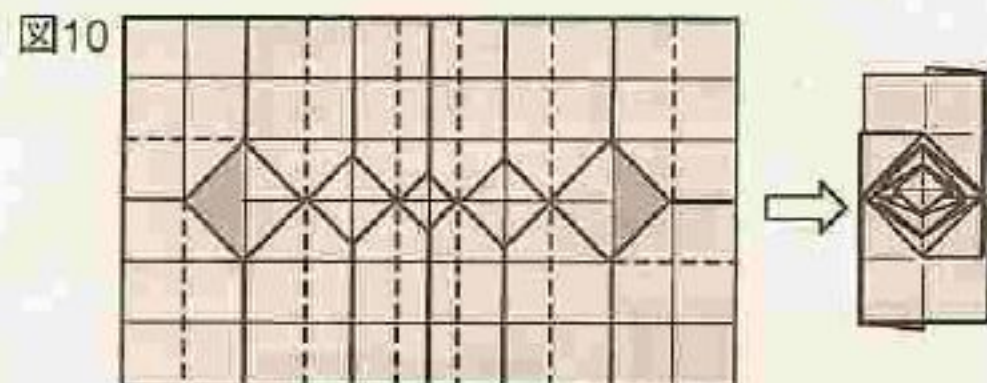
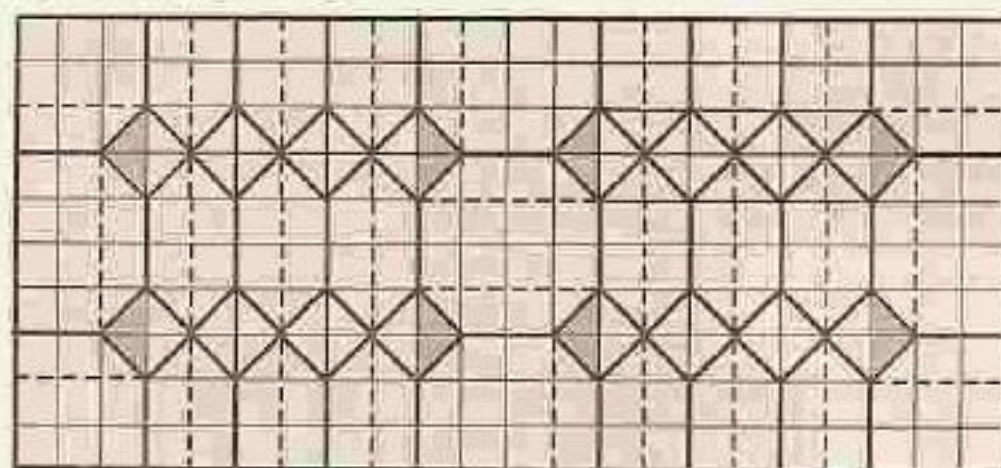


図12: 一重4単位と多重4単位

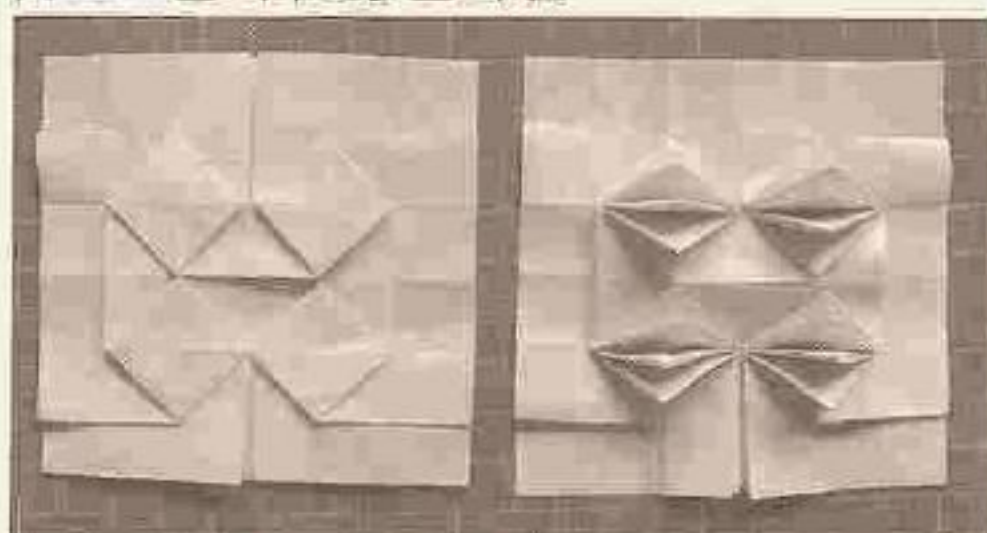
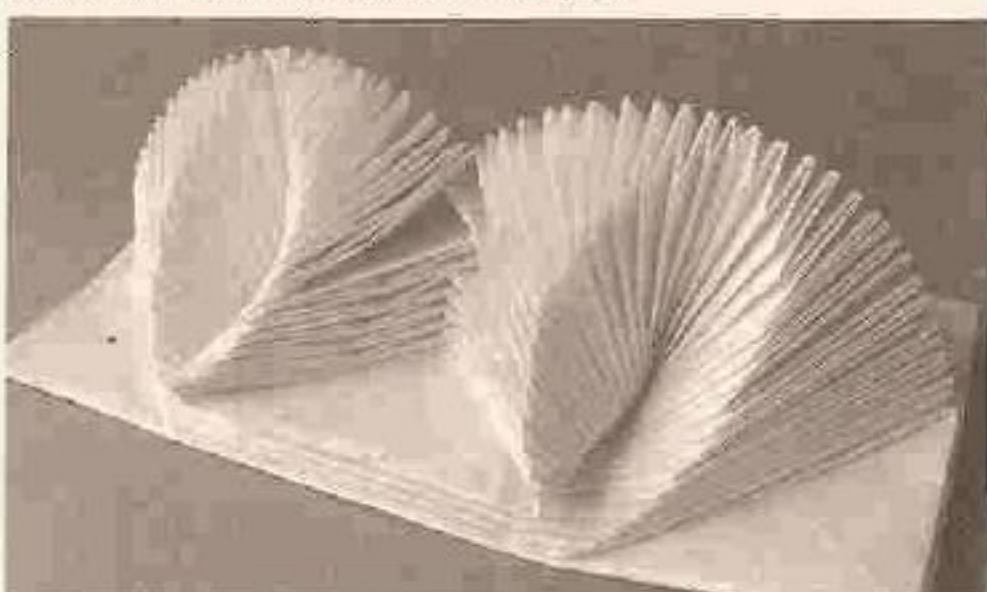


図8: ぜんまい折りと平織りを混合した作品(部分)



図13: 徐々に小さくした多重2単位



○布施知子(ふせ・ともこ)＝新潟県生まれ。折り紙のテーマはユニットとらせん。数年前から庭にくる昆虫撮影にはまっている。



枚折りを見ていただきたい(図14)。その一列を切って一連として、それらをつなげていくという考えでユニット化される。

展開図(図15)でしめした一連の帯はそれぞれのひだで一回ねじりが入ってジグザグになる。それをつなげて作品に仕上げた(図16)。

ところで実は、このジグザグ帯の折り方は、かなり以前に川崎敏和さんから見ていただいたもの。そのとき川崎さんは「こんなもの生徒がいくらでも作っていますよ」とおっしゃった。だれでもやりそうな折り方だけど、筆者はいわば、それをつなげて編んだだけということになります。しかしユニット化した所に飛躍があり、新造形になったと本人は思っ

ているのですが。

この原稿を書くにあたり再び伺ったところでは、端をつないでプレスレットにしていたとか。

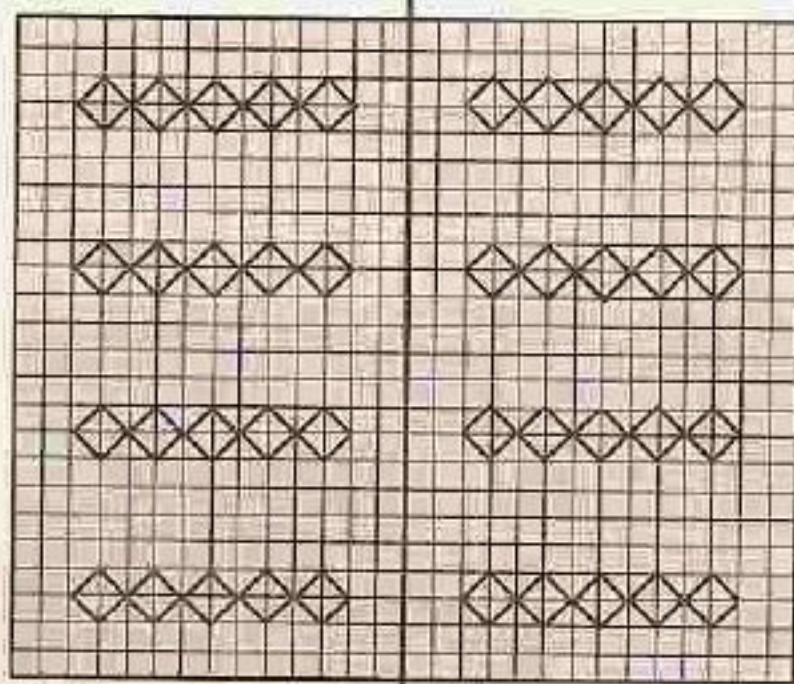
新しい風は外に向けて吹き、折り紙を活性化し、方向づけ、動かしていくものだ。その点今回の多重平織りは「平織り」を見直した所から生まれた、平織りを幹とするひとつの枝で、折り紙の新しい道、新しい世界を示したものではない。幹より出る枝葉を充実させたものといえるだろう。そして、折ってみようと思う人も少ない折り紙だろう。

スーパーコンプレックスとはちがって単純な折りをつなげていくという、簡単

だけれどもめんどくさい折り紙。見るだけで十分な折り紙だとしても、せめて見ごたえのある作品を作りたいと思っている。図17は一枚折りの多重平織り作品。

追記:実はこの原稿は、今回多少手を入れたものの、2004年にあらかた完成していた。そしてこの間、新しい平織りが現れた。『BOS Magazine』2006年4月号に紹介されたアメリカのJoel Cooper氏は平織りでマスク(面)を作り上げるという見事なものだ。またJean-Claude Correia氏も平織りではないが連続パターン的大作を数多くものしておられる。連続パターンもユニット化して編むとおもしろいものができそうだ。

図14



切ってユニット化

図15

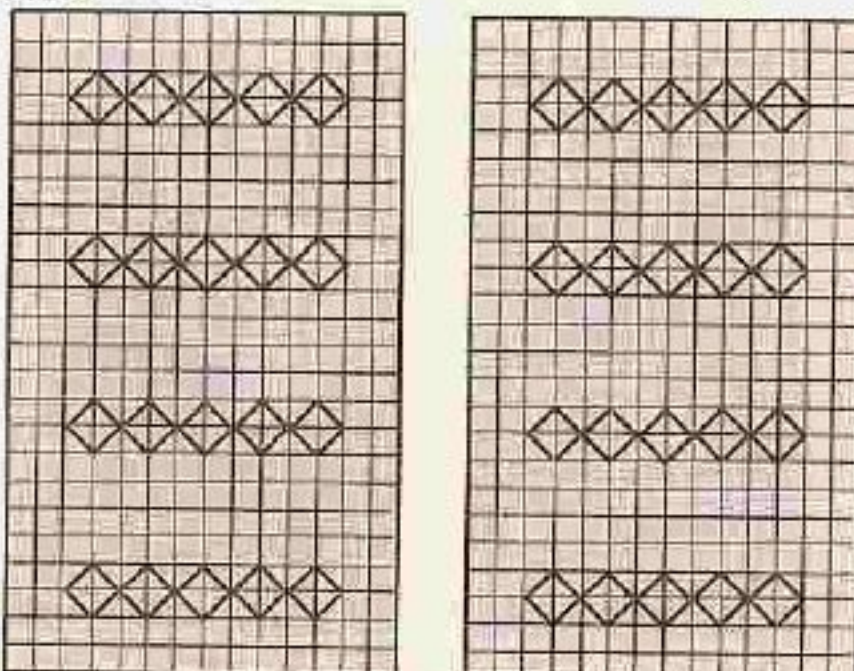


図16: 多重平織りをユニット化して編んだ作品(部分)

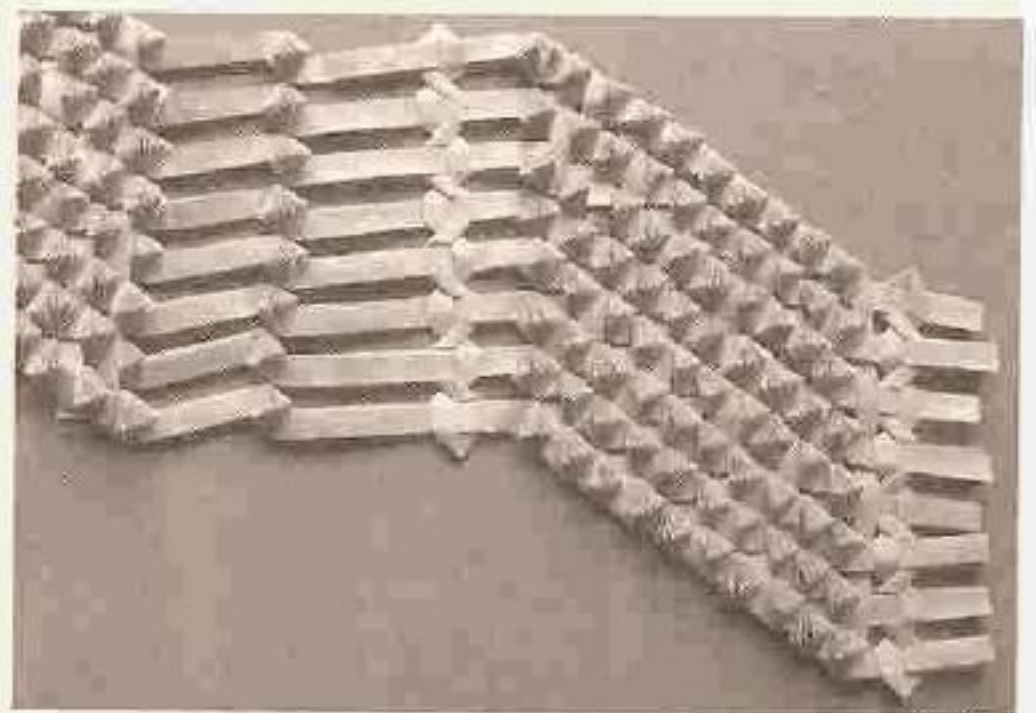
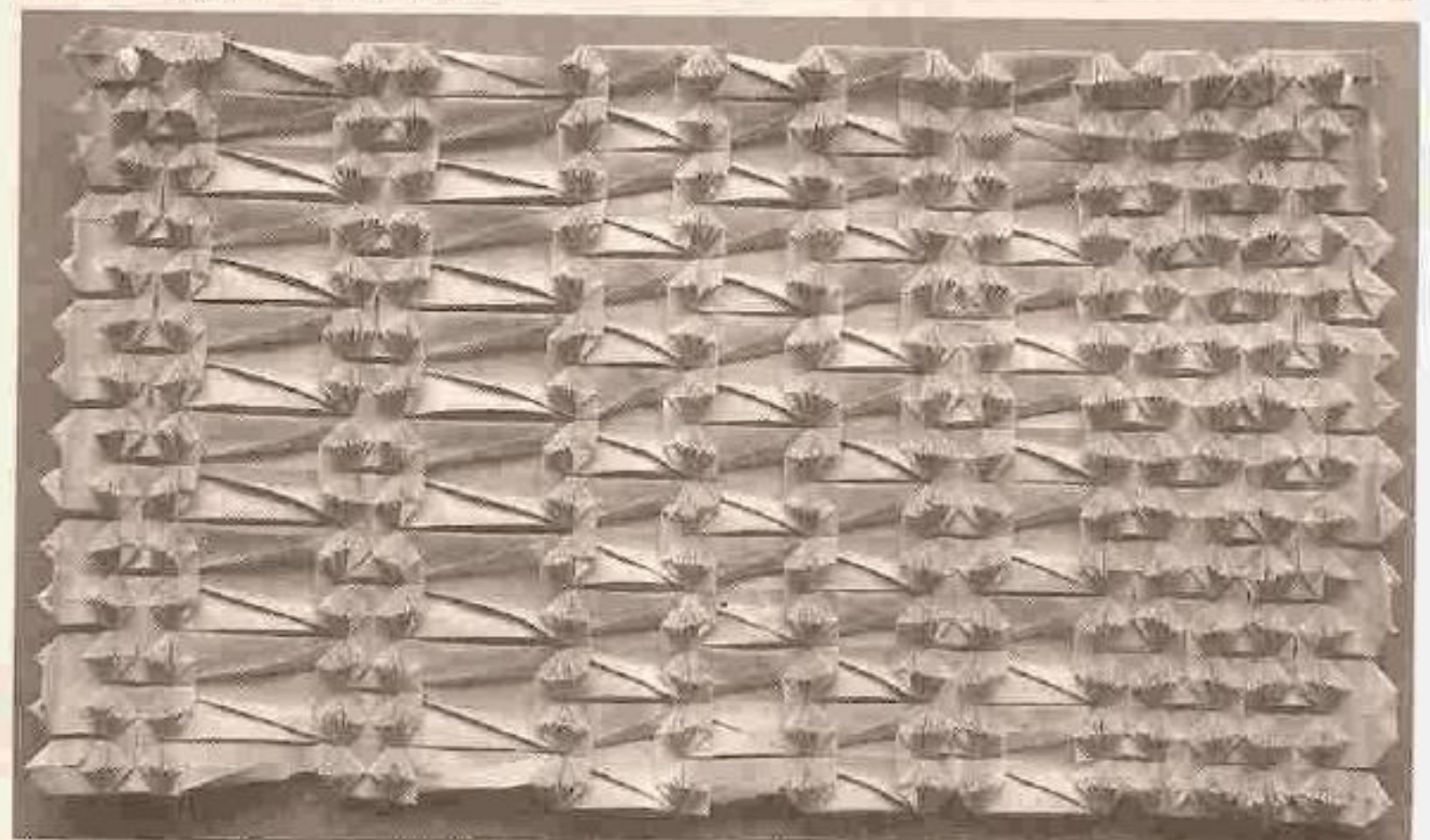


図17: 一枚折りの多重平織り



Afternoon Origami

第7回 ミトラの友人たち Making friends with the Mitra

今年1月の後半、私は充実した16日間をインドで過ごしました。その後半は、オーランガバード、ジャイプール、アグラ、デリーでの観光に費やしましたが、それについてお話ししても退屈させてしまうでしょう。ここでは、風景が本当に素晴らしく、忘れられない思い出で頭が一杯だとだけ言っておきます。今回は、前半の1週間、オリガミ・ミトラの人たちとボンベイで過ごした刺激的な経験についてお話ししたいと思います。

オリガミ・ミトラというグループ(Mitraとはヒンディー語で「友人」という意味です)については、以前から聞いたことがあり、ウェブサイト(<http://www.origami-mitra.com/>)も見ただけがありました。また、例会の様子を写した写真を見て、インドに行ってみたくて思っていました。すると去年の夏、布施知子さんから連絡があり、その思いが実現することになりました。彼女は、2006年1月に開かれるオリガミ・ピース・ツリーのイベントにゲストとして招待されていたのですが、言葉の問題もあり、1人で行くのは少々心もとないので、一緒に行かないかと尋ねたのでした。私にとっては2秒だけ考えれば十分でした。

その後すぐ、知子さんのご主人の太郎さんや、ニューヨークからトリシア・テイサ

んとインド出身のラビ・アプテさんも参加することが分かりました。そういうわけで、ボンベイの集まりは国際的なものになったのです。

ここで、オリガミ・ピース・ツリーについて少しお話ししておきたいと思います。この活動は、ロシアのルバシヨフ一家、ラリッサさん、アレクサンダーさん、アナスタシアさんのアイディアから生まれたもので、折り紙を様々な国や地域でより広く知ってもらおうと考え出されたものです。オリガミ・ピース・ツリーという名称は、少し誤解を招くかもしれませんが。実際にツリーを作るわけではないからです。私はインドに行って、大きな木に折り紙が飾り付けられたもの、あるいはそれに似たようなものが見られるのかと半ば期待していましたが、そのようなものを作るのが目的

ではありません。ツリーというのは比喻なのですが、比喻としてはよい名称だと思います。各国の折り紙団体にこのイベントを主催するよう勧め、それによって、それぞれの地域に折り紙の「苗木」を植えるのです。それを育ててゆけば、枝がはるかに広がってゆくでしょう。オリガミ・ピース・ツリーの過去のイベントや将来の予定については、<http://www.iap-peacetree.org/opt/main.html>で見ることができます。

さて、ボンベイに着いた私たちは、早速展示の準備を進めました。会場はちょうどよい広さのホールで、周辺は人がいっぱい混雑していました(ボンベイで混雑していないところなどありません!)。開会式は1月23日の月曜日で、海外からのゲスト全員が短いスピーチをし、地元のテレビ局がそれを撮影していました。翌日から29日の日曜日まで、展示が一般に公開されました。26日は共和国の日という祝日で、もっとも多くの人々が展示に詰めかけました。会期中ずっと、オ



▲開会式にて



▲布施知子さんの講習



▲開会式にて



▲アジト・グプテ作 あじさいユニット



▲スワプニル・シンデ作 花

○David Brill(デビッド・ブリル)＝イギリスを代表する折り紙作家の1人。1975年よりBritish Origami Societyの活動に積極的に参加、代表も務めた。折り紙以外の趣味は油絵。



リガミ・ミトラのボランティアが展示の監視員を務めていました。

展示と平行して折り紙教室も開かれたので、私たちは会期中も大忙しでした。オリガミ・ミトラは、せっかく私たちが来ているのだからと、毎日午前中に2時間、35人限定の非公式教室を設け、知子さん、トリシアさん、ラビさんと私は、熱心な受講者を相手に、がんばって作品を教えました。受講者も私たちも、皆とても楽しむことができました。

毎日午前11時から午後6時45分までは、私たち4人とオリガミ・ミトラのメンバーとが、一般の人を対象とした教室を数多く行いました。初心者向けの教室は45分、中級者(といっても、実際には初心者とほとんど変わりませんでしたが)向けの教室は2時間でした。トリシアさんは目の不自由な人たちを教え、私は精神的に障害のある受講者を教えました。うまくできるかどうか心配でしたが、実際にやってみると、思ったほどの困難はありませんでしたし、受講者の顔に微笑みが何度も表

れるのを見ると、こちらもやる気が出ます。私たちが教えているときには、オリガミ・ミトラのボランティアが補助についでくれ、手間どっている人を助けてくれたので、私たちはずっと楽に教えることができました。私たちは一所懸命教え、休憩時間を利用して寝たり次の教室に備えたりしました。

私たちが宿泊していたのは、アラビア海に面する風光明媚なウォーリ海岸にあるマンションでした。この建物は、一流のソフトウェア会社タータ・コンサルタント・サービスの持ち物で、社長のラマドライさんと夫人のマールさんが1階に住んでいました。マールさんがオリガミ・ミトラの中心メンバーの1人で、旅行中ずっと私たちのガイドをしてくれました。買い物に連れて行ってくれたり、どこへ行くにもすぐに車に乗せてくれたり、何を食べればよいか(そして何を食べてはいけない!)を教えてくださいました。ある夜にはタータ劇場で開かれたインドの素敵なフュージョン音楽のコンサートで最

前列の席を用意してくれましたし、サリーの店では素晴らしいシルクを見せてくれました。また、ボンベイとチューリッヒに住んでいるネータ・プレムチャンドさんの招待を受け、彼女が所有するボンベイ・ペーパーリーを訪れました。そこではインドの美しい手漉きの紙が販売されており、私たちはインドにおける紙漉きの長い歴史を学びました。私が特に気に入ったのは、オリガミ・ミトラのメンバーの依頼で作られた、裏打ちされた紙です。天然の糊を使って紙を貼り合わせているので、ウェットフォールディングに最適です。<http://www.bombaypaperie.com/index.php>で魅力的なウェブサイトを見ることができます。

オリガミ・ミトラのほかのメンバーも、私たちがいつでも楽しく快適に過ごせるように、それぞれに尽くしてくれました。全てのメンバーに、とりわけフルシケシュ・サブニスさん、ギター・カンタワラさん、ヒマンシュ・アグラワルさん、そしてもちろん、いつも美しいサリーを着ていたマール・ラマドライさんに、深く感謝します。

オリガミ・ミトラは国際的に見ても優れた折り紙団体の一例を示しています。規模を小さく保つことで(新しいメンバーが加わるのは申し込み制ではなく招待制です)、公的な組織を運営するための事務的な負担と、それに必然的にともなう経済的、政治的な複雑な事柄とを軽減しています。オリガミ・ミトラの大部分のメンバーは積極的に活動しており、彼らのエネルギーと努力は賞賛に値します。ほかの団体が、内部の問題に集中したりメンバーの要求に応えたりするのに苦労しているのに比べて、ボンベイでのこのイベントは、折り紙を一般に広める方法として優れた一例だと思います。

私は、オリガミ・ミトラのメンバーと友人になれて、本当にうれしく思っています。



吉澤章さんの肖像

インド伝統のランゴリーという手法で描かれたものです。色をつけた砂を使って、糊などで固定せずに描きます。催しが終わった後は、全体を傾けて砂を流し捨ててしまいます。



▲展示会場にて



◀ 花瓶



▶
インドの
花2種



おりがみ庵

Origami-An's Quest for Origami Archives

第16回

Okamura Masao

岡村昌夫



折鶴の洋行

Oridzuru Goes West

江戸の頭脳

先日全国放送のテレビ番組で「連鶴」を折らされ、極めて不思議な技術であるかの如き扱いを受けて戸惑った。それはともかくとして、私は従来「連鶴」という語がきらいで「つなぎ折鶴」と称していたのであるが、今回ついに節を屈して、(ただし私は「れんかく」と読むことにして)止むを得ぬ場合には使用することにした。「れんづる」などと重箱読みは気持ちが悪くと言ったら、「ジュウバコヨミって何ですか」と担当者に聞き返される時代になってしまったし、「連鶴」でないとインターネットの検索にも引っ掛からず不便だからである。

ところで今回のスタジオ録画収録では得るところが多かった。延々と続く待ち時間に、他の出演者と親しく話すことが出来て、いろいろな情報を得たのである。特に、日本料理の長島博さん、手妻の藤山新太郎さんにお話を聞いたのは嬉しかった。

青き筋ある胡瓜にて

日本料理、生間(いかま)流の達人、長島博さんがキュウリを雨蛙の形に切る「飾り庖丁」の技を見せてくれたのに、放映でカットされていたのは残念だった。これについて思い出すのは、平安末期の藤原清輔が「青き筋あるウリにて蛙の形を作りて」歌に添えて喧嘩別れした女のもとへおくったという話であるが、江戸時

代に「ウリ」を「カミ」に直されて折紙の故事にされてしまった。(この話は何度も書いたことがあるので簡単にするが)清輔の場合は、「かえるがえる(返す返す)」口は災いの元だと反省しているという意味を込めて、口を大きくあけた蛙の形にしたのであろう。それが「飾り庖丁」だったかも知れないと思った。粹人だったはずの清輔が、庖丁自慢でもあったのかと想像されて楽しかった。

こちらからは「甲立(こうだて)」のことと、「鶴の庖丁式」について質問したのであるが、どちらも勿論よく御存じであった。鯉や鯛などの庖丁式で用いる「まなばし」と鶴の庖丁の箸は形が違うそうだ。魚の場合の箸は金属の部分が長く、手に持つ部分が短いが、鶴の場合はこの長短が逆になるそうだ。しかし「秘伝千羽鶴折形」の挿し絵には、普通の「まな箸」状のものが描かれているのである。流派の違いであろうか。

手妻と折紙

江戸の奇術「手妻(てづま)」が、手を稲妻のように素早く動かすという意味だとは初めて聞いたが、子供のころ父などが「手品」のことを「テヅマ」と言っていたから、馴染み深い言葉であった。「蝶のたはむれ」も、寄席で昔何度か見ていたので大変懐かしかった。紙の蝶が見事に空中に舞い遊ぶ様子は古い記憶のままであった。番組の司会者などは、本当に扇の風だけで飛んでいると思っていたらし

いが、タネの無いわけではないのである。上から糸で釣っていませんということを強調する演技に快く騙されて、江戸情緒豊かな奥の深い芸に魅了されてしまうのである。二つに折った白い和紙をちょつとねじって蝶々を作るが、これはまさしく折紙である。

折鶴が初めてヨーロッパにわたったのは、幕末のパリ万博のころ、日本人奇術師が舞台上で見せたという折鶴だったそうだが、この蝶の手妻のバリエーションだったのではないかとかねて私は素人判断していた。

そこで手妻師の藤山新太郎さんに専門家のご意見をお聞きしたわけである。やはり「蝶」のように折鶴を舞い遊ばせるのは無理なようだ。新太郎さんは「ヒョコ」という芸だったのではないかとおっしゃった。

数日後わざわざ送ってくださった資料によると、古くからある芸で、宝暦5年(1755)刊、幾篠述『仙術夜半楽』という本に、紙人形をひとりて歩かせる絵と種明かしが載っている。初め伏せてある茶わんを取ると、紙人形がひょっこり起き上がって動き出すのである。「これがヒョコ」という芸の基本的な扱い方です。鶴の方法は書いてありませんが、同様に——浮かせたものと思われます。」とは新太郎さんの言である。上げた扇子の縁に沿って動かしたりしたのだらうとおっしゃった。そのようなことは充分に考えられるそうだ(図版1)。

山本慶一著『日本手品宝華集』(1986年)によると、(これは『武江年表』の記事を要約したものだが)1866年(慶応2)9月に、柳川蝶十郎、隅田川浪五郎、同妻小まん、浪七、独楽の松井源水たち一行二

○岡村昌夫(おかむら・まさお)=1934年
東京生まれ。都立高校の国語教師を12
年前に定年退職。折り紙以外の主な趣
味は能・歌舞伎を観ること。



▲図版1『仙術夜半楽』より

十数人が渡航(『武江年表』には全員の
名が記録されていて、アメリカ人に雇わ
れて「彼の国に趣きし」とある)、その時の
演目中に確かに「蝶の曲」が入っている。
この蝶十郎という人の実父(柳川一蝶
斎)は、幕末期の手妻界の第一人者で、
蝶の芸を完成させた人である。1867年パ
リの第2回万博で興行したあと、ヨーロッ
パ諸国を巡回して、1869年(明治2)に帰
国し、後に二代目一蝶斎を襲名した。こ
の人のことは泡坂妻夫が短編集『比翼』
に所収の「胡蝶の舞」に書いているので
興味のある人はどうぞ。

『大菩薩峠』白骨の巻の初めのあたり
にもこんな記述がある。「ここに慶応のは
じめ、大小日本の手品を表芸にして、イ
ギリスからオーストリーを打って廻り、明
治2年に日本へ帰って来た芸人の一行
がある。白い紙を蝶に作って生命を吹き
込んだ柳川一蝶斎を座長として、これに
加うるに、太神楽の増鏡磯吉、綱渡りの
勝代、曲芸の玉本梅吉あたりを一座とし

て、日本の朝野がまだ眠っている時分
に、世界の大舞台へ押し出した遊芸人
の一行があります。——悠々として倫敦
三界から欧羅巴の目抜きを横行して、維
納の月をながめて帰ることができまし
た。」これは実際より豪華メンバーにし
たフィクションであるが、一般人の渡航が
ままならなかった時代の特記すべき快挙
とする気分はよく出ているではないか。蝶
の手妻で有名な奇術師が明治2年に帰
国した話はこのように語り伝えられてい
る。そして驚異の目を見張ったロンドン
市民の中にジョン・ラスキンがいた、と中
里介山は書いているが、その他の市民
の中にオリガミストがいた可能性は極め
て高いのではなかろうか。

羽ばたく鳥

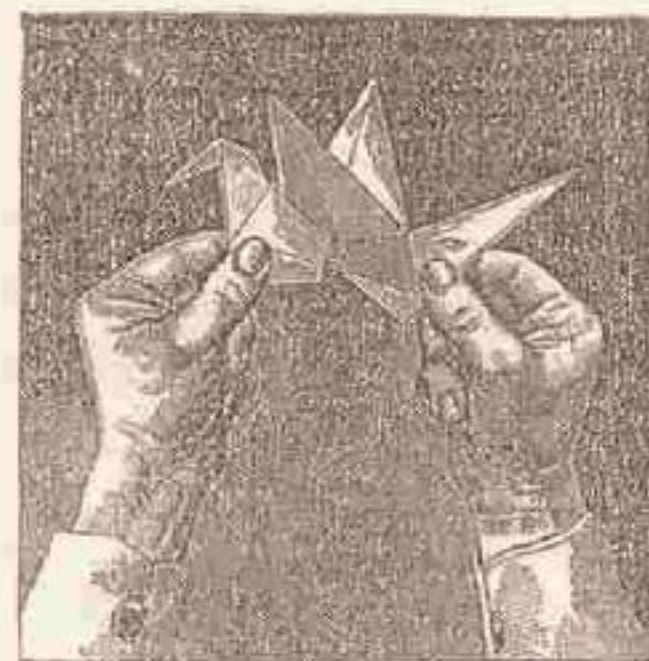
さて折鶴が西洋人に初めて知られた
いきさつは、1994年、天津で開催された
第2回折り紙の科学国際会議の論文集
に掲載されたD. Lister氏の文章を拠り所
にしているのだが、実は極めて曖昧で、
典拠も示されておらず、推察の根拠もわ
からないのだ。

まず、Lister氏によると、日本から欧州
へ渡ったのは折鶴ではなく「羽ばたく鳥
(the flapping bird)」ということであるが、
氏もmystery云々と書いているように、これ
はただちには信じられない。当時日本で
は知られていない作品であり、折鶴の頭
と尾を細く折らないで、つまり鶴の最終に
近い工程を省略した形であるから、見な
れていない欧州人が見間違えたという
解釈も成り立つだろう。また、年代につい
ても氏は、1860年から80年の間のsome

timeと言う。そして1878年のパリ万博のと
きと推定されるが証拠は見出せないと言
っているのだ。確かなのは1886年に英国
で出版された『BOY'S OWN PAPER』と
いう雑誌に初めて「羽ばたく鳥」が掲載さ
れているということらしい(図版2)。1886
年から逆算して推察したらしいが、確た
る根拠とは言えない。

またLister氏によると、鶴の演技も、大き
な白い紙に前もって折筋を付けておい
て、素早く鳥の形にして翼を動かしたと
いう。ひとりで羽が動くとは書いていな
いので、「ヒョコ」でないかも知れないが、
ただ早く折るだけの技で、手に持って羽
ばたかせるのでは、手妻の芸にはならな
いと思う。前もって折筋がつけてあるとい
うのも見苦しく江戸の芸とも思えない。折
鶴の羽を動かすだけなら、「ヒョコ」の技
術で可能ではなかろうか。

録画スタジオで新太郎さんの後見を
勤めていた青年は、折紙に関心があるら
しく、複雑折紙についても「暫」の存在を
知っていた。今月「藤山晃太郎」として一
本立ちするそうだが、そのうちに折鶴の
芸を復元して見せてくれることもあろうか
と期待したいものである。



▲図版2『BOY'S OWN PAPER』より

第1回

五月五日の兜

Samurai helmets on May 5th

May 5th in Japan traditionally had been a day celebrating and wishing for the health and wealth of boys, but it now is a national holiday called Children's Day, for both sexes. People customarily put up Carp streamers (Koi-Nobori) and display Samurai weapons. Kabuto (Samurai helmet) is also a very important exhibit of the day. This is very contrastive with dolls of noblemen displayed on March 3rd, the Girls' Festival. An origami Kabuto model, which can be folded from a newspaper into a model that you can actually put on, is very popular in May. It is not known since when the model has been folded, but it is one of the most popular origami model, in addition to the famous origami crane.

わくわく

折紙散歩

Origami Sampo
Doggedly Determined

今回からタイトルが変わって『しつこく折紙散歩』である。違う連載なので、前回の続きということはないはずなのだが、どっこい、第1回は、前号を継いだシリーズものである。「違う連載」と言ってもだれも納得しないので問題はない、とも言える。(なんだそりゃ)

で、そのテーマとはなにか。前号の記事が桃の節句(上巳の節句)だったので、今回は端午の節句だ。安直である。

さて(さてというのは便利な接続詞だなあ)、端午の節句で折り紙とくれば、ちまきと兜である。ちまき? そう、ちまき。「米や米の粉などを笹の葉・竹の皮などで包み、蒸したもの」(新辞林)である。ちまきは、複数枚の葉を使った複合折り紙だ、と言えないこともない。じっさい、雪華の折り紙でも知られる昆虫学者・鈴木邦雄氏は、オトシブミが葉からつくる巣を折り紙的視点で分析しているが、そこにも、「らせん折り」などとならび、「ちまき折り」という分類がある。

ちなみに、複合折り紙とユニット折り紙(モジュラー折り紙)は異なる概念である。ユニット折り紙は、複合折り紙という大きなカテゴリーのサブカテゴリーなのだ。私見だが、同様のパーツを複数使うだけでもユニット折り紙ではない。それぞれのかたちをあらかじめつくり、それを組み合わせるという形式でなければ、ユニット折り紙とは言えないのではないかと思う。ちまきは、工程の最初で葉を組み合わせ、それを巻くという形式を取るのだから、複合折り紙ではあるが、ユニット折り紙ではない。

なお、海野厚作詞・中山晋平作曲の

「せいくらべ」の「ちまき食べ食べ、兄さんが」、「ものを食べながら別のことをするなんて行儀が悪い」と評したひとがいるという話を聞いたことがある。しかし、ちまきには戦時携帯食という側面もあるので、それを食べながら別の作業をするのは普通のことなのである。それよりも、柱に傷をつけることのほうが問題ではなからうか。賃貸住宅ではそんなことはできないぞ。

次 は兜。まずは、小松英夫さんが発見した「十匹狼」というブログ(日記的なインターネットのページ)にあった、「札幌市中央区大通公園6丁目角のセブンイレブン」についてである。コンビニエンスストアには、道筋に直角に看板を出している店舗が多い。そして、セブンイレブンの看板は縦長ではなく正方形に近い。辻にある店では、これが直角にふたつ出ているかたちになる。上記店舗は、そのふたつがみごとに対称配置になっている。ビルの稜線も切り立ったかたちで、単純な平面からなる。高さも適切だ。遠近感があるので、直角二等辺三角形を二つ折りにして、そこからカドがでているように見える。そう、辻に立ってこの店舗を見上げると、折り紙の兜に見えるのだ。…と、こういう話を言葉で説明してもまどろっこしいが、ブログの管理者と連絡がとれなかったので、写真掲載は控えた。興味のあるひとは是非ネットで確認してもらいたい。「十匹狼」で検索し、「折り紙」で内部検索すれば見つかるはずである。このような店はほかにもありそうだ。

兜と言えば兜町。…かどうかは知らな

いが、兜のネタを探しに兜町に行ってきた。東京都中央区日本橋兜町。言わずと知れた日本経済の中心である。経済活動とまったく無関係に限なくこの町を歩くひとりの男。何度も同じところを行ったり来たりしていたので、警官から不審者に対する視線を受けたが、カメラを構えて「史跡を探しています」といったポーズを見せるのがコツだ(どんなコツだ!)

兜町は、北端が隅田川の支流である日本橋川に接する、東西約100m南北約600mの南北に細長い街区の町である。そして、東京証券取引所のある北部と異なり、南部の八丁堀に面した地域は古い町の風情が残っている。都心には珍しい広い公園や、他人事ながら児童数の減少を心配してしまう小学校などがある。しかし、「兜町の折り紙の兜」というネタ一点を探しに行ったのだが、それに関する収穫はなかった。しかたがないので、兜町店の文字のあるコンビニのレシートで兜を折ってみた。しょうもない。なお、兜町の由来は、兜橋と兜神社にあり、「株と」の駄



兜町のコンビニエンスストアのレシートで折った兜

Kabuto made of a sales slip of a drug store in Kabuto-cho

大阪城で真田幸村に扮す。大阪城の変わり兜コレクションは面白い。

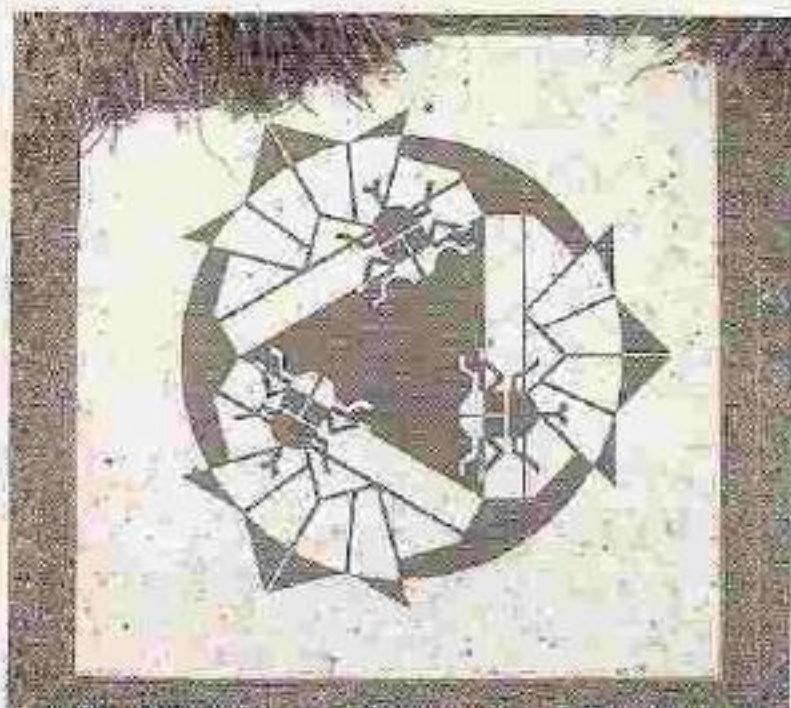


前川 淳 Maekawa Jun

折紙創作・研究家。折鶴モノのコレクター。東京生まれで東京在住だが、1年の約1/3は、天文台の仕事のため、長野・山梨で過ごす。好きなもの：阪神タイガース、星空、書店、喫茶店、幾何学的調和。

洒落ではない。ただし、兜神社の由来書によると、明治11年に同地に株式取引所ができたときに取引所が氏子総代になっているので、その時点では駄洒落を意識したのではないかと思う。その兜神社、鎧稲荷と兜塚を合併した小さな神社なのだが、今では商業の神様ということになっている。日本の神様はてきとーである。

行政地名には残っていないが、「かぶと」という地域は大阪にもある。東淀川区豊里の一带だ。その、豊新四丁目にかぶと公園があり、豊新一丁目の豊北公園にはこの連載のネタがある。折り紙の兜を描いたタイルである。事前の調査では、兜の折りかたを示した十二枚のタイルがあるとのことだったが、じっさいに行ってみると、兜とカブトムシの絵のタイルが数枚あるだけだった。どうやら遊戯施設の変更があったらしい。まあ、屋外で折り紙はあまりやらないよなあ。和歌山市にも加太(かぶと)という地名があり、全国に甲川、甲山といった地名も多いので、折り紙の兜の意匠が使われた施設は他にもありそうだな、とは思っている。



豊北公園（大阪市東淀川区）のタイル
A tile at Toyokita park in Osaka

この折紙散歩シリーズでは、以前も「兜の折り紙」を取り上げたことがある。倉敷・日本郷土玩具館の、兜が折れる折り線付き入場券と、柴又帝釈天の加太守(かぶとまもり)だ。そして、町を散歩していて、他にも何度か折り紙の兜に遭遇したことがある。折鶴モノを探してその匂いがする店を確認したさい、小物入れや香合など、折り紙の兜を使ったものを見つけたのである。工芸品に使われる折り紙意匠において、兜は、折鶴と結び文(紙を五角形に結んだもの)に次ぐものかもしれない。以前、小林卓夫さんからもらった、カブトムシの切手に兜のスタンプというものも面白い。いつ頃からあるのかははっきりしないモデルだが、伝承折り紙を代表するモデルであることはまちがいないだろう。

そうした兜デザインのなかで、最近、ひとつおもしろいものを見つけた。折鶴以外のコレクションにも手を染め始めた

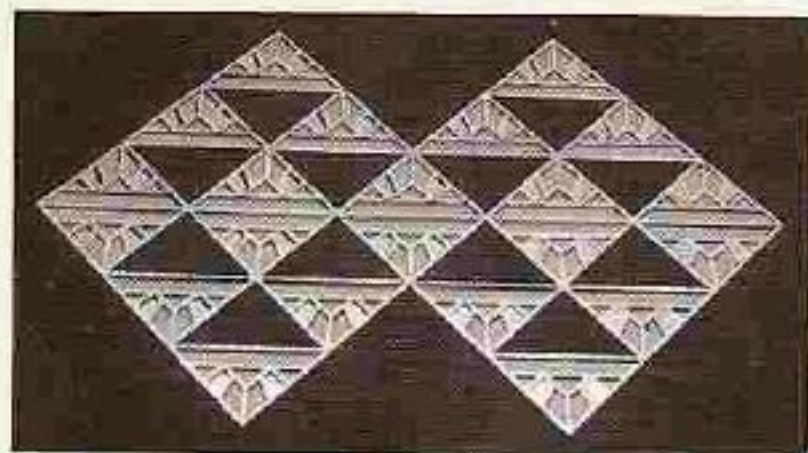


カブトムシの切手と兜のスタンプ
A stamp of a Kabutomushi (samurai helmet beetle) with a postmark of Kabuto

わけではないが、ちょうど普段使いの菓子鉢を探していたこともあったので購入した。渋谷区の猿楽町(代官山)にある、老舗の漆器店・山田平安堂の菓子重である。端午の節句の季節限定物らしいのだが、これの兜の使い方がユニークだ。折り紙における幾何学性を改めて意識させるデザインになっている。兜の輪郭はほぼ直角二等辺三角形そのものだが、この菓子重では、その幾何学的特徴を生かして、それをモザイク的に敷き詰めたデザインを使っている。兜であることに気がつかないひともいるかもしれない。こうした幾何学的装飾性はきわめてモダンであると同時に江戸的でもある。というよりも、逆説的だが、江戸的なデザインはモダンである。山田平安堂の創業は大正時代だけれどね。



山田平安堂（東京都渋谷区）の漆器
A Japan box of Yamada Heian-do (Tokyo)



漆器の模様部分のアップ
Close-up of a Japan box

■コンベンション開催のたびに、あちこちから新しい息吹が発芽してきているのを実感。折紙衝動を一気に解放したようなエネルギーが渦巻いた5月の神戸に続き、次はいよいよ東京です。早めの準備をお忘れなく



「インフィニ(黒:30枚組、赤:30枚組、緑:12枚組、ピンク:12枚組、茶:6枚組)」作：川村みゆき(P.4)

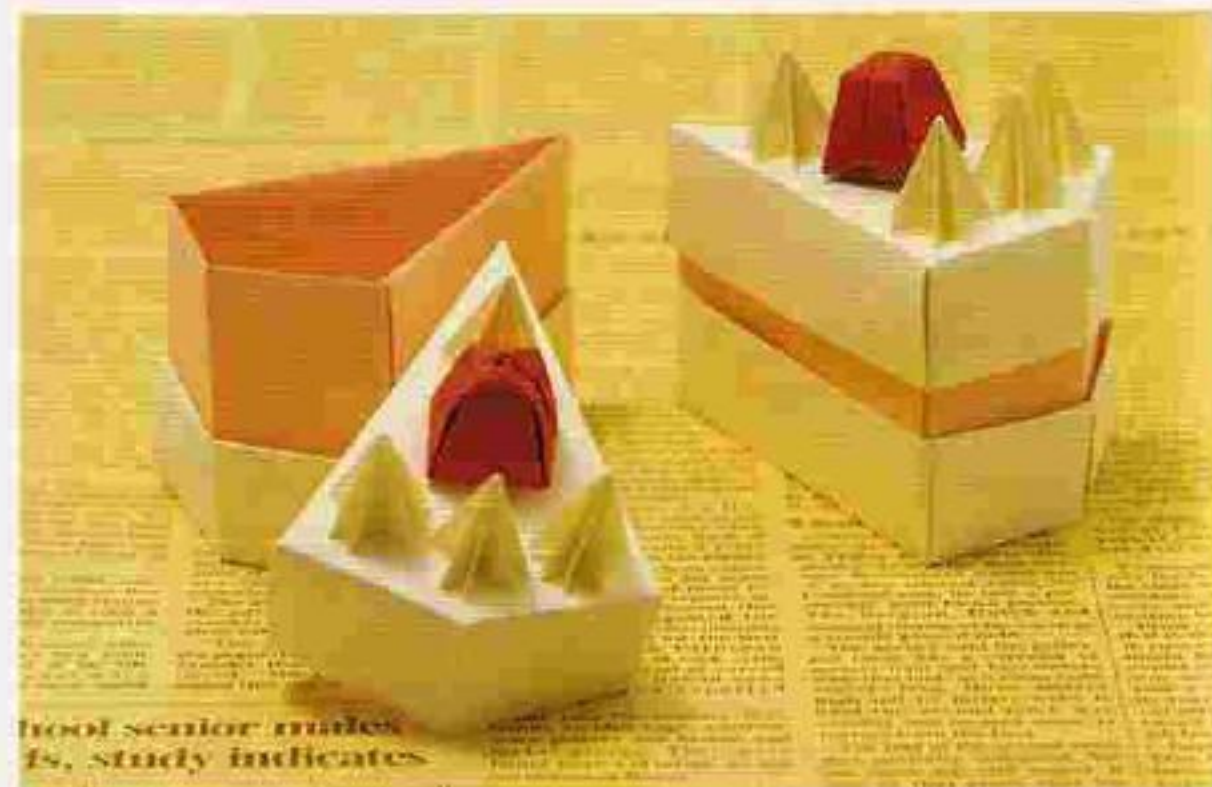
INFINY (Black: 30 sheets, Red: 30 sheets, Green: 12 sheets, Pink: 12 sheets, Brown: 6 sheets)
:Kawamura Miyuki (P.4)

■直線的な部分と曲面的な部分で色彩を区別する構造により、パーツが増えて形状が複雑になっても明快な説得力が発揮されます。自然の構造物や植物を見て、「あ、これ、川村さんのユニットを真似したみたい」と思うことが多い今日この頃…かなり、頭が折紙に浸食されているような気が。

「ケーキ型ボックス」作：やまぐち真(P.8)

Cake-Shaped Box: Yamaguchi Makoto (P.8)

■リアルサイズにするもよし、手頃なミニサイズも楽しい。用紙の質にこだわって、きめの細かい高級感を出してみるのもよいでしょう。ふ気が付くと丸く並ぶところまで量産してしまった、なんてことがあるかも



「ライオン」作：川畑文昭(P.22)
Lion: Kawahata Fumiaki (P.22)

■額に集中する線によって、濃密な情報量とともに威厳すらも漂わせているかのような顔面。同じテーマの作品はこれまでも数多くつくられています。特にたてがみ全体の立体形状イメージに、それぞれの作家ならではの技術・方向性を盛り込みたくなる題材なのかもしれません。

第7回折紙探偵団関西コンベンション展示作品より

From the 7th Origami Tanteidan Kansai Convention Exhibition

■作品展示室には「ラング氏専用展示机」が設置され、文字通り「湧く湧く昆虫ランド」状態。さらに、ごく一部のマニアのあいだ…にとどまらず、折紙者のあいだで広く知られるようになった新世代作家による、汲めども尽きぬ新作群にも要注目です。



Oval Tessellation: Robert J. Lang



A Miura-ken Beauty Rose: Robert J. Lang



Stag Beetle BP: Robert J. Lang



Tree Frog: Robert J. Lang



Spider: Katsuta Kyohei



Gemini: Kawashima Hideaki



Reindeer: Mitsumori Yasuro

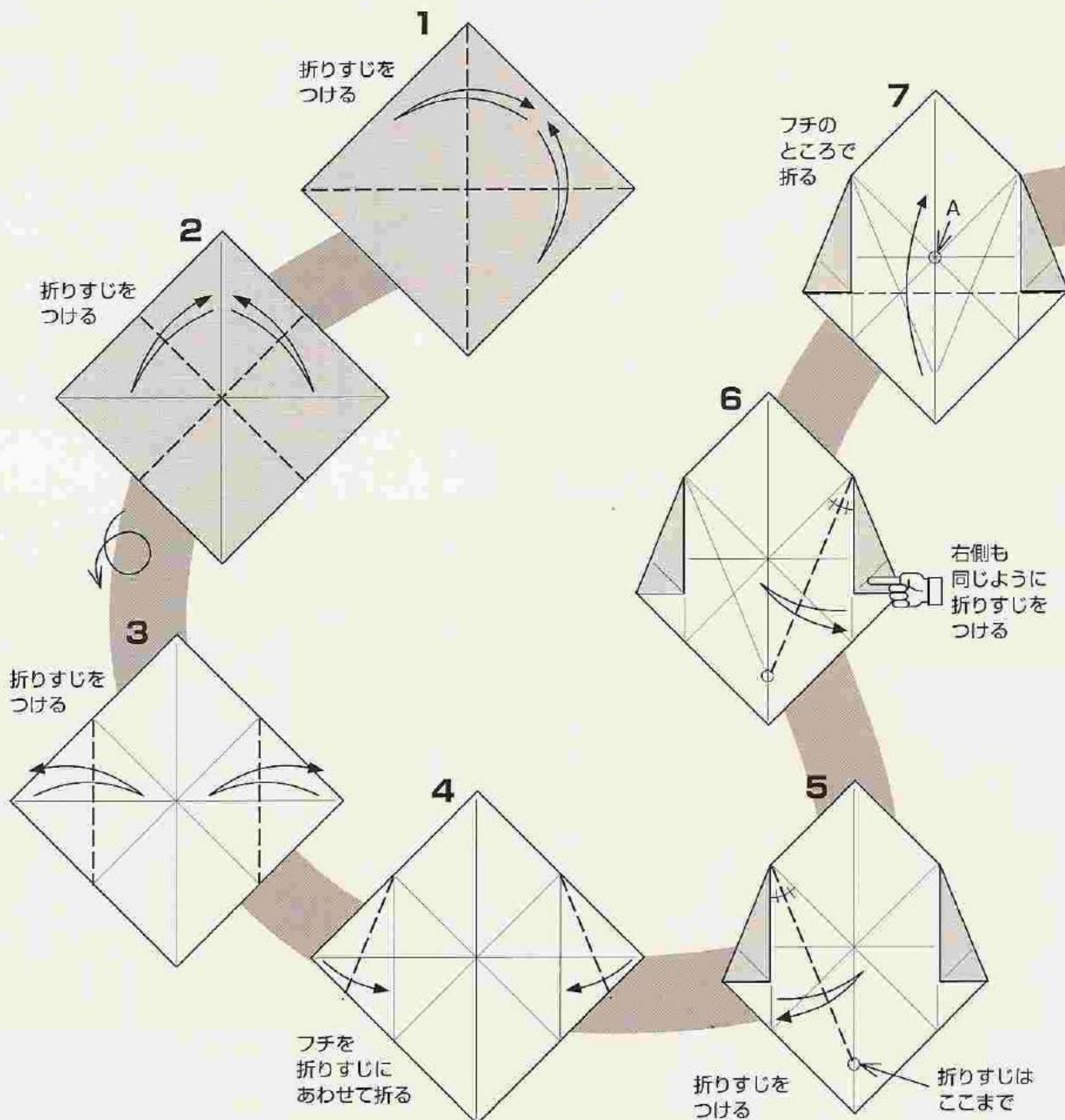
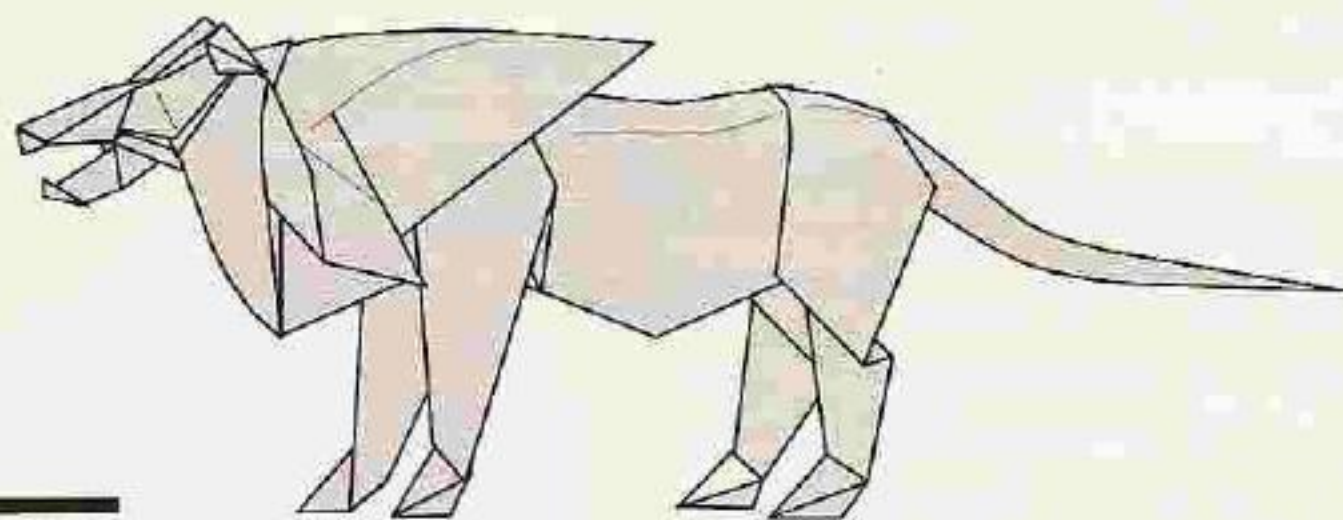


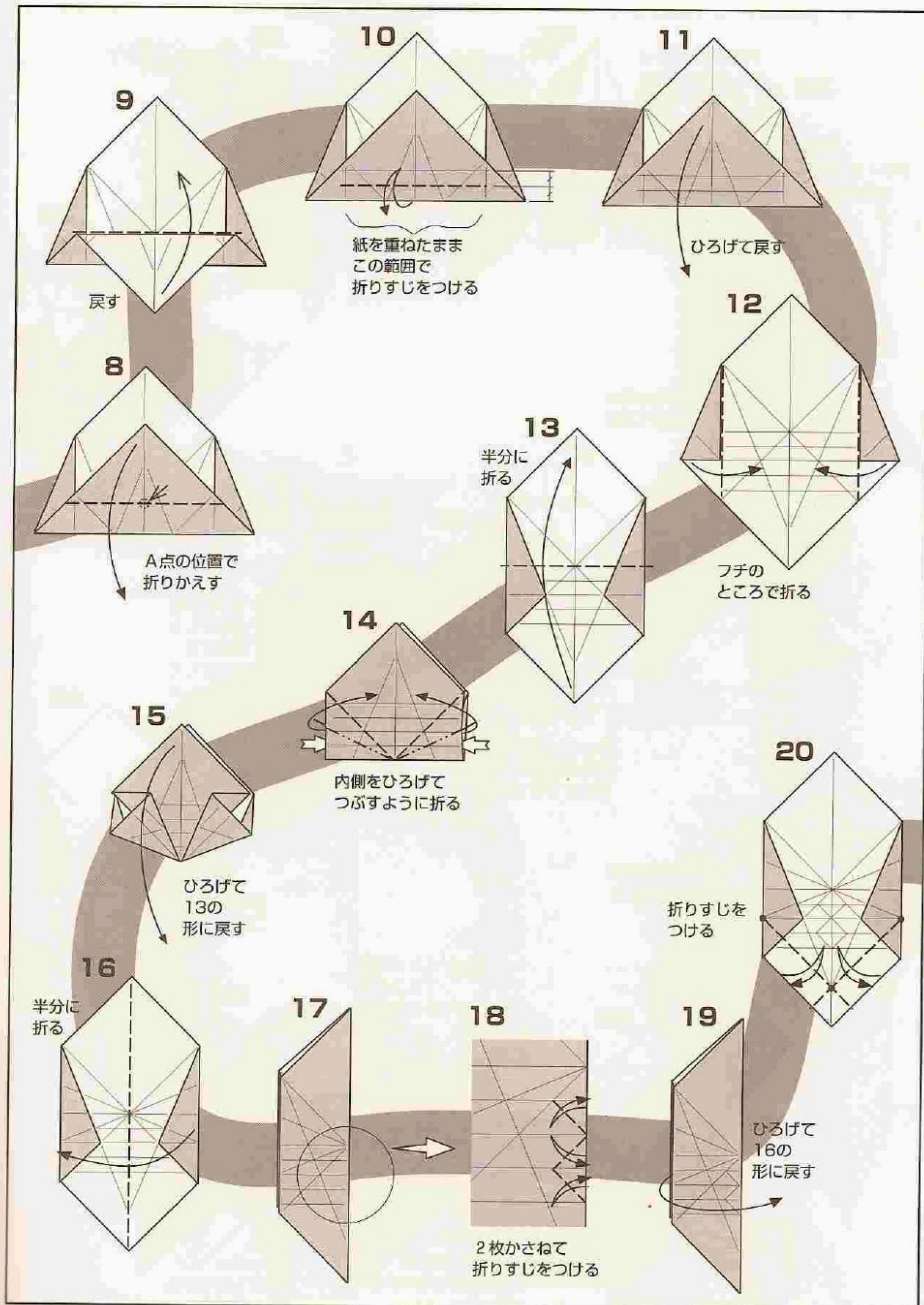
Shoebill: Katsuta Kyohei

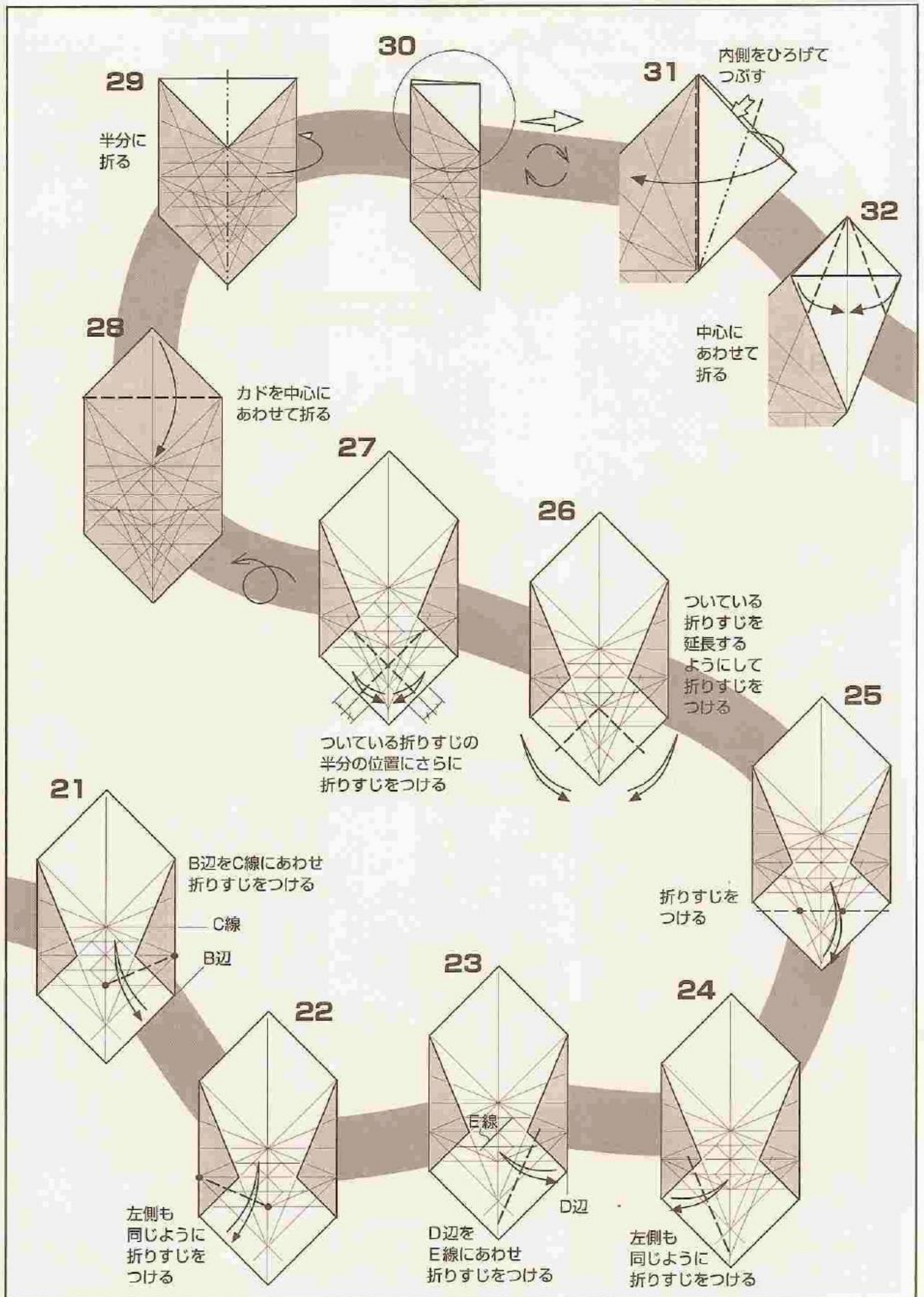
ライオン Lion

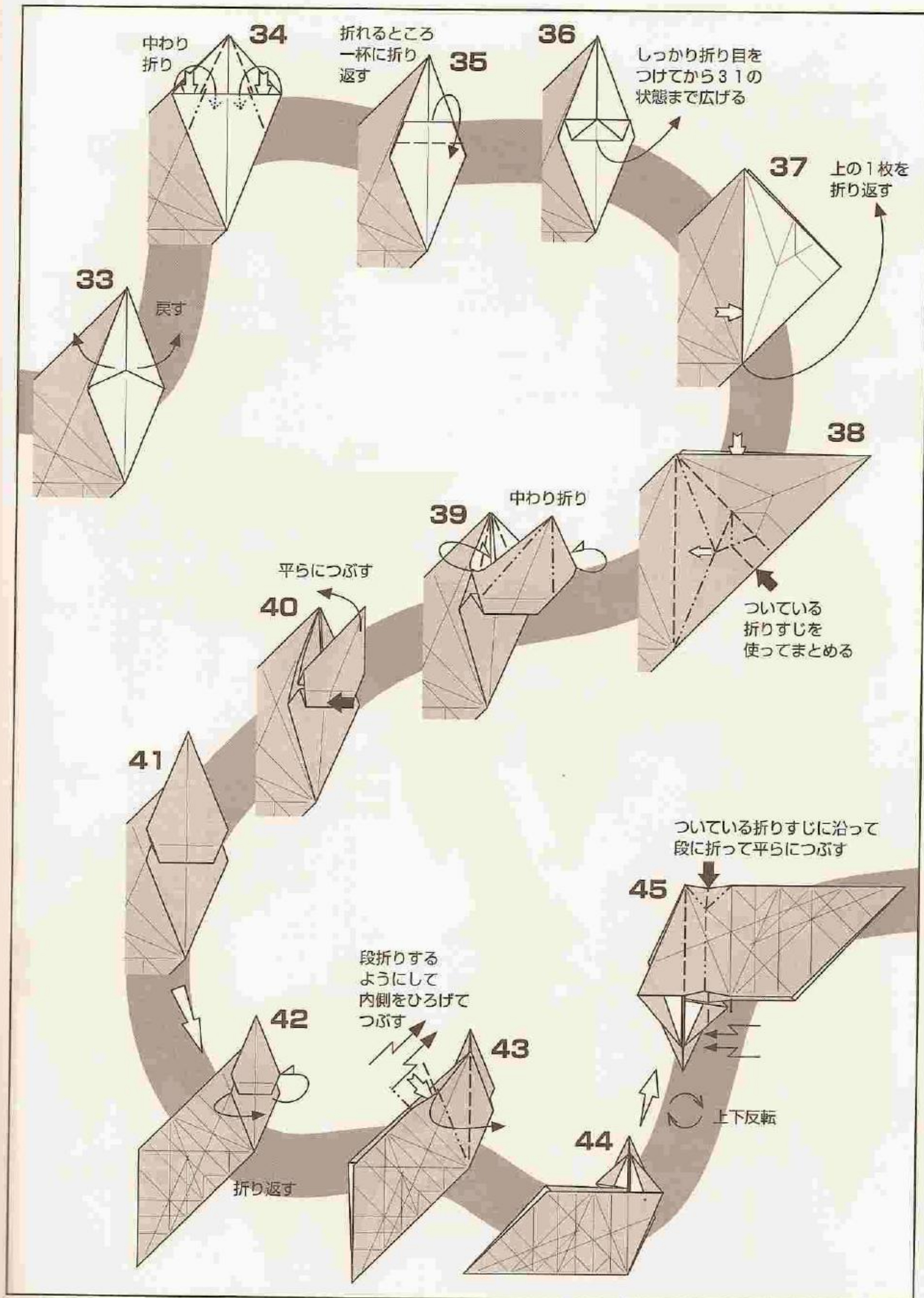
創作 (2004) / 川畑文昭

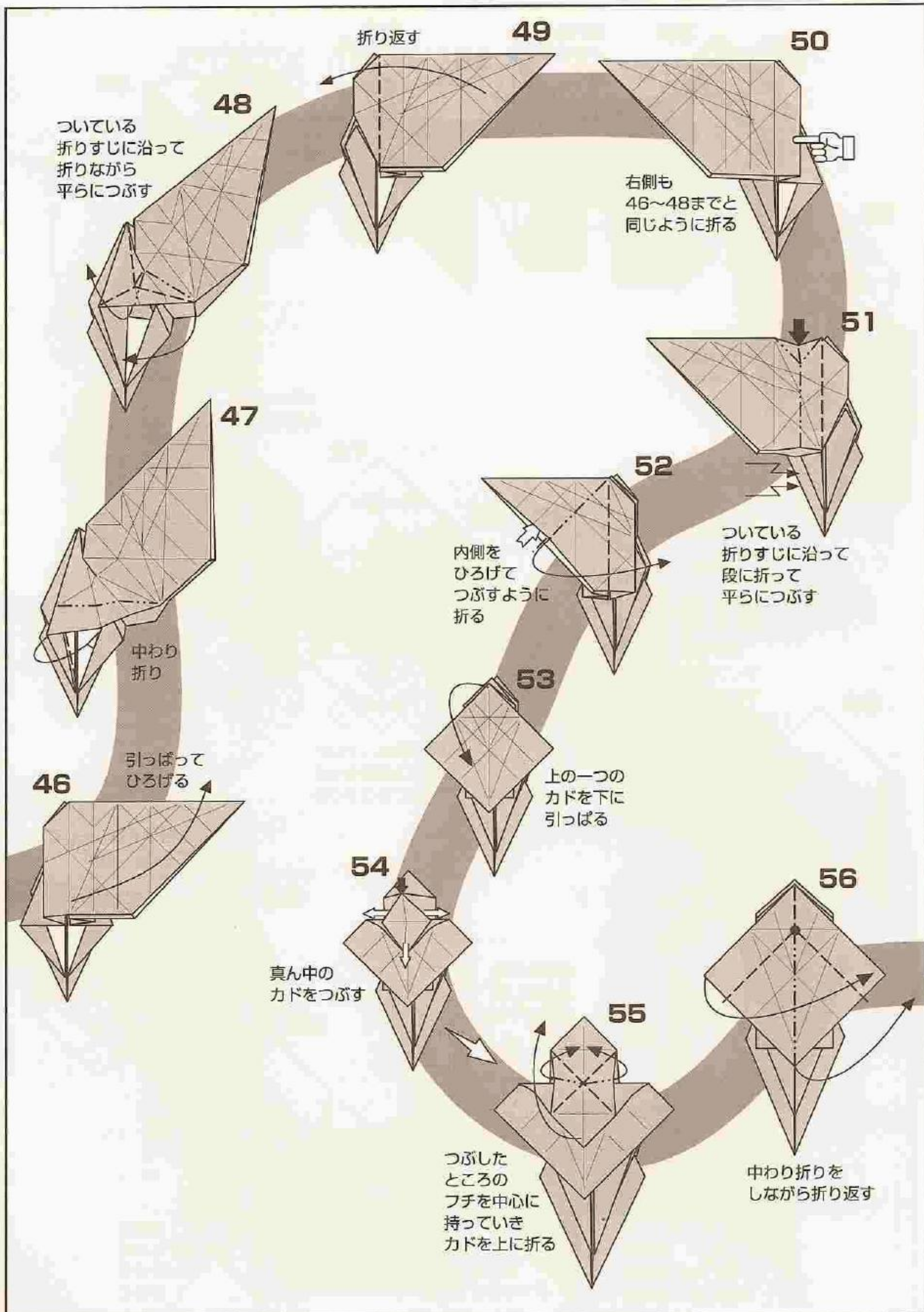
Copyright By Kawahata Fumiaki 2006

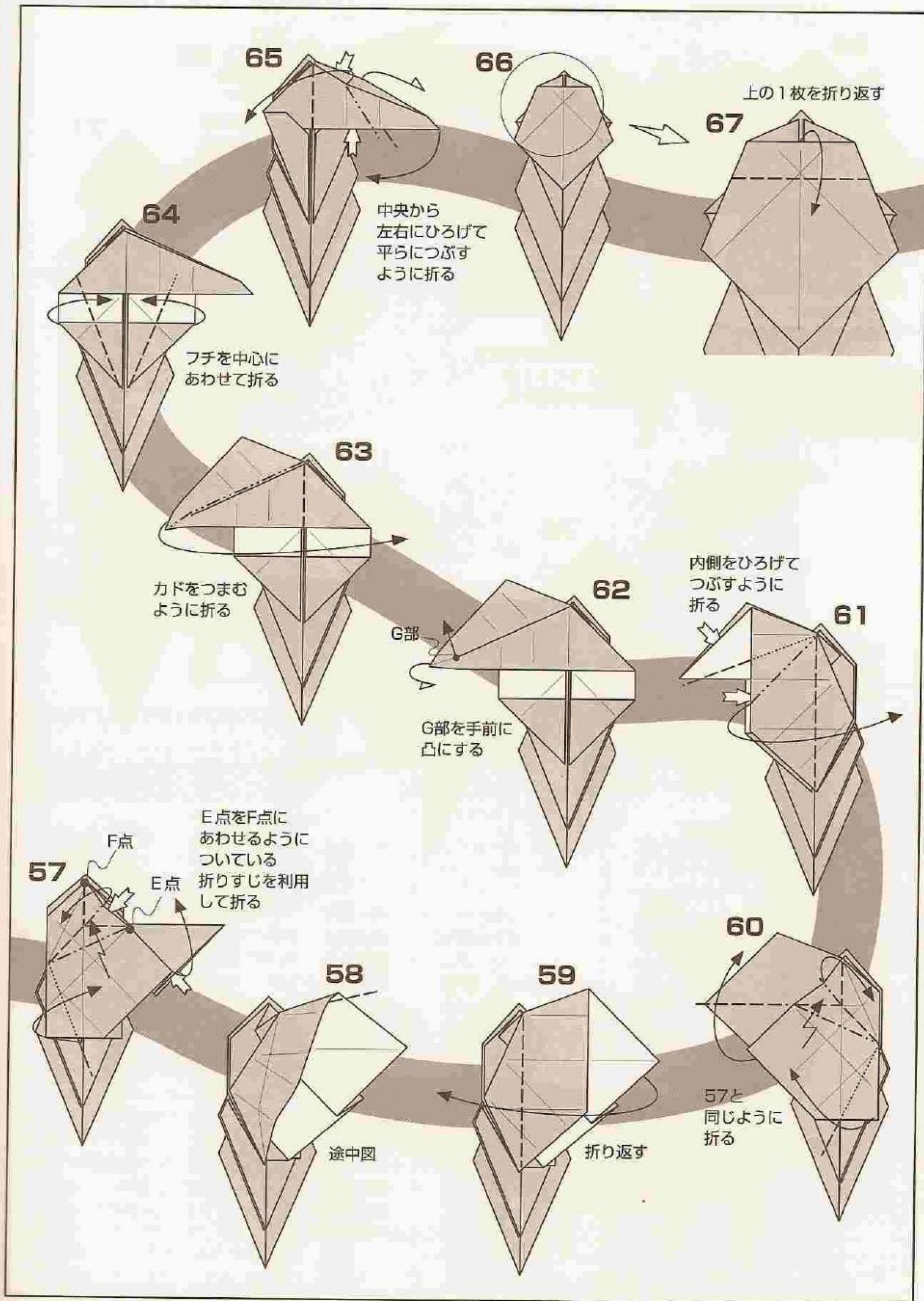


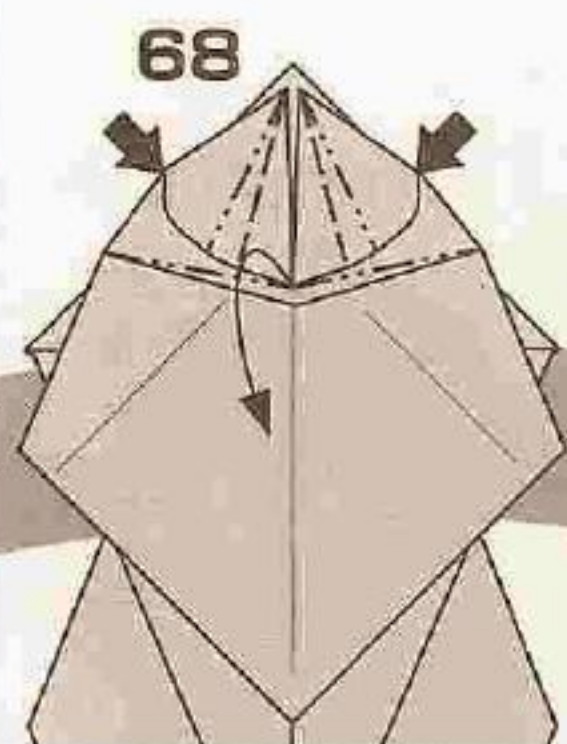




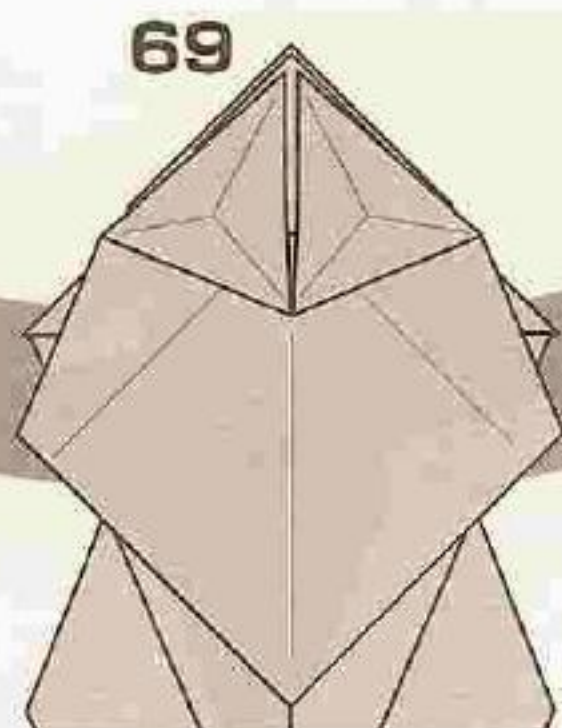




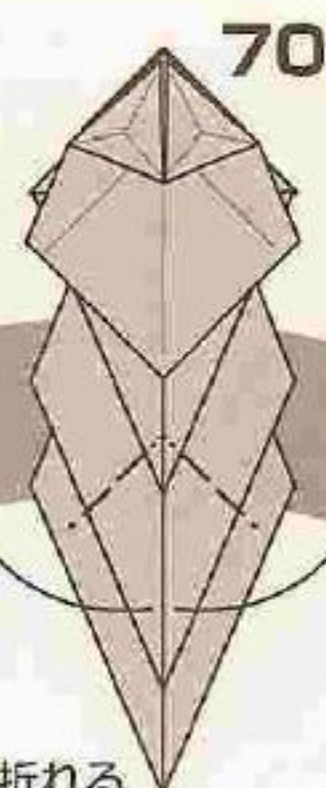




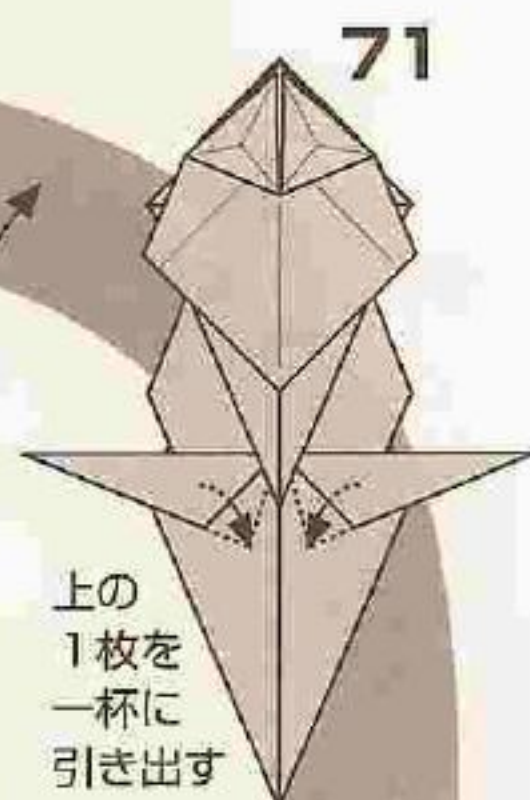
手前に起きてくる
両側のカドを平らに
つぶす



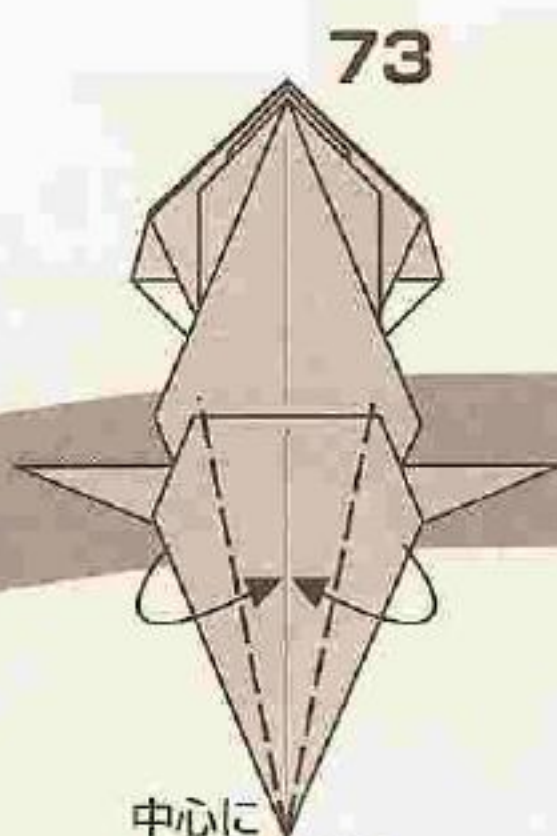
折り上げた形
つぶした三角形が中央で
そろうように67の
折る位置を調整する



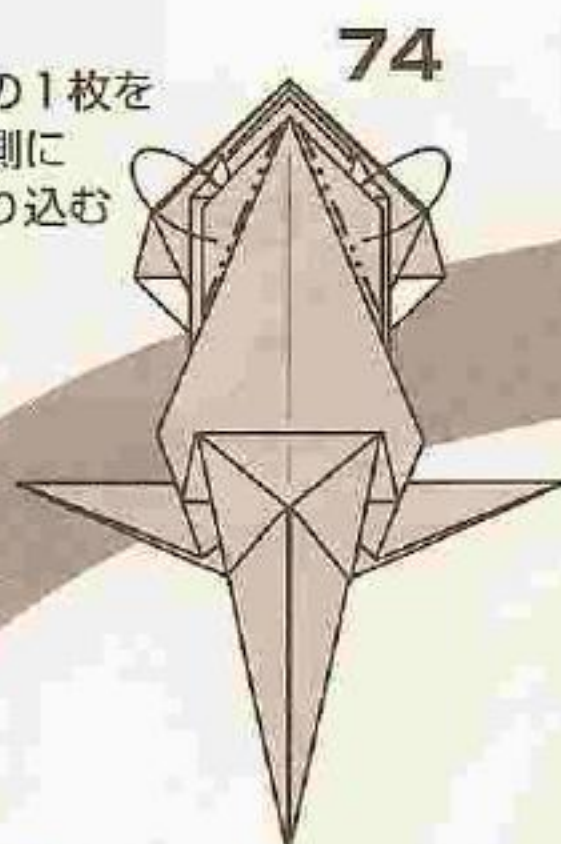
折れる
ところまで
一杯に折る



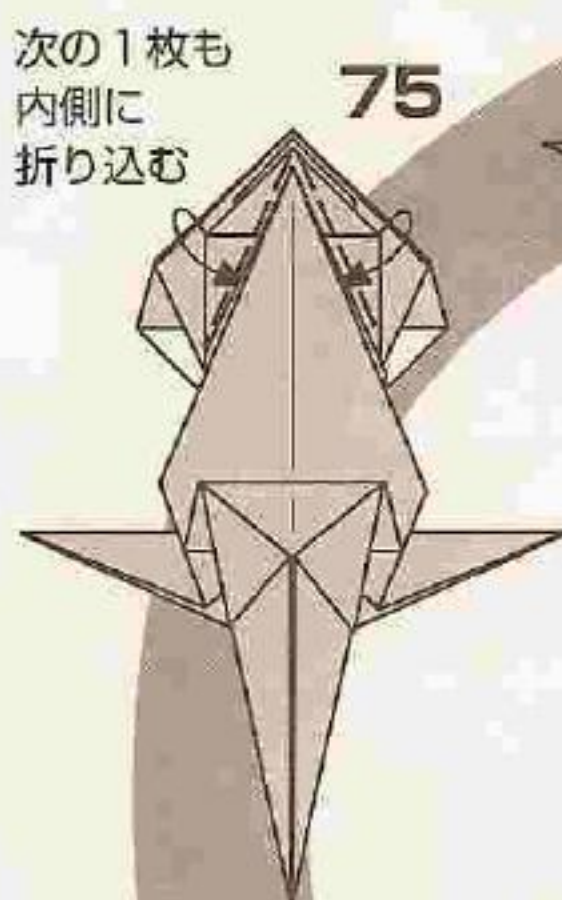
上の
1枚を
一杯に
引き出す



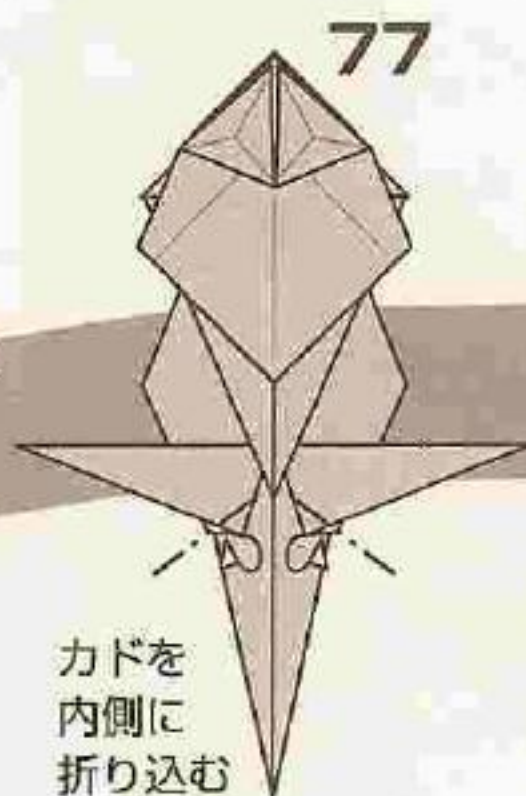
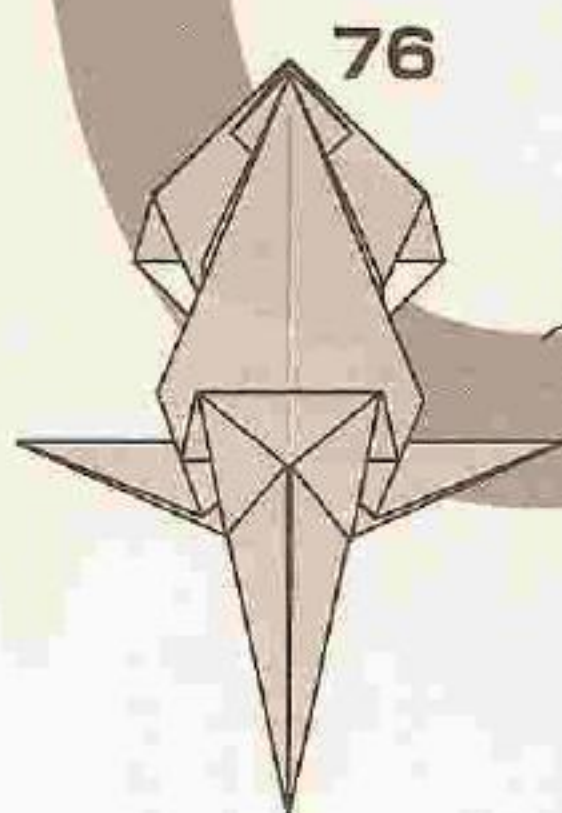
中心に
あわせて折る



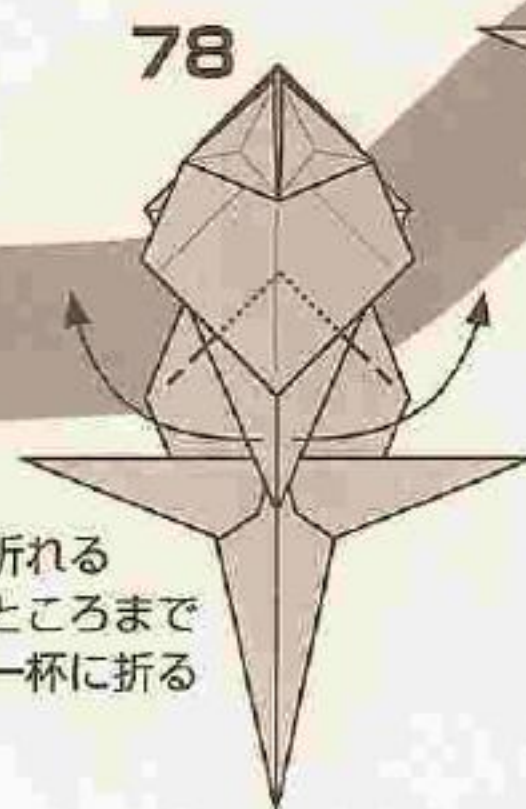
上の1枚を
内側に
折り込む



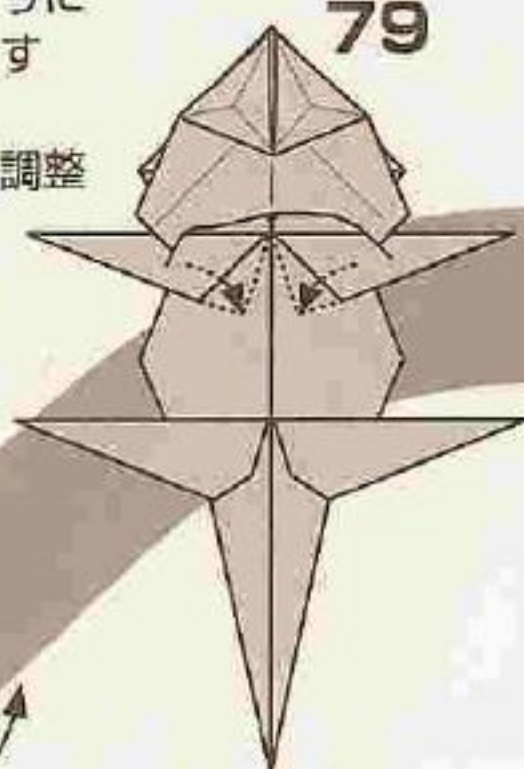
次の1枚も
内側に
折り込む



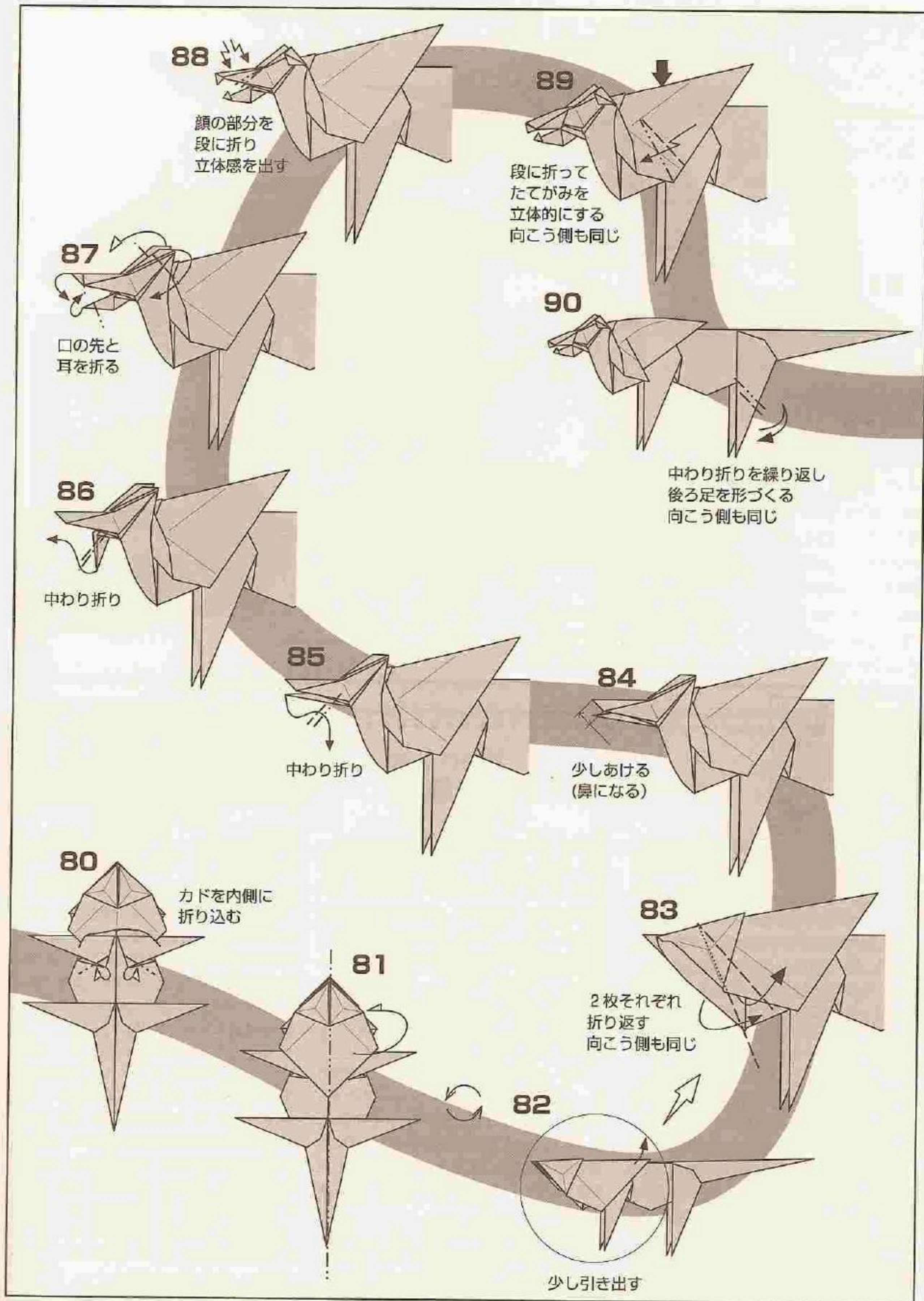
カドを
内側に
折り込む

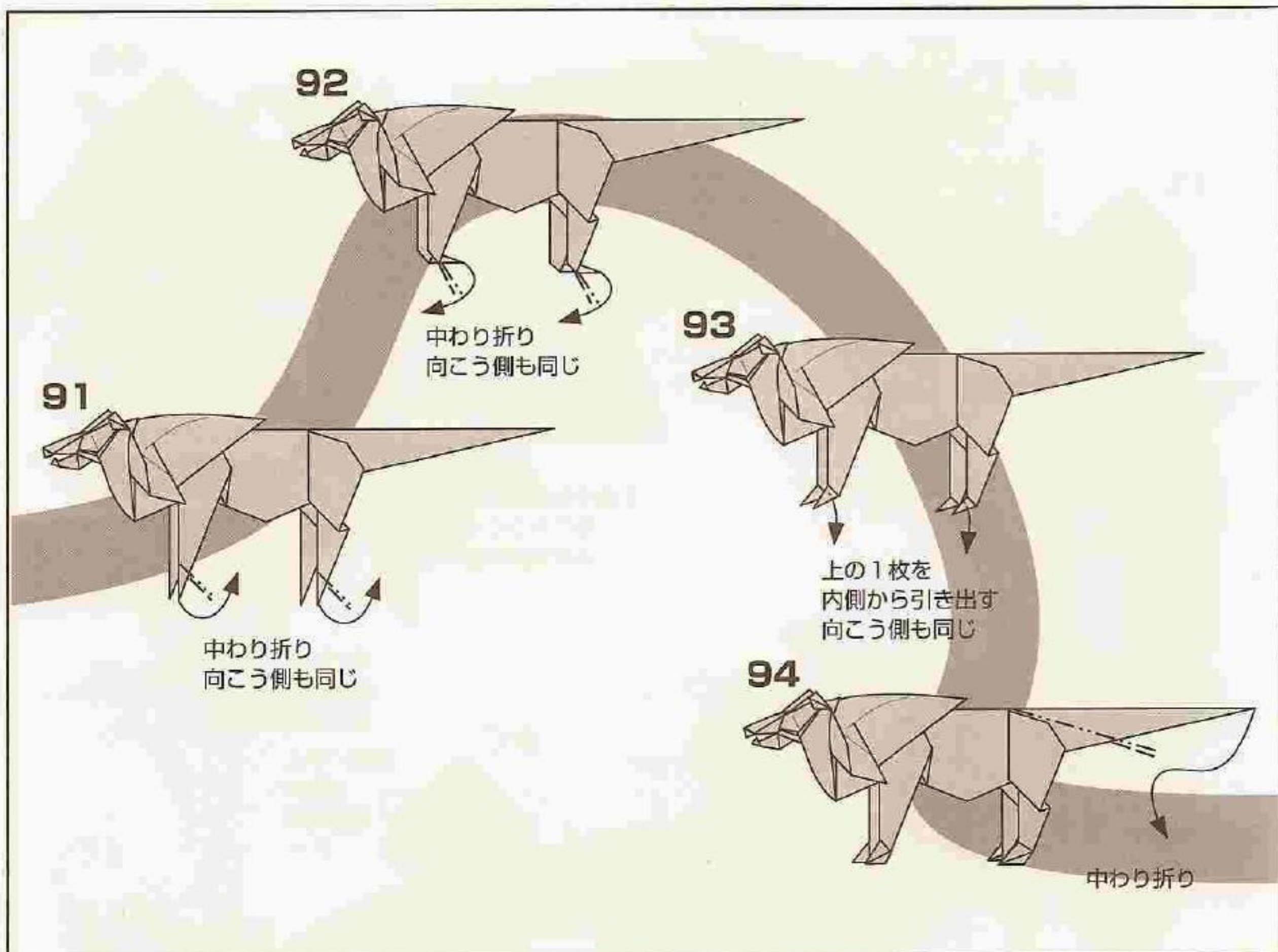


折れる
ところまで
一杯に折る



71と
同じように
引き出す
ただし
位置は調整





おりすじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

1番の趣味 My Best Interest

宮本宙也
Miyamoto Chuya

折り紙に初めて触れたのは保育園の頃で、確か鶴の折り方を教わった時です。みんなが折れたのに僕一人だけが最後までできず、それが嫌で後日親に折り紙の本を買ってもらい、鶴をようやく完成させることができました。それが始めたきっかけです。といっても、「僕の趣味は折り紙」と自覚するのはまだ先のことで、他の趣味をやっている合間合間に少しずつ続けていました。僕にとっての折り紙は「2番目の趣味」でした。

小学校の頃はいろいろな趣味を1番にできました。漢字マニア、昆虫採集、タミヤ模型、ペンシルパズルにも夢中になったり。しかし、どれも熱中するものの、飽きっぽいのである時期を過ぎると急に興味を無くし、次の趣味に移っていきました。そんな中で折り紙だけは、いつも自分の中で「2番目」でした。そのうち、僕は少し不安になってきました。好きなことはいっぱいあったのに、どれも長く続かない。これから先、自分の人生を象徴

する何かに出会う日は来るのだろうか？ 適当に働いて適当に生活して、それだけの人生にならないか？

折り紙が僕の1番になったのは小学校6年、おりがみはうすを訪ねたときからでした。見たこともない複雑な作品や折り図に夢中になる日々。今までのどんな趣味よりも楽しい。折り紙ならずっと続けられるかも。でも油断はできない。飽きっぽい性格だから、折り紙だって同じ。別れの日はいつかやって来る。覚悟しておかないと。

実は一度、折り紙を離れようとしたことがありました。高校では折り紙ばかりしていて、しかも友達には内緒でした。だから大学ではもっと堂々と人に言える趣味を作りたくなり、2つのサークルに入りました。最初は練習三昧の日々を楽しんでいたのですが、半年も経たずに耐えられなくなりました。

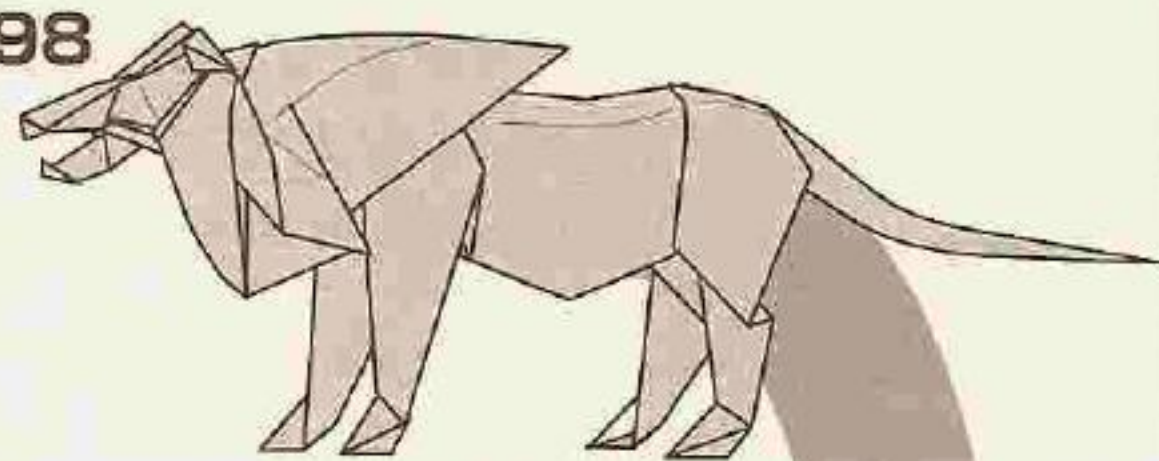
折り紙をする時間がとれない。サークルの活動中も、今日何時間折り紙やったっけと気になって仕方がない。授業中や電車で折り紙を

してもまだ足りない。サークルに時間をとられているからだ。ええい、2つともやめちゃえ！…あれ？ なにか理想の大学生活と違うくない？

ここで初めて、自分は折り紙を好きになりすぎて、取り返しがつかなくなっていると気がきました。折り紙から離れようとして失敗しました。多分これからいくら離れようと努力しても無理でしょう。来ると思っていた「飽きる」日は永久に来ないでしょう。なんてこった。僕の人生の象徴、折り紙になっちゃった。

これからどんな人生を歩もうと、この趣味はずっと僕に干渉し続けるでしょう。こいつは第2の趣味を持つことを許さない位にまで大きな存在になってきました。この調子でまさか職まで、と不安になるときも。でも、幼い頃のそれとは全く逆の不安です。こうなることを望んでいました。アイデンティティーの確立、これが何より嬉しいです。お前は誰だと訊かれたら、職でもなく所属でもなく、趣味で自分を表すことができます。僕は、折り紙愛好家です。

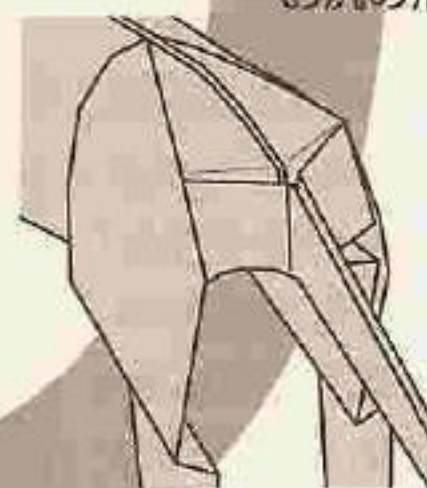
98



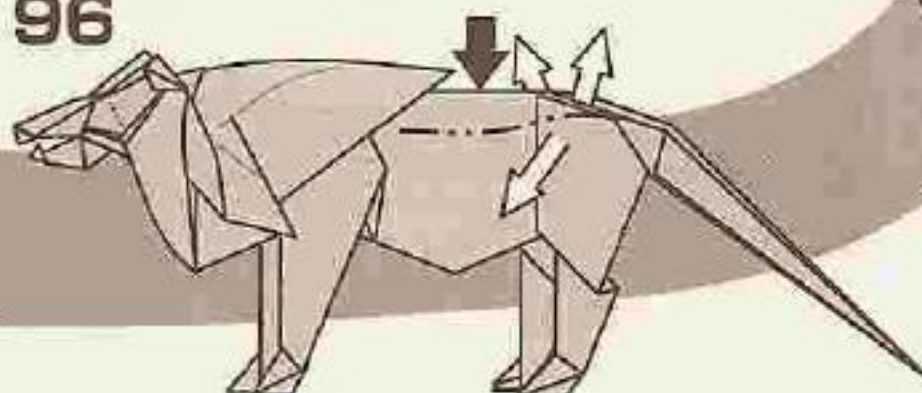
でき上がり
写真を参考に
自由に仕上げて下さい

97

お尻の形

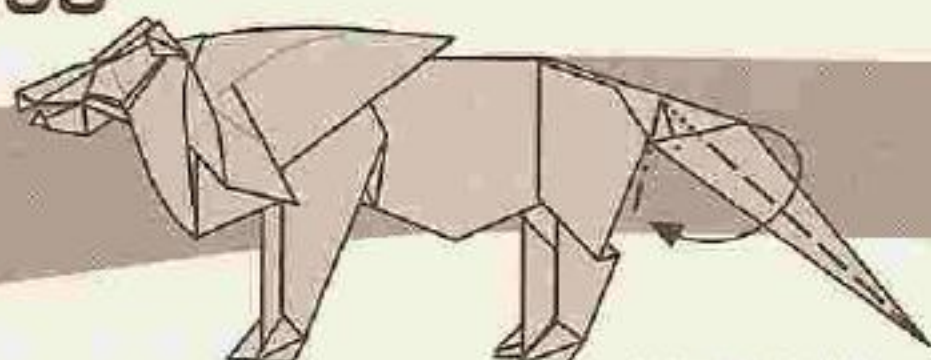


96



背中からお尻を
内側から膨らませる
ように丸くする

95



尾を細く折る
向こう側も同じ

折紙三昧

30

Origami-Zanmai (This Origami and That)

新任の挨拶

Address from the New Chair of the Board

規約による任期満了により日本折紙学会代表を退いた西川誠司さんを引き継いで、わたしこと前川淳が会の代表になりました。また、前号でもお知らせしたように、木村良寿さんが評議員を退き、川畑文昭さんが評議員に復帰、津田良夫さんが新評議員に選任されました。これら新評議員を含めた他の評議員、事務局と共に、会を運営していきます。西川さん、木村さんにも、引き続きスタッフとして力を貸してもらいます。

会の運営の方針ですが、『折紙探偵団』の発行とコンベンションの運営を中心に、友の会、図書館、講師認定制度などの諸事業を、きちんと続けていくことが、なにより第一だと考えています。

いま以上に学会という名に相応しい活動をする責任も感じています。近年、折り紙と科学技術や数学など専門性の高い分野との関わりは、より強くなってきています。歴史研究も進んできています。それらの情報集約発信機関としての役割も自覚しなければなりません。一方、そうした専門性とともに、「学会」の集まりに、老若男女、あらゆるひとが集まるのが、折り紙の世界の面白いところです。会をより以上にオープンなものにしていくことも必要です。

任は重く、頼りない代表ですが、よろしくお願いします。

関係ないようで、あるような、以下の言葉を思い出しています。

「大事なことは主流にならぬことだ。傍流でよく状況を見ていくことだ。舞台上で主役をつとめていると、多くのものを見落として

しまう。その見落とされたものの中に大事なものがある。それを見つけてゆくことだ。人の喜びを自分も本当に喜べるようになることだ。人がすぐれた仕事をしているとケチをつけるものが多いが、そういうことはどんな場合にもつつしまなければならぬ。また人の邪魔をしてはいけない。自分がその場で必要をみとめられないときはだまってしかも人の気にならないようにそこにいることだ。」(渋谷敬三氏が宮本常一氏に述べた言葉『民俗学の旅』宮本常一著)

以上、ちょっとまじめな前川でした。なお、今回は特別版でしたが、次回からこのコーナーは西川さんのエッセイに戻ります。

前川 淳 Maekawa Jun
日本折紙学会 評議員代表

ラングさんの丹波篠山訪問記

—FUJIMOTOのルーツを訪ねて—

Robert J. Lang Visits Fujimoto in Sasayama, Hyogo

取材:西川誠司/北條高史 通訳:立石浩一

Reporter: Nishikawa Seji, Hojyo Takashi / Translator: Tateishi Koichi

関西コンベンションの翌日、山口真さん、立石浩一さん、北條高史さんそして今回のコンベンションに招かれたロバート・ラングさんに私を加えた5名は、山口さんの車に乗り込み神戸から丹波篠山へと向かった。平織り、あじさい折り、漸近法と呼ばれる用紙の等分割法など折り紙の一分野を切り開いた藤本修三さんを訪ねるためである。ラングさんは9月にロサンゼルス近郊で開かれる第4回折り紙の科学国際会議の準備で忙しい中、関西コンベンションの招待に応じてくれた。神戸と丹波篠山は車で1時間ほどの場所である。この機会に是非、幾何学的折り紙のバイオニアたる藤本さんを訪ねたいとの願いが叶った。

藤本さんは1922年生まれの84歳。浜松工業高校(現静岡大学工学部)の応用化学科を出た。終戦後、製薬会社の研究所などを経て長らく高校の化学教諭を務めた。最初の著書『創造性を開発する立体折り紙』(新写植出版、1976年8月1日発行、JOAS図書収蔵)には既に「星じゃばら」、「貫入じょうご型6面体や8面体」(私はこの構造を日本折紙協会の雑誌『おりがみ』98号収載時の「ス

ケルトン」として覚えている。93号—99号(1983年)に“おりがみ研究室”を藤本さんが連載した中でのことだ)、平織りの透過光による表現(雑誌『おりがみ』では78号(1982年)に紹介)、両面表平織(!)、多面体など非常に多方面の

作例が紹介されている。その著書の中で、後に自費出版で幾つか共著を書くことになる同僚で地学教諭の西脇正己さんがまえがきに、「ところで、藤本氏がどのようにして折り紙にとりつかれたのか、私は知らない。私が氏と同じ学校に勤務するようになったときには、すでに学校中に作品がハンランしていたからである。—中略—我々新入は、氏の折り紙知恵の輪の洗礼をうける。それから4年、その間にも多くの作品が増えた。なお続く様相である。」とあるから、1972年にはすでに、折り紙に熱中して久しかった。また、『創造性を開発する立体折り紙』の出版と同じ1976年には三重県で行われた日本理化学協会の大会で折り紙による結晶構造模型を用いた化学教育の実践例を藤本さんは発表している。この大会では伏見康治先生が記念講演をしており、お二人の出会いはこちらに始まっているようだ。上述したように、藤本さんを雑誌『おりがみ』が紹介したのは1982年になってからのことで、最初の著書から6年が経過している。一方、海外では『The magazine of the Brit-



▲藤本さんの漸近法の説明を熱心に聞き入るラングさん

ish Origami Society』vol. 91(1981年発行、JOAS図書収蔵)の中で、デビッド・ブリルさんが「1979年に行ったBOSの折紙展(於バーミンガム)で展示されたFUJIMOTOの作品を覚えている方もいだろう」と、藤本さんのねじり折りの新鮮さを語っている。以降、BOSマガジンでは藤本作品が幾度か紹介される。最初の本を著した1976年以降、急速に藤本さんの折り紙は学校内を飛び出し国内外の愛好家を魅了しはじめる。

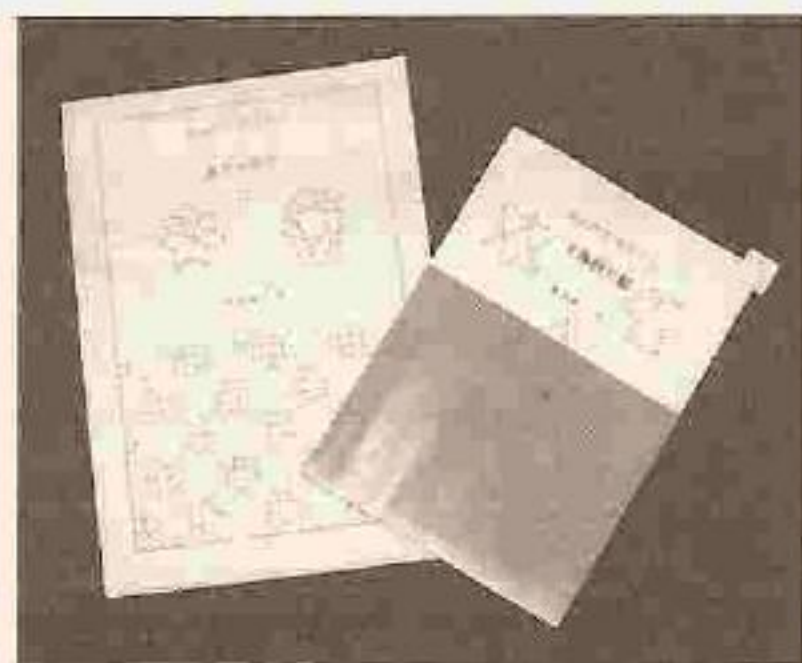
さて、1970年代以前の藤本さんはどうだったろう。同僚の西脇さんも前書きに“知らない”と書いた学校中をハンランさせた折り紙はどのような情熱で生まれたのだろうか。今回の訪問では、立石さんの通訳のもとラングさんと藤本さんの対談が実現した。上述したように、BOSマガジンでの紹介は非常に大きな意味を持っていたと思われる。クリス・パルマーさんやラビ・アプテさんなど海外のFUJIMOTOさんのファンは多い。訪問したお宅は、今は折り紙作品置き場専用となっている。パルマーさんもかつてここを訪問し、その時プレゼントした大きな



Tessellationが並べられていた。

ラング>次に書く折り紙の数学に関する本のなかで、藤本先生のプロフィールを紹介したいと考えています。

藤本>そうですか。(昔の自作品を示しながら)こんなん、今はもうよう折らんです。分解したら元にもどらへんし(笑)。いま、渡した本(『創造性を開発するーねじり折り(2)』)1983年、JOAS図書収



蔵)に漸近等分法が載っていますよ。僕は鳳鳴高校(丹波篠山にある)というところに化学の教師としてずっと居たんですけど、この本の共著者は地学の先生(前述の西脇さん)です。理科室は折り紙折っているいろいろ研究するにはいいとこです。

北條>伏見先生が参議院議員のときに藤本先生の例を出して、「非常に早い段階で先駆的なお仕事をされているのに、必ずしもプライオリティーを評価されていない」ということへの問題意識を、国会質問(1988年、特許法に関しての質問)で触れているんですね。

藤本>いやいや、僕はそんな価値のある男ではないですよ。折り紙ではあまり個人の主張をするのは間違いではないかとも思っています。なんか、やってたら自然にそうなるんです。



▲久しぶりに折り紙談義が弾み、楽しそうな藤本さん

ラング>でも、先生がいろいろとあじさいのパターンとか漸近等分法のパターンなどを発見されて、自然なものであるけれど「発見された」ということがすばらしいのではないですか。

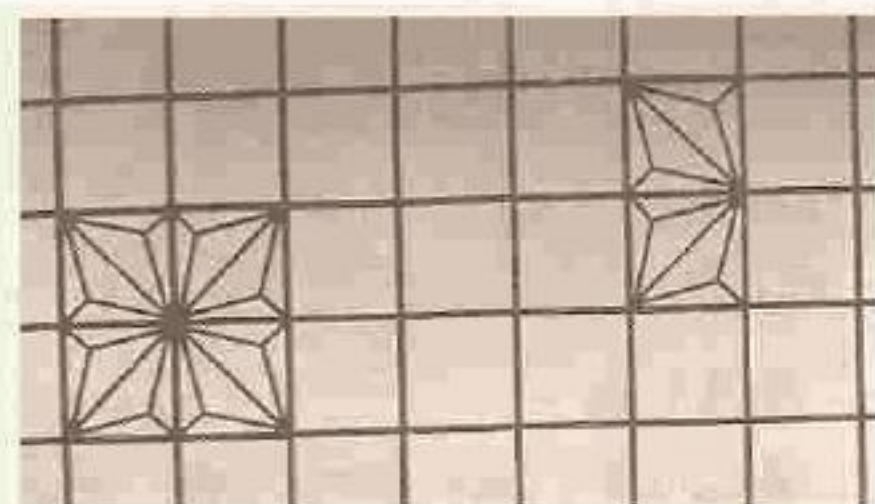
藤本>大学でも分数の意味がわからん人が多いらしいので、学校で紙の等分法を教えるのは大事だと思ってます。5分の1と7分の1を足したらどのくらいになるかとか、13等分した紙を10等分した紙と並べて13分の5というのはどれくらいや、というようにね。「分数の実験」ができるということですね。

ラング>計算というのは数字が単なる記号になっていて、だからこうして折り紙などを使って「量」としてきっちり示せるのはすばらしいですね。

藤本>そういうのは鳳鳴高校に居った頃、修学旅行の汽車の中で良くやりました。

西川>鳳鳴高校に赴任されたのはいつ頃ですか。

藤本>よう覚えとらんですが、昭和25年



▲藤本邸のガラス戸には、カエルの基本形がはめ込まれていた

(1950年)くらいかな。僕は、職員会議とかにも出んと、籠もって折り紙ばかりやとったんです。

西川>理科室ですね。

藤本>職員室とは別のとこにあって。正三角形の簡単な折り方を見つけて(1967年ころと思われる)から熱申し、一生懸命いろんなの折とったんです。折り紙で作った結晶模型は結合角なんか反映できるのでええんです。僕は、戦争中に主計

将校やとったんで戦後はおとなしく外に出んと、折り紙ばかりやとった。ところが、鳳鳴高校でも教育のなんかの大会(前述の1976年の日本理化学協会三重大会)で発表せいということになって、こういう教育的な折り紙の活用法をやとる人は他におらんもんで、ぜひ紹介するようにと言われてしまった。

ラング>皮肉なことですね。身を隠すためにやった折り紙なのに今は折り紙で有名になってしまった。――

藤本さんは、非常に謙虚に、折り紙は自然にできてしまうことを繰り返し強調した。しかし、約4時間におよぶ訪問では藤本さんの折り紙に関する並々ならぬ情熱と洞察を示すキーワードが飛び出す。抑えきれない才能と情熱が丹波篠山から世界に発信されたのである。今回の対談をきっかけに、あらためて藤本作品を数回にわたって紹介していこうと思う。

<文:西川/対談書き起こし:北條>

展開図折りに

Crease Pattern
Challenge!

挑戦

第41回

ケルベロス

Cerberus

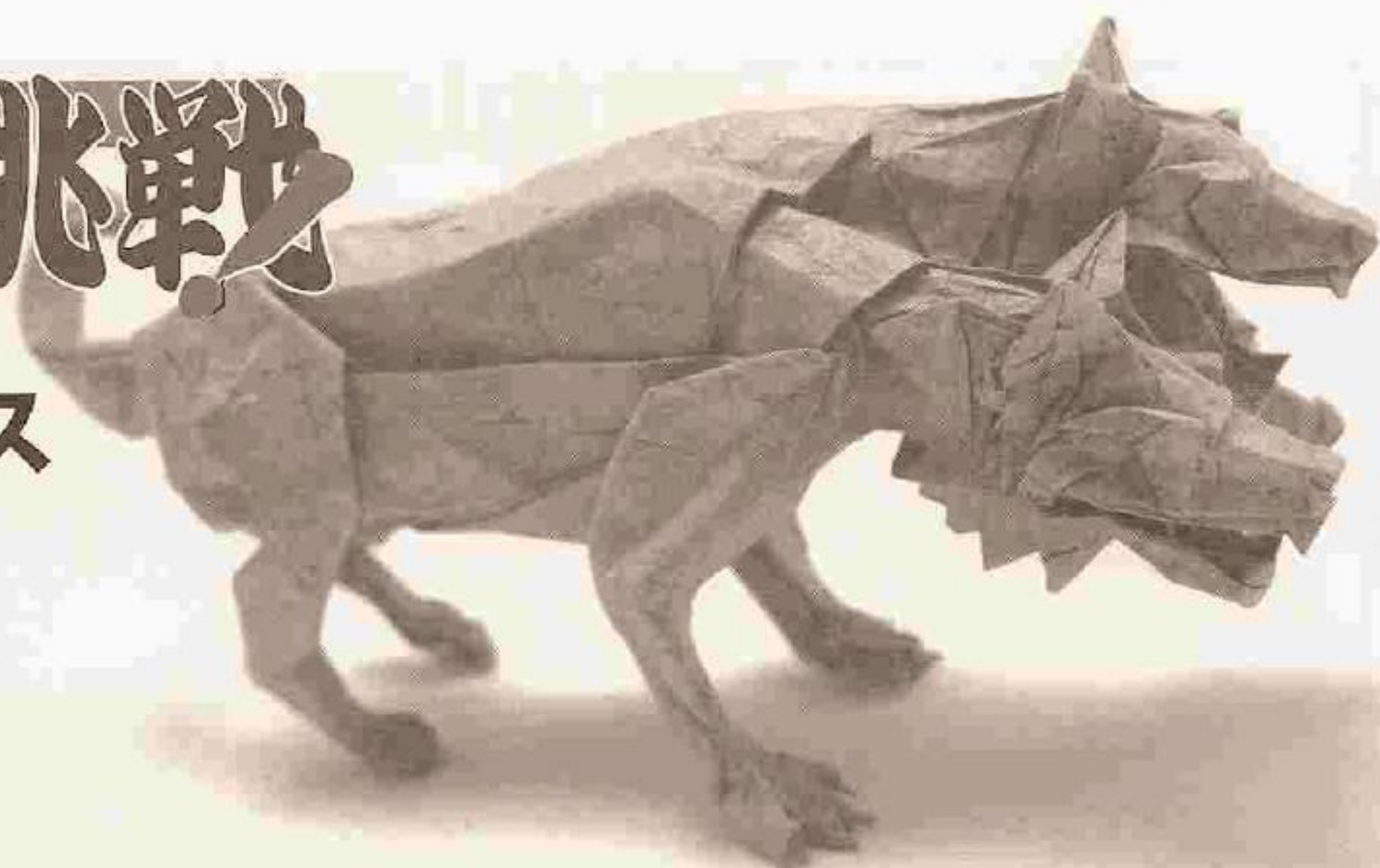
神谷哲史

Kamiya Satoshi

Created : 2005.11

Paper Size : 50×50 cm

Length : 21cm



ケ ルベロスやキングギドラといった頭が3つ(もしくはそれ以上)ある題材の場合、カドの配置がいくつか考えられますが、一番良く使われるのは3つの頭部をそれぞれ正方形のカドに割り当てる配置のようです。この配置は頭部を同じ条件で折り出すことができるのがメリットですが、効率や自由度に問題がでる場合もあります。

この作品では少しひねくれて、3つの頭部を紙の一边に並べる配置を採用しています。カドを半分殺す形になるので多少効率は落ちますが、各部を自然な順番で折り出す事が出来ます。

そういえば何故かこの配置を使っている作品はほとんどありません。悪い配置ではないと思うのですが(キングギドラはちょっと無理ですが)。

中心になる構造は比較的簡単な構造で、その周りにヒダを加えて頭部の造形と足の指を折り出しています。複雑っぽい形を作る常套手段ですね。

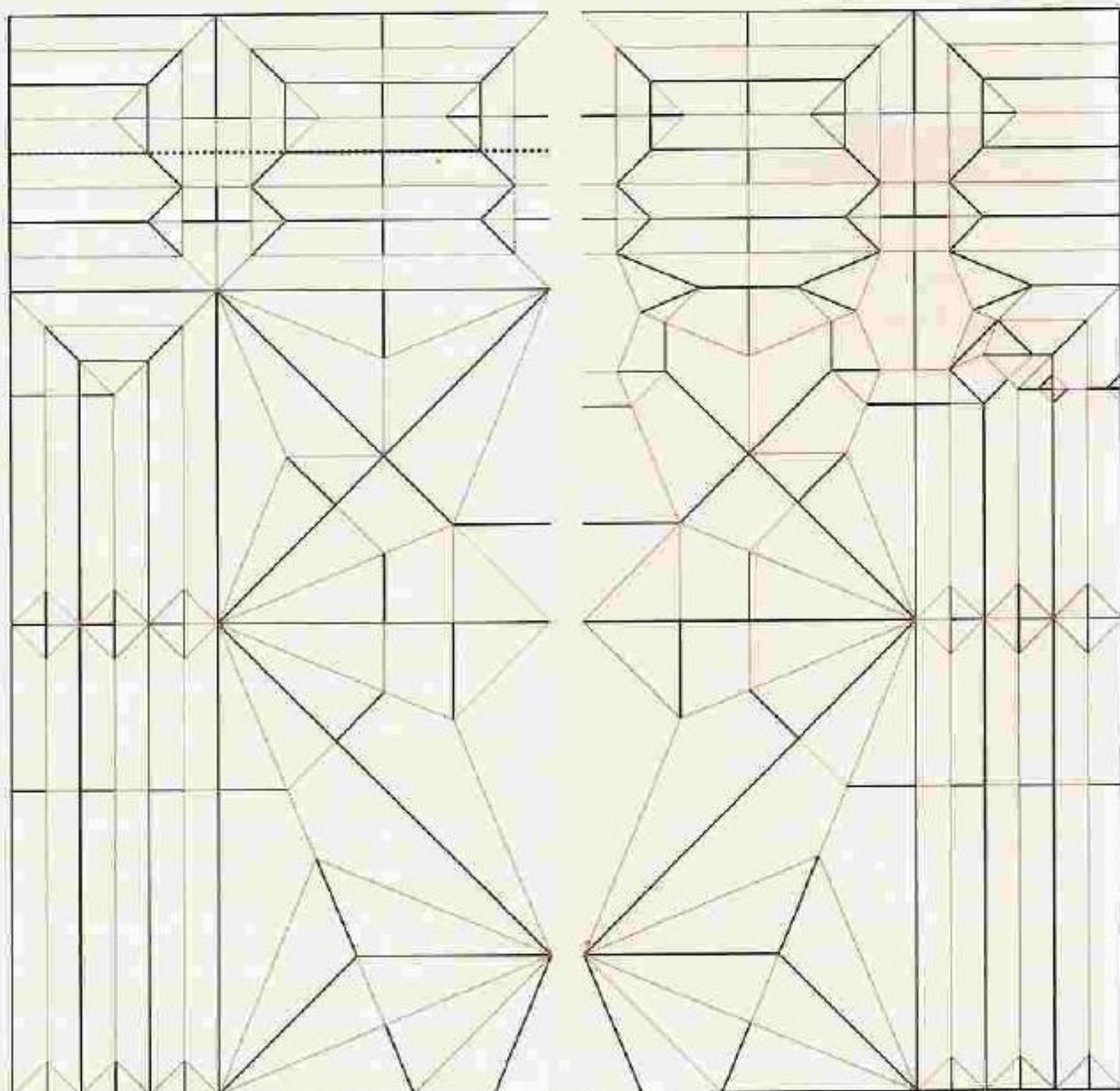
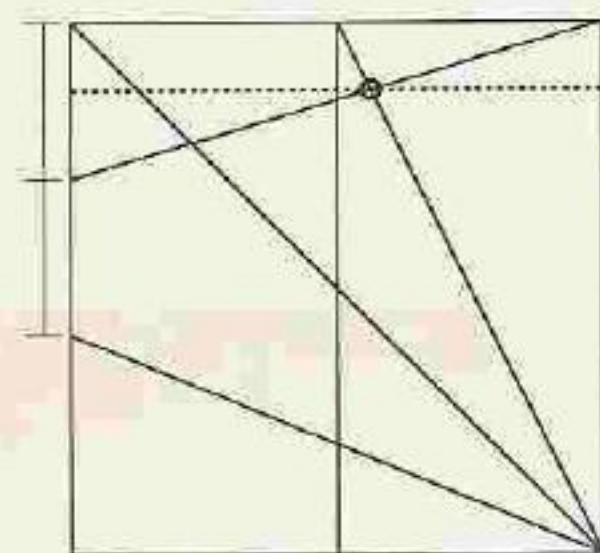
実は縦と横のヒダの幅が同じである必然性はなかったりしますが、小技としてヒダの幅を調整して合わせてあります。まずは右上の図で点線を折りだします。次に左側のように折り畳み、右側のように頭部を折り進めます。

頭部の造形は実はかなりの力技で出来ていて、結構強引に引っ張ったり押し込んだりしています。また、ぐらいの要素がかなり強く、私自身も折るたびに違う形になります。また構造上中心の頭と左右の頭は首の辺りが少し違う形に

なります。

左右の首の内側にあまっているヒダは適当に広げてのどから胸の毛にします。

前足はエンシェントドラゴンやウィザードと同じように半分を反対側に押しこむようにしてヒダを処理。「腹割れ」の構造になるためそのままと後足が内側に出てしまうので、外側に持ってきます。どちらも指先の中割り折りで爪を作って仕上げます。





Rabbit Ear

つまみおり

Information

◆第12回折紙探偵団 コンベンション参加募集開始

前号でお知らせしたとおり、今年は8月11,12,13日に会場を東洋大学からお茶の水女子大学に移して開催されます。関西コンベンションに続いて女子大での開催となります。東洋大学の時とは多少違って、制約があることをご理解の上で参加してください。(構内は禁煙など。)

◆参加募集開始

本誌到着から受け付け開始となります。同封の申込用紙に必要事項を記入し、郵送またはファクスで日本折紙学会事務局までお送りください。

事務局＝〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216 TEL&FAX/03-5684-6080

本誌の購読等にかかわらずどなたでも参加できます。お知り合い同士お誘いの上、お申し込み下さい。申込用紙が複数必要な場合、コピーをとって使用してください。

6月20日到着分の申し込みまで、初日到着分としてシャッフルし、教室受付優先番号をつけます。21日以降は到着順となります。お早めに。

◆初日特別講演会

現在決定している講師は、お茶の水女子大学名誉教授の細矢治夫さんです。専門は化学ですが、パズルや遊戯数学の研究者でもあり、科学教育にも尽力されています。折り紙の世界では、コロンブスの卵的な2枚組の立方体モデル「Hosoya's Cube」が、海外でも有名です。化学者の眼で見た多面体の折り紙やパズルなど、どんな話が聞けるのか、「お茶の水博士」の講演を楽しみにしてください。

そのほかに、現在交渉中の方が1人と、吉野一生基金招待者から1人の3名の講

演があります。

特別講演会は参加無料ですが、学内警備のために構内に入る際には参加証が証明書になりますので、事前登録が必要となります。特別講演のみ参加希望の方は切手を貼った返信用封筒(住所、名前を書いてください。)を同封の上、郵送で申し込みをしてください。

◆折り紙教室

シンプルな作品からスーパーコンプレックスまで、他では受けられない講習がいっぱい。作者自ら講師になる教室では、最新作や未発表作品に触れることができます。昨年好評だった展開図折り教室は、今年も企画されています。

教室は定員制で、受講申し込みは当日になる。この教室受付の順番は、6月20日到着分までをシャッフルして受付の順位を決め、その後は着順となるので、希望の講習を受けるためには、早めの参加申し込みが基本。97号に同封の申し込み用紙にて、参加受け付け開始となります。

◆折り紙教室講師& 指導員資格受験者募集

例年は受講生として参加してきたが、自信作・お気に入り作品をコンベンションで教えてみたいと思っているあなた。是非この機

第12回 「コンベンション折り図集」 原稿大募集

コンベンションに合わせて発行される折り図集への作品投稿を広く一般から募集しています。国内外を問わず年を追うごとに投稿作品数が多くなり、主催者としてとても喜ばしい限りです。自慢の楽しい作品(折り図)をお寄せください。

●応募資格 特になし。アマ・プロ、年齢不問。本誌購読者及び日本折紙学会会員である必要なし。採用者(ページ数の条件あり)には、掲載作品数に関係なく「折紙探偵団コンベンション折り図集Vol.12」を1冊進呈。

●応募作品の条件 創作もしくはアレンジの作品で、自作の折り図に限る。(アレンジ作品の場合は、オリジナルの原作者の了解を取った上で、名前も明記すること。)原稿はデジタルデータが基本となります。手描きの場合は状況(編集作業工程の問題で)によってとなります。

●「折り図投稿マニュアル」入手方法

ダウンロード=折紙探偵団ウェブサイトトップページから/郵便での取り寄せ=返信用封筒に80円切手を貼って送り先を記入の上、請求のこと。

会に講師をしてみませんか。もちろん講師経験者も大歓迎。指導員資格を持っているなら、実力を発揮するチャンスです。詳しくは、同封されている「講師参加のご案内」をご覧ください。

東京、神戸、名古屋の各地で開催される折紙探偵団コンベンションでは日本折紙学会が認定する「折紙指導員」資格を取ることができます。現在指導員資格を取得している会員は57名となり、各地で折紙指導員として活躍中です。今回のコンベンションでも受験者を募集しています。受験資格は日本折紙学会の会員であればどなたでも受けることができます。受験料は無料ですが、合格後の登録料として3,000円が必要となります。

◆お楽しみ懇親会

懇親会会場も、東洋大学から古巣の文京区民センターに変わります。コンベンション会場のお茶の水女子大学からは少し距離がありますが、バス・地下鉄・タクシー(4人で利用するとバスや地下鉄より安くて便利)などで移動することができるので、不便さは感じないでしょう。

老若男女の区別なく折り紙の話題で盛り上げられる場所となっているのが懇親会。言ってみれば、折り紙好きのための親睦パーティーです。ビュッフェ形式の食事は質・量とも満足のいくもので、食べ盛りの若者も納得できるはず。

◆第10回吉野一生基金招待者決定

故・吉野一生氏を偲んでスタートした海外との交流も10回目を迎える。今年はアメリカ、イギリス、フランス、韓国、コロンビアから12名の応募があった。誰が選ばれてもおかしくないほどの実力者ばかりであったが、選考委員の投票でフランスのニコラス・テリー(Nicolas Terry)氏、アメリカのブライアン・チャン(Brian Chan)氏の2名に決まった。ニコラス・テリー氏はコンベンション折り図集の常連投稿者。本国では著書もあり、著名な作家である。また、ブライアン・チャン氏はマサチューセッツ工科大学の大学院生。

ニコラス・テリー(Nicolas Terry)

コミカルなデザイン
のコンプレックス
作品を得意とし、
昨年には初の作品
集『Passion

Origami』を上梓。折り紙情報や世界の創作家を紹介するウェブサイト「Design in Origami」の運営でも知られる。

web site: <http://n.terry.free.fr/>



ブライアン・チャン(Brian Chan)

実は折り紙の名門校でもある、マサチューセッツ工科大学の大学院に在学中の26歳。折り紙設計を駆使した、精密な昆虫作品などを多数創作している。

website: <http://chosetec.darkclan.net/origami/>



2006年5月3日(水)・4日(木) ◆第7回折紙探偵団関西コンベンションレポート

今年は、会場が昨年までの神戸大学百年記念館から神戸女学院大学文学館に移って行われました。ヴォーリズ博士の設計による歴史ある校舎でとてもステキな建物でした。なんだか入っただけで、うれしくなりました。

文学館の入り口では、関西コンベンション名物の巨大折り紙(「パンダ」小松英夫・作、中村和也・製作)が参加者のみなさんをお出迎えです。

私は受付にいたのですが、ゴールデンウィークだったこともあって道路が渋滞して、車やバスで来られるみなさんがなかなか到着されなくて心配しましたが、なんとか無事に到着されて一安心しました。

今回は、お昼ご飯を食べに大学の外に出るのが大変だ(坂が、すごいので...)ということで、お弁当を前もって注文しても

らって、配達を頼みました。これは、お昼の心配をしなくてすむのでよかったと思います(他の方が食べているお弁当を見て「来年は、あちらのお弁当を食べてみよう」と心に誓ってたり)。

お昼ご飯のあと全体会が行われて、そのあとはいよいよ、ロバート・J・ラングさんの講演です。同時通訳付きの講演でした。ひとりひとり受信機を貸していただいて、聞きました。こういう体験は初めてでどうやって耳につけるの? なんて思いました。

1日目の講習は3コマ。無事に終了して、今度は楽しい懇親会です。会場が三宮だったので、みんなそれぞれと電車で移動しました。懇親会では、恒例の〇×クイズが行われてとても盛り上がりました。合計5ラウンド行われました。優勝者のみなさんすごいな。私は、ぜんぜんわからなくてすぐに

座ってしまいましたけど...

2日目も、よく晴れていて一日中建物の中にいるのがちょっともったいないかな? っと思いつつ、やっぱり折り紙が一番楽しいです。最後の全体会では、回収した名札でステキな(?)賞品があたる抽選会も行われました。村木家のみなさんが何も当たらなかったそうです。めずらしい(?)。

たくさんの方々とお会いできて、楽しくて、もうこれでおしまいなのかと寂しい気持ちになりましたが、みなさん次回は、夏の東京でお会いしましょうね!

(関西友の会・菅原 良子)



素敵な校舎とライフサイズのパンダがお出迎え



最年少の参加者水野 聖くん



会場スナップ



ラング氏のババの教室は二日間にわたった



中井氏のとら帽子(HIマーク)の教室。できあがった帽子で記念撮影。なんせ背景にはGマークが...



子どもの付き添いで参加したお父さん。はまっぺしたった様子



ん! 授業中じゃないよ。宙也くん? 徹折したのかな



ベテラン世浪氏も緊張気味で指導員資格を受験

◆新世代、象のライフサイズ製作TV出演

ライフサイズ(等身大)の象を折る。この話が舞い込んできたのは3月の例会だった(はず)。

4月の例会の後、東京の若手+大阪から例会に来ていた坪さんと象の講習を受けた。「適当に」「象っぽく」そんな会話で済んでしまうハイレベルな神谷さんの講習。非常に効率が良く、そして身の丈を遙かに超える紙でも折りやすい折り工程なのが凄い。

JOASホールオープニングパーティーで山口さんに折り紙Tシャツを頂き、その服で収録に向かう。収録当日、まずは紙を貼り合わせることから始まった。3.5m×7mの紙を目の前にすると、本当に折れるのかと不安になるほど大きい。それを2枚貼り合わせて7m四方の紙にする。

並のウェットフォールディングでは対応出来ないのもモップと雑巾を使い、紙を柔らかくしつつ折る。特に問題もなく約5時間の紙闘は終わり、仕上げに詰め物をしたり固定の作業を行った。

まずはモップを使ってウェットフォールディング開始



平面的な工程が終わる

目の前にそびえ立つ象は迫力があり、よく折ったなあというのが率直な感想だ。あとは自立するように木の枠組みを体内に仕込み、出演者を驚かせるという設定。

残念ながら作業工程はほとんど放送されなかったが、某出演者の「折り紙=オタク」的な発言がカットされたのは若手にとって救いになった。(川島英明)

(なお、今回制作されたライフサイズの象はしばらくの間JOASホールに展示されています。ホールは平日シャッターが降りていますので、ご覧になりたい方はおりがみほうずに声をかけてください。)



立体的な作業はお腹の中に入っている



できあがり。新世代がすつぽり中に入ってしまった

◆国際交流基金中米派遣

田中将司&神谷哲史

2月末~3月初めにかけて、田中将司さんと私神谷が国際交流基金より派遣され中米に行ってきた。実は当初は私神谷とM氏の2名を派遣という形で進めており、日程もつめて変更したのだが、残念ながらM氏の調整がつかず急遽田中将司氏に白羽の矢がたった。ちなみに田中氏は今回が初の海外らしい。初めての海外が派遣という特殊な状況、それも行き先は中米と地球の反対側である。いろいろ大変そうだ。

とりあえず成田のANAラウンジで田中氏と合流する。あ、田中氏の髪が短い。機内では展示用のユニット作品を折っていた田中氏の作品箱が添乗員さんに見つかり大人気であった。

非常に厳しいアメリカ入国審査でクタクタになりつつ、無事乗り換えて無事トリニダット・トバゴに到着。気温は日本の初夏くらいだろうか？ ちょっと蒸し暑いくらいだ。

今回最初の講習は小学生が対象、一応新作の「ウミガメ」を教えるはみたものの少し難しかったか？ 結局、以後の講習では伝承

や竹川作品、フラストレーションキューブ(作・川畑文昭)などが中心となった。

大使館の方からカナダにいた時に恐竜の折り紙の人が来たという話を聞いて、田中氏と「川畑さんだ」と盛り上がる。意外と狭いものだ。

パナマでは展示と講習の両方を行った。展示はちゃんとした什器を使うことができた。折り紙の展示はこの辺で差が出るのでかなり嬉しい。

講習の方はだんだんなれてきてスムーズに進められるようになってきて、最後に飛行機という定番パターンも出来てきた。通訳の方が折り紙経験者で、食事の時もスペインの伝承(と思われる)の飛行機を思い出しながら作っていたりしていた。

ニカラグアの講習ではなんと200名以上の参加者が集まってしまいどうなる事かと思ったが、無難な講習作品の選択などでどうにか終了。実はこの時、疲れがでたのか少し体調を崩していたのだが、折り紙をしてい

本格的な作品展示の什器



る時はすっかり忘れて完全復活していた。また、参加者の中にオリジナル作品も創っている本格的な折り紙マニアもいて、田中氏と互いのユニットパーツを教え合い、サイン入りで交換していた。

最後の国となるエルサルバドルではTV出演、モールでのデモ、講習などスケジュールがぎっしりで圧倒される。デモの時の質問コーナーで、『をる』を持ってきていないのか？ というマニアックな質問があった。どうもこの国にもちゃんと折り紙マニアがいるらしい。さすがに最後の国ともなると講習にもなれてきて、トリニダット・トバゴに比べると教える手順も良くなった。

最後に、いろいろ教えてみて感じたのは、折れる人は初めてでもそれなりに折れる、折れない人は折れないらしいという事。これはどうも国籍や年齢はあまり関係がないらしい。子供に教える機会も多かったのだが、どの国でも折った作品を大事そうに持ち帰るのが印象的だった。ちなみに、田中氏は結局旅行中ずっと時差ぼけが残っていたらしい。また、大使館の方によると私はとても楽しそうに教えていたらしい。意外な適性なのか？ (神谷哲史)



200名以上集まった会場で(少々緊張気味?)

田中氏と交流するニカラグアのマニア? ユニッター

◆JOASホール便り

徐々にではあるが4月から運用を開始したJOASホール。利用の仕方もいろいろと考えられるようだ。定例となってきた教室をはじめ、東京友の会の例会、また、夏のコンベンションのボランティアスタッフ会議、JOAS評議員会議と幅広く利用されている。そこで威力を発揮しているのがプロジェクター。大きな画面に映し出される映像を見ながらの進行はどの会でも大変好評である。ホールの利用方法については広く皆さんからのアイデアを募集していますので是非ご意見をお寄せください。



4月の例会＝渡辺大氏のカラーの講習



「知子の部屋」はゆったりしていて大変好評

■ヒントが提供され、自分で考える、という教室です。自分のペースで進めますから、どなたでも参加できます。きっとびっくりの発見があります。(布施知子)



北條高史氏の「弥勒菩薩半跏思惟像」皆さん完成

◆第2回折紙探偵団名古屋コンベンション日程決まる!

昨年に引き続き、第2回折紙探偵団名古屋コンベンションは名古屋芸術大学で開催されることが決まった。今回も大学側が大変好意的に受けてくれて、前回の盛り上がりそのままだ引き継いで開催することができそうである。

詳しい内容などは追ってお知らせするが、現時点で決定していることは以下の通り。

期日は11月18日(土)、19日(日)の二日間。「このコンベンションを当地に根付かせ大きく育てていきたい」と語る世話人の岡島氏はさらに、「今回、広報の手段として、愛知県と名古屋市教育委員会の後援を取

りつけることができ、名古屋市の後援も近期中に下りる予定」という。これにより、「ポスターの貼付や、マスコミへの対応も行いやすくなることと期待している」とのこと。また、名芸大が主催している社会人講座の中に「創作折紙講座」が加わることも決まり、東海友の会から5名の講師が派遣されることになった。創作折紙の社会的評価に繋がっていくものと期待している。

7月からは大学側の厚意で東海友の会の例会も名芸大で行われることになった。

岡島氏は「今後も大学側の厚意にお世話になりながら、大学との関係強化に尽力していきたい」と語る。

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場＝JOASホール(おりがみはうす隣)／参加費＝500円(中学生以下300円)／講習会＝14:00～／研究会＝16:00～

●6月3日(土)／JOASホール／作品：ダックスフント

●7月1日(土)／JOASホール／講師：未定／作品：未定

関西友の会 ※折り紙は各自持参

●6月10日(土)／会場＝長岡京市産業文化会館／14:00～17:00／参加費＝500円／講師：松原みち／作品：ピラミッドカラー(寺田徳重・作)

東海友の会 ※折り紙は各自持参

●6月17日(土)会場＝瑞穂青年の家／参加費＝大人500円(中学生以下200円)A教室前半…「ランドセル」講師：丹羽兎子、後半…「未定」講師：近藤哲也

B教室「ヤモリ(創作／前川淳)」講師：伊藤俊輔 展開図折りを勉強しよう!という教室。

■7月15日(土)は会場を名芸大に移す予定。

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

●7月2日(日)会場＝「紙友館ますたけ」増武ビル3F／参加費＝500円／時間＝10:30～12:00／問い合わせ：054-254-4541(増武内 山口16～20時)

■折り図では説明しきれなかった、立体的な仕上げ工程までを含めて楽しんでもらうことができたと思います。今後も、折り図が絶版となって入手しにくい作品を中心に、講習をおこなう予定です。(北條高史)

●今後のJOASホールの予定

◆「知子の部屋」参加費＝2,500円。6月17日(土)、7月15日(土)。毎月第3土曜日12:30-16:00。

◆北條高史「現代折り紙教室」5月28日(日)11:00-16:00(参加費＝3,000円)は「イカロス」、さらにその次の回(6月25日、参加費＝4,000円)には「作品に糊を入れる方法」を学べる講習会を実施します。(7月、8月はお休み。)

◆神谷哲史「ある折紙作家の教室」7月9日(日)11:00-16:00。(参加費＝3,000円)

■参加の申し込みはFAX(03-5684-6080)か、メール(info@origamihouse.jp 宛)をお願いします。これを利用できない場合は電話でも受けます。上記の予定は講師の都合により変更する場合があります。事前にお問い合わせください。(Tel 03-5684-6040)

●訂正とお詫び

第16期会員配布資料と本誌96号21ページに掲載された川畑文昭作「トナカイ」の写真は、正しくはアイリッシュエルク(おおつのじか)であり、論文中のトナカイとは別の作品でしたので、ここに訂正いたします。尚、アイリッシュエルクも、トナカイ同様、蛇腹折設計方法を用いて制作した作品です。

編集後記

■OTKC招待者のロバートさんと密着九日間。■愛車でロバートさんを成田に迎えに行きそのまま一緒に行動した。■静岡、神戸、徳島、香川、丹波篠山、彦根と回った長旅であった。■関西コンベンションはじめ藤本さん宅訪問、紙漣、温泉、お城と楽しんでいたのだと思う。■いい年をして車好きなので疲れもなく、とても楽しい旅であった。■こんなこと、あと何年くらい続けられるのかな…。(や)

ホームページ

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>
団員パスワード/Pyramid(大文字・小文字別)

折紙探偵団

2006年5月25日発行 第17巻1号通巻97号
発行所／日本折紙学会
〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人／西川誠司

編集人／山口 真

編集スタッフ／松浦英子、神谷哲史

デザイン／おりがみはうす

翻訳／立石浩一

発売元／おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価635円(本体605円)

■ORIGAMITANTEIDAN / No.97 / Published on 25, May 2006 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216
Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Cerberus" Produced by Kamiya Satoshi / Photographed by Matsuura Eiko / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

※このページの商品の取扱いはいすべて おりがみはうす です。日本折紙学会とは別になります。

広告のコーナー

I ♥ ORIGAMI

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.

ついに復刊しました。好評発売中!



空想おりがみ

川畑文昭 著/2,900円/送料420円
B5判/全180頁/カラー口絵4ページ

恐竜と空想動物18作品の折り方を収録。1995年6月初版発行。川畑文昭氏本人の作図により丁寧に折り方が説明されている。立体的でリアル、かつスタイルの良い作品ばかりが集められている。

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,000円	国内一律 1冊 420円 (梱包込) ※ 複数冊は 異なります	B5判/全228頁/カラー口絵4頁/19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,200円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫1」 川畑文昭・西川誠司 共著 山口 真 編	3,100円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/17作品収録 '93~'94年の「昆虫戦争」で誕生した作品の記録
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
折り紙色紙百花 田中具子 著 山口 真 編	2,500円		B5判/全120頁/カラー口絵8頁/31作品収録 色紙に貼り込んで飾る花の折り紙作品集
一生 スーパーコンプレックス おりがみ 吉野一生 著	2,900円		B5判/全200頁/カラー口絵8頁 トリケラトプス全身骨格を含む14作品収録
面~The Mask~ 布施知子 著 山口 真 編	3,300円		B5判/全200頁/全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
第9回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.11 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録
第10回記念 折紙探偵団 国際コンベンション 折り図集vol.10 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録
第9回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.9 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作45作品を収録
第8回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.8 日本折紙学会 編	2,000円		B5判/全256頁 国内・外の作家の秀作51作品を収録

※第1回~第6回の折り図集は全て絶版です

※書籍は郵便の「冊子小包」で発送しております。送料には梱包材代が含まれています

書籍複数の 送料ご案内	書籍2冊の送料は530円になります。(同じ書籍2冊でも同様)	例 外 「折り図集」又は「色紙百花」だけを3冊の場合 (例:折り図集8,9と色紙百花各1冊)のみ530円です
	書籍3冊の送料は670円になります。(例外を除く・右記参照)	

上記以外の場合はお問い合わせください/書籍と紙製品は別発送となりますのでご了承ください

商品名	価格(税込)	送料	内 容
洋紙にエンボス加工をしたちよがみ 花だより 30cm判	490円	国内一律 1~3セット 440円※	30×30cm/16枚入(2色×8枚) 桜柄の春らしい色調 ※和紙ではありません
洋紙にエンボス加工をしたちよがみ 木の葉 30cm判	490円		30×30cm/16枚入(4色×4枚) 葉っぱをモチーフにしたシックな柄 ※和紙ではありません
恐竜柄おりがみ用紙	1,000円	国内一律 1~2セット 440円	35×35cm/10枚入/70kgの 洋紙に細かい恐竜模様を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 3種類から 折り図つきセット 選べます	1,200円	3~5セット 630円※	1. ドラゴン(北條高史作) 2. ティラノサウルス(神谷哲史作) 3. カルノタウルス(神谷哲史作)

※紙製品は定形外郵便で発送しております(書籍とは別発送になります)。
送料には梱包材代が含まれています

只今制作中 発行日は未定です。気長に待っていて下さい
折紙図鑑「犬」/佐野康博・著 犬の折り紙第一人者の作品集
北條高史作品集/北條高史・著 あの名作の折り図も掲載予定

本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません
ご送金頂いてもお送りできませんのでご注意ください

商品の申し込み方法

冊数と料金をよくお確かめの上ご注文ください。

先に**郵便振替**か**現金書留**で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 **00120-9-715400**

加入者名 **おりがみはうす**

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。
※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。
※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。
※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。



ギャラリー おりがみはうす
〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp 10時~18時 日・祝休

■商品を複数ご注文の場合は、送料が変わってきます。電話又はメールでお問い合わせください。

広告有効期限:2006年7月25日

とってもおいしいぞー!! おろがみハンバダ 屋さん



¥200

ハンバダ屋さんに行った
みたいなトレイやペーパーナプキン
もつくれるよ!



株式会社ト-ヨー
ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。
※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡営業所 / 札幌出張所 / 松山出張所